521

授業科目名	**経営学入門**				
担当教員名	山下紗矢佳				
学年・コース等	1年ー4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ニュースや新聞などで見聞きする我々の身の回りで起きている現象の多くには企業や組織がからみ、ほとんどの問題は経営の問題として読み解くことができる。現代社会において極めて重要な役割を果たしている企業と、それを取り巻く様々な利害関係者の関係を取り上げる。経営学では、企業の経営資源や諸機能をどのようにしてマネジメントするのかという企業活動での事実の見方を学ぶ。本講義では、経営学の基本的な考え方と仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	経営学に関する知識	経営学の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営学に関する知識の応用	企業経営の現況を説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	50 %	： 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20 %	： 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10 %	： 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20 %	： コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編（2017）『【改訂版】業種把握読本－時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社. ISBN 9784904192719
吉村典久・田中一弘・伊藤博之・稲葉祐之（2017）『企業統治』中央経済社. ISBN 9784502225116
上林憲雄編著（2016）『人的資源管理』中央経済社. ISBN 9784502169618
関口倫紀・竹内規彦・井口知栄編著（2016）『国際人的資源管理』中央経済社. ISBN 9784502180019

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

配布資料や課題はGoogleクラスルームより公開する。資料の配布期日を過ぎてからの再配布はしない。課題の提出期日を過ぎてから提出は基本的に認めない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：講義の進め方の説明と経営学を学ぶ意義** 本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「経営学」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第2回	**経営学の全体像** 主として「企業」を研究対象とする経営学とはどのような学問であるのか、キーワードをもとに考え、企業の諸活動を概観する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第3回	**制度の選択（1）企業と会社の制度的な特徴** 現代社会を代表する会社形態である株式会社に焦点を当て、その特徴を考える。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第4回	**制度の選択（2）コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任** 企業・会社は誰のものか、企業・会社はどのように統治されているのか、あるいは統治されるべきであるのかといった問題について、企業を取り巻く多様な利害関係者の存在や企業の社会的責任に関する考え方をもとに検討する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第5回	**戦略の形成（1）経営理念、目的と戦略** 経営理念、ビジョン、経営哲学など経営を行うための考え方、価値観、規範に関して学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第6回	**戦略の形成（2）企業戦略** 「経営組織における戦略とはどのような概念であるのか」ということについて、基礎的事項を学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第7回	**戦略の形成（3）競争戦略と事業システム** 個々の事業分野での競争に勝ち抜いていくための戦略について基礎的事項を学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第8回	**組織の枠組（1）組織構造** 組織における行動について、組織全体のルールや仕組みといった構造的な側面から考える。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第9回	**組織の枠組（2）組織文化、コンフリクトのマネジメント** 組織の中における個人と個人の間の争いと部門と部門の間の争いが発生する原因とその対処方法、組織変革に関する考え方を学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第10回	**国際経営：海外進出企業の組織形態** 複数の国にまたがって行われる経営について学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間

第11回	**組織における人間への対応：リーダーシップ、モチベーション** 企業の目標達成に向けた行動について、個人と組織の視点から考える。さらに、「企業という組織の中で、人はなぜ働くのか」ということについて心理的側面から考える。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第12回	**人的資源管理の仕組** 組織と個人の関係の変化について検討し、キャリアとは何かを考えるとともに、自律的なキャリア形成のために企業が実施している仕組みについて考える。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第13回	**プロジェクトマネジメント** プロジェクトやチームの意義を理解し、どのように構築するのか、運営方法について学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第14回	**経営学の展望** 21世紀における企業のあり方について、持続可能な経営の観点から検討する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第15回	**まとめ** これまでの講義で学習した内容を振り返り、経営学を学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、経営学の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらう。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間

521

授業科目名	**会計学入門**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業は、株主・債権者を含む利害関係者に対して、財務諸表を通し、自社の財政状態や経営成績の報告を行っている。また、利害関係者は、この財務諸表を用いて、投資や融資を含む企業に関する様々な意思決定を行っている。従って、財務諸表における情報を読み取り、その内容を理解することは、企業の状態を知る際に非常に重要とされる。本講義は、財務諸表を構成する貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書の意義および仕組みを理解し、これらの分析手法について学習および理解することを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計学の基礎知識	財務諸表の内容を理解し、分析することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業の財務諸表から財政状態や経営成績を読み取り、問題点を発見できる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業内容の理解度を評価する。
課題の提出	30 %	： 学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。
期末テスト	40 %	： 授業で得た会計学の基本知識である財務諸表の内容とその分析方法の理解度を確認する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪商工会議所編	・『ビジネス会計検定試験　公式テキスト3級（第5版）』	・ 中央経済社	・ 2023　年

参考文献等

谷武幸、桜井久勝、北川教央編著『１からの会計（第2版）』碩学舎、2021年(ISBN：978-4-502-37151-6）。

桜井久勝『財務諸表分析（第9版）』中央経済社、2024年（ISBN：978-4-502-48991-4）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限目

場所：　個人研究室（西館２F）

備考・注意事項：　質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**財務諸表とは** 講義の進め方に関する説明 財務諸表の意義 財務諸表の役割と種類	テキスト第1章「「財務諸表」とは」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回	**貸借対照表（1）貸借対照表のしくみ** 貸借対照表とは 貸借対照表の様式および表示	テキスト第2章「貸借対照表」第1節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第3回	**貸借対照表（2）資産** 資産の概念と分類 資産の金額 流動資産、固定資産および繰延資産	テキスト第2章「貸借対照表」第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第4回	**貸借対照表（3）負債** 負債の概念と分類 流動負債および固定負債	テキスト第2章「貸借対照表」第3節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第5回	**貸借対照表（4）純資産** 純資産の概念と分類 株主資本、評価・換算差額等、株式引受権および新株予約権	テキスト第2章「貸借対照表」第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回	**損益計算書（1）損益計算書のしくみ** 損益計算書とは 損益計算書の5つの利益 損益計算書の様式 損益計算の3つのルール	テキスト第3章「損益計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回	**損益計算書（2）5つの利益** 売上総利益 営業利益 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益	テキスト第3章「損益計算書」第3節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回	**キャッシュ・フロー計算書（1）キャッシュ・フロー計算書とは** キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書と貸借対照表・損益計算書との関係	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回	**キャッシュ・フロー計算書（2）キャッシュ・フロー計算書のしくみ** キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回	**財務諸表分析（1）財務諸表分析とは** 財務諸表分析の関係者と対象情報 財務諸表分析の基本体系 分析結果の判断のための基準	テキスト第5章「財務諸表分析」第1節～第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回	**財務諸表分析（2）百分比財務諸表分析・成長性分析** 百分比財務諸表分析 成長性および伸び率の分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第5節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回	**財務諸表分析（3）安全性分析** 流動比率 正味運転資本 当座比率 自己資本比率	テキスト第5章「財務諸表分析」第8節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回	**財務諸表分析（4）収益性分析** 資本利益率 総資本経常利益率 自己資本利益率	テキスト第5章「財務諸表分析」第10節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第14回	**財務諸表分析（5）1株当たり分析および1人当たり分析**	テキスト第5章「財務諸表分析」第11節および第12節の復習	4時間

1株当たり当期純利益 株価収益率 1株当たり純資産 株価純資産倍率 1人当たり分析		

521

授業科目名	**ビジネス会計**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

簿記とは、企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のことを指す。簿記の目的は、企業の経済活動を記録することおよび企業の財政状態および経営成績を明らかにすることである。簿記システムから得られた情報は、企業経営者が経営管理を行う場合、債権者が企業への融資を判断する場合等、様々な場面で利用され、利害関係者が意思決定を行う際に非常に重要な役割を果たしている。従って、このように重要な情報がどのような仕組みを通して作成されているのかを本講義では学習していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業の財務諸表を作成するまでの簿記の一連の手続きに関する知識	企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		与えられた課題をやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題は主として問題集からページを指定して与えます。授業時間内に巡回し、個人の進度を確認します。また、授業中に確認テストも行います。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題の期限内提出	30 %	： 課題の期限内の提出とその内容により評価を行う。
小テスト	30 %	： 授業中内に行う小テストにより、授業中に学んだことの理解に対する評価を行う。
期末テスト	40 %	： 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができるかどうかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	・『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　商業簿記Ver.15.0』	・TAC株式会社　出版事業部	・2025　年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	・『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　商業簿記Ver.15.0』	・TAC株式会社　出版事業部	・2025　年

参考文献等

滝澤ななみ『みんなが欲しかったシリーズ　みんなが欲しかった簿記の教科書　日商3級　商業簿記　第12版』TAC株式会社　出版事業部、2024年（ISBN：9784300110065）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館２F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、簿記の意義** 会計の原理および簿記の仕組みについて理解する。	貸借対照表と損益計算書の役割、ひな形を覚える。勘定科目とグループを理解し、暗記する。テキストおよびトレーニングのテーマ01を読み、問題を解く。	4時間
第2回	**財務諸表と簿記の5要素、日常の手続き** 簿記上の取引を理解し、仕訳ができるようにする。総勘定元帳への転記と試算表、貸借対照表と損益計算書の作成までの簿記の一巡の手続きを理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ02および03を読み、問題を解く。	4時間
第3回	**商品売買I（三分法）** 商品売買について、掛けによる売買、手付金、内金および商品券に関する仕訳について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ04を読み、問題を解く。	4時間
第4回	**商品売買II（返品、諸掛り、商品有高帳）、現金・預金** 商品売買取引における返品、商品の移動にかかる費用などの仕訳について学習する。また、売掛金元帳、買掛金元帳および商品有高帳の作成方法について理解する。当座取引については当座借越の処理を理解し、仕訳ができるようにする。預金の種類および複数銀行口座の所有の場合の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ05および06を読み、問題を解く。	4時間
第5回	**小口現金、クレジット売掛金** 小口現金の帳簿のつけ方とタイミングを把握する。また、クレジット払いした場合の処理を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ07および08を読み、問題を解く。	4時間
第6回	**手形取引、電子記録債権・債務** 受取手形・支払手形の処理を理解する。また、電子記録債権・債務の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ09および10を読み、問題を解く。	4時間
第7回	**その他の取引I（貸付金・借入金、利息等）** 金銭の貸付けと借入れ、利息について理解し、仕訳ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ11を読み、問題を解く。	4時間
第8回	**その他の取引II（有形固定資産の取得・売却・賃借）** 有形固定資産の種類、有形固定資産の取得・売却・賃借、および差入保証金に係る処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ12を読み、問題を解く。	4時間
第9回	**その他の取引III（仮払金・仮受金、給与）** 仮払金及び仮受金の処理について理解する。従業員に対する一時的な立替払いや預り金の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ13を読み、問題を解く。	4時間
第10回	**さまざまな帳簿の関係** 当座預金出納帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳、売掛金元帳などの様々な帳簿の記帳方法を学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ14を読み、問題を解く。	4時間
第11回	**証ひょう** 取引の事実を証明する資料である証ひょうの種類およびその仕訳について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ31を読み、問題を解く。	4時間
第12回	**伝票** 伝票会計の理解と仕訳日計表ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ32を読み、問題を解く。	4時間
第13回	**試算表** 仕訳、総勘定元帳への転記、試算表の作成という一連の手続きについて学習する。	テキストにおけるテーマ15を読み、トレーニング問題を解く。	4時間
第14回	**主要な財務指標の種類と使い方**	配布資料より各指標の算定方法とこれらの指標により企業の財政状態や経営成績におけるどのようなことを知ることができるかを再度確認し、理解しておく。	4時間

財務諸表の基本と読み方、および流動比率、当座比率、自己資本比率等の主要な財務指標の種類と使い方について学習する。		

521

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	尾崎文則				
学年・コース等	1年ー4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社、コンサルティング会社、非営利組織におけるマーケティング実務経験。消費者調査を含む市場分析、マーケティング戦略の立案と実行に従事。（全14回）				

授業概要

企業によるマーケティングは、顧客にとって価値のあるものを創造し、伝達し、提供し、交換するために行われる一連の活動です。この授業科目では、こうしたマーケティングの基本的なフレームワークやコンセプトを学んでいきます。具体的にはマーケティングの定義、マーケティングプランニングの一連のプロセス（環境分析、STP、4P:製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、コミュニケーション戦略等）をテーマに講義とディスカッションを行っていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティングに関する体系的知識の習得	マーケティングに関する基礎的な理解ができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		情報収集に基づき、企業や地域のマーケティング戦略の分析・考察することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業での発言	30 %	： 授業中の積極的なディスカッションへの参加をワークシート内容に基づいて評価する
毎回の授業の小レポート	30 %	： 毎回の授業時に提出を求める小レポートの内容を選択式の問については正誤、自由記述式の問については独自のルーブリックに基づいて評価する
期末レポート	40 %	： 学習した内容に関しての理解度を独自のルーブリックに基づいて評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
恩藏直人・三浦俊彦・芳賀康浩・坂下玄哲	・ベーシック・マーケティング(第2版)	・同文舘出版	・2019 年

参考文献等

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人「コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理」（丸善出版、2014年、ISBN9784621066225）
恩藏直人 監訳「コトラー＆ケラー＆チェルネフ　マーケティング・マネジメント〔原書16版〕」（丸善出版、2022年、ISBN9784621307472）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業中は、マナーを守り他の学生の迷惑にならないように留意すること。授業での積極的な発言が期待される。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所：　西館 4階 個人研究室94

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：マーケティングとは？** この授業では、マーケティングの定義、マーケティングの対象、マーケティングミックス(マーケティング4P/マーケティング4C)の概要について理解を深めていきます。	＜予習＞なし ＜復習＞教科書の序章を読み、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第2回	**戦略的マーケティング** この授業では、戦略的マーケティングをテーマに企業の成長戦略とポートフォリオマネジメント、事業のドメインと競争戦略について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第1章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第3回	**マーケティングにおける環境分析** この授業では、マーケティングにおける環境分析をテーマにSWOTフレームワークに基づき、外部環境分析と内部環境分析について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第2章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第4回	**マーケティング・マネジメントの基礎** この授業では、マーケティング・マネジメントの基礎をテーマに、マーケティングSTPの枠組みに基づく形で、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第3章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第5回	**マーケティング・リサーチ** この授業では、マーケティング・リサーチをテーマに、マーケティング・リサーチの目的、プロセス、手法について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第4章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第6回	**消費者行動分析** この授業では、消費者行動分析をテーマに消費者の購買意思決定プロセスについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第5章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第7回	**製品戦略** この授業では、製品戦略をテーマに製品の定義・分類、製品開発のプロセス、製品ライフサイクルについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第6章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第8回	**ブランド戦略** この授業では、ブランド戦略をテーマにブランドの定義、ブランド・エクイティとアイデンティティ、ブランドビルディング、ブランドコミュニケーションについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第7章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第9回	**価格戦略** この授業では、価格戦略をテーマに価格戦略の意義と価格設定アプローチについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第8章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第10回	**コミュニケーション戦略** この授業では、コミュニケーション戦略をテーマにコミュニケーション戦略とコミュニケーションミックスについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第9章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第11回	**チャネル戦略** この授業では、チャネル戦略をテーマに流通の機能と構造、マーケティングチャネルの設計と管理について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第10章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第12回	**サービス・マーケティング** この授業ではサービス・マーケティングをテーマに製品とは異なるサービスの特性とマーケティング戦略、そして製品とサービスの統合について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第11章を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間

第13回	**デジタル・マーケティング** この授業ではデジタル・マーケティングをテーマに、デジタル環境下のマーケティングミックスについて理解を深めていきます。	＜予習＞事前配布資料を読みましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第14回	**まとめ** この授業では、最終回として、これまで学んできた内容を全体的に振り返りながら、包括的な体系立てを行いながら、マーケティングに対する全体的な理解を深めていきます。	＜予習＞教科書のうち、理解が不十分と考えられる箇所を読み返しましょう。 ＜復習＞期末レポートに取り組みましょう。	4時間

521

授業科目名	**経営統計入門**				
担当教員名	海野大・上阪彩香・關戸啓人・岡本有加・前田博美				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。

前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	統計的なものの見方，記述統計（クロス集計，ヒストグラム，平均・分散，相関関係），確率論，推測統計（区間推定，仮説検定）等の基本的な統計理論	データから情報や知見を得るための考え方や手法，データの可視化，代表値や相関係数の概念と計算方法，区間推定や仮説検定の概念，目的，計算方法について理解し，実際に計算できるようになる．
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		データから統計的な手法を用いて課題を発見し，分析することができる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	70 ％	： 毎回授業の後に、小テストを実施します。
定期試験	30 ％	： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス 改訂第2版（内田 誠一 他著、ISBN：978-4065379394、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義資料やその他の資料は適宜配布する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義** 記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第2回	**データからの情報抽出（1）　尺度水準、量的データの要約** 統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第3回	**データからの情報抽出（2）　質的データの要約** 質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第4回	**データからの情報抽出（3）　データの可視化** データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第5回	**データからの情報抽出（4）　変数の変換** 標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第6回	**データからの情報抽出（5）　相関と因果** 相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第7回	**データからの情報抽出（6）　回帰** 回帰直線及び決定係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第8回	**データからの情報抽出（7）　まとめと補足** 第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。	第１回目から7回目までの復習を行う。	4時間
第9回	**統計的推測の考え方（1）　推測統計の基礎** 標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第10回	**統計的推測の考え方（2）　標本分布と信頼区間** 標本分布及び信頼区間について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第11回	**統計的推測の考え方（3）　統計的検定の基礎** 統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第12回	**統計的推測の考え方（4）　t検定** 対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第13回	**統計的推測の考え方（5）　カイ二乗検定** 適合度の検定及び独立性の検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第14回	**統計的推測の考え方（6）　まとめと補足** 第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。	第9回目から13回目までの復習を行う。	4時間

521

授業科目名	**特別リレー講義（ザ・プロフェッショナルズ）**				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2・3・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手保険企業、外務省、シンクタンク2社、格付機関などで企業戦略、国際事業、日本の外交、日本のIT戦略、世界各国の政治経済分析、本邦及び海外の企業の分析等を担当（平賀：全14回）なお本講義に招聘する各講師は、担当する当該授業テーマに関する専門家です。				

授業概要

本授業は，外務省の大使経験者，SDG専門家のシンクタンク所長、大手航空会社の役員経験者の客員教授、大手観光企業の海外駐在および現地拠点経営の経験者および有力シンクタンクの研究員である派遣講師、と内外の重要事項に関する知見や経験の豊かな方々を講師に迎え、日本と世界の外交の現状、国際協力やグローバル展開する航空会社の取り組みやSDGs、航空事業や観光業の動向、異文化経営、少子化等の重要課題についての理解を深め視野を広げることを目標とします。世界情勢の動向を知り、国際政治や経済、グローバル企業等に関心を深め、広い視点から物事を考察する習慣を習得できるよう授業を展開します。さらに各回の講師となる一流の専門人材（ザ・プロフェッショナル）から、人生やキャリアにおける重要点、転換点、エピソード、メッセージなどを直接伺うことは受講者にとって得難い貴重な機会となります。受講者の理解を促進する観点から、本学教員の平賀が導入、解説や補足等を行います。参加メンバーには、単なる受け身の受講姿勢ではなく、積極的な発言・質問、グループ討議へ参画を求めますので、その意欲がある方の参加を求めます。したがって、授業への出席は当然として、授業に積極的に参加する意思・意欲がない方の履修はお勧めしません。本授業はハイブリッド授業（各講師「オンデマンド授業」と「教室での対面授業」の隔週実施）を予定します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	世界・日本における重要点・課題や対処方法等を理解する。	世界・日本における重要点・課題や対処方法等の知識・考え方をベースに各自の業務の実施や課題の対処に活用・応用できる。
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		世界・日本の重要事項・課題について、グループ討議や、意見・コメントの発信で、的確にコミュニケーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

参加メンバーには、単なる受け身の受講姿勢ではなく、積極的な発言・質問の姿勢と取り組みを求めます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

加えて、各講師独自の方針・方式によるフィードバックがあります（各講師から紹介予定）。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業各回のレポート（リアクションペーパー）	70 %	： 各回の授業の理解度を示す内容、文章表現力を評価します。授業日から1週間の期限後の提出は原則として認めません。
期末レポート	30 %	： 講義の中で、特に関心をもった講師とそのテーマを一つ選択し、習得した知識や考え方等に関するレポートを作成します。その説明力・文章表現力を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各講師が、それぞれの講義開始の前までに十分な期間を確保しつつ、課題として読むべき資料、参考とすべき資料などを案内します。

履修上の注意・備考・メッセージ

予定講師

・吉川元偉 客員教授（国際基督教大学特別招聘教授、元国連大使・常駐代表）
・野田 仁 客員教授（元駐ルーマニア特命全権大使）
・川村雅彦 客員教授（（株）Sinc 統合思考研究所 所長・首席研究員、元ニッセイ基礎研究所ESG研究室長）
・岡田晃 客員教授（ANA総合研究所客員研究員、同研究所元社長）
・和泉宏明 講師（株式会社JTB シニアディレクター（前国連世界観光機関(UN Tourism)駐日事務所 企画部長））
・天野馨南子講師（ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー）
・平賀富一（大阪成蹊大学 教授、ニッセイ基礎研究所 客員研究員）：本科目のファシリテーターを兼務する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3限

場所：　西館3階44研究室

備考・注意事項：　客員教授等非常勤の講師にはメール等で質問可能とします（必要に応じて平賀がアシスト予定）。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の進め方と受講に当たっての基礎的な情報に関するレクチャー** 外交交渉、外交における政府の役割、SDGｓ、国際航空運送と航空事業、異文化経営、少子化、アジア新興市場などについて、各講師による授業のベースとなる基礎的な情報や論点案、基本文献などを紹介する。履修生は、授業内容を踏まえて、基本的な情報などを各自が調べ、各講師の授業での質問事項を検討し・抽出する。	この時点における各講師への質問事項案などを検討し、その後、次回授業に関する指定資料を読む。	4時間
第2回	**日本の抱える領土問題（元国連大使によるレクチャーと課題の提示）** 下記の項目に関するレクチャーを予定。 1.日本のおかれた位置を知る。日本の地政学的な位置づけを学ぶ。 2.国家の領域とは？国際法の基礎知識を学ぶ。 3.日本の領土をめぐる問題（以下の４つの問題についての歴史と現状） その１：奄美群島、小笠原諸島、沖縄諸島（注:解決済み） その２：北方領土 その３：竹島 その４：尖閣諸島 4.日本の抱える領土問題の解決は可能かについて考える。 第3回で発表してもらう課題および予習事項を説明する。そのための参考文献を提示する。	講義の指定資料を読み、課題・予習事項を学習する。	4時間
第3回	**日本の抱える領土問題　（課題の発表・討議と質問への回答）** 前回の授業内容について、質問に答え、補足解説を行う。与えられた課題についてグループで討議し、クラスで発表・討議する。	日本の抱える領土問題について授業を復習し課題を検討・理解する。第4回の講義に関し、他国（又は地域）で行われるその国内（域内）での選挙の、国際社会や日本への影響等について、日々の公開情報（新聞、テレビ、その他一般的な報道等何でも。また、年間を通じて、たまたま目に入ったものや断片的なものなどで、可。）に関心を向け、また、そこから気のついたことの考察に努める。　（今後特定の参考文献等が与えられる場合には、それも参考とする。）	4時間
第4回	**各国の政治情勢の最近の動向** いわゆる自国第一主義、極右、ポピュリズムといった考え方の台頭を含めて、各国の政治情勢の最近の顕著な変化につき、その内容、経緯や背景などを、考察してみる。また、こうした変化が対外的に（他国や国際社会に対して）影響を与える可能性等について、ある程度紹介する。（さらに、翌週の教室での授業のための学修課題とする内容を、具体的に提示する。） （考察対象とする具体的な国や地域については、授業が実際に行われる時期までの各国等の政治情勢の推移等を見つつ、適当な事例をできればいくつか選択する（２０２５年年初の時点では、例えば、米国、欧州やいわゆるグローバルサウスのいくつかの国が対象となり得ることを念頭に置いている。）。）	日ごろから、世界各国、特に国際社会への政治的、経済的な影響力の大の国や地域、グループを中心に、それら各国（地域）の最近の政治情勢の動向について、関心を持ち、一般に目に触れる情報（伝統的な報道や電子的なニュースサイト、刊行された書籍等）でよいので、把握、理解、考察などに努める。　（特に、これまで民主主義、自由主義、市場経済等について国際社会で指導的な役割を果たしてきている米国や欧州のいくつかの国（地域）においても、最近、その基本的な理念や政策に変動の見られる例が生じているところ、上記の「関心」等には、これらの国（地域）への注目を含める。また、やはり最近、グローバルサウスと呼ばれる諸国への国際的な注目が増大しているところ、それら諸国の政治動向や国際社会における位置、役割についても視野に入れてみる。）	4時間

第5回	**各国政治情勢の変容の国際的な影響や対応** 前週で紹介した各国等の国内政治情勢の変容とその国際社会への影響の可能性を出発点に、実際にどのような対外的な影響が発生しているか、また他国や国際社会はそれにどのように対応しているか／対応すべきか、特に日本にはどのような影響があって日本はそれにどのように対応しているか／対応すべきか、といったことを、予め考察したことも基に、さらに理解を深め、議論する。 例えば、本年１月に発足した米国の新政権（トランプ元大統領の再就任）は、前政権（バイデン政権）の下での国家運営の理念の多くを否定、政策面で次々に転換を打ち出していくことが予想されているところ、授業の時点までの現実の進展を理解し、それらと他国や国際社会との関係（影響やそれへの対応）を考察して議論する。この考察や議論には、日本との関係を含める。 また、これら種々の側面での情勢の実際の推移にもより、授業の時点で適当であれば、民主主義、自由主義、市場経済、いわゆるグローバリズムといったこれまでの思想や秩序自体に生ずる影響も考える。	第4回・第5回の授業で理解した各国等の政治情勢の最近の動向やそれらが国際社会に与える影響の可能性を基に、実際に発生している影響について、やはり困難なく入手可能な情報（一般的な情報で可。）から得られる理解に努める。特に、米国の新政権が掲げている国家運営の理念や具体的な政策措置が対外的に与えてきている影響について理解に努め、またそれらに対する他国や国際社会（日本を含む。）の側からの対応等について理解に努める。	4時間
第6回	**グローバル・イシューとしてみたＳＤＧｓと企業の役割（主要点のレクチャーと課題の提示）** 2030年までに持続可能な地球社会の実現をめざすＳＤＧｓについて、17の各ゴール（到達したい姿）と現状のギャップを理解する。そのうえで特定のゴールについて、CSR（自社ビジネスに伴う社会環境へのインパクトに対する責任）とCSV（自社の強みによる課題解決型のビジネス開発）を、企業の業種特性に応じた先進事例を紹介する。次回のグループ討議・発表の段取りを伝える。	SDGsの重要点について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
第7回	**グローバル・イシューとしてみたＳＤＧｓと企業の役割（課題の検討・討議と補足解説・質問への回答）** グループごとに指定した仮想の企業（製造業、サービス業、ICT業、金融業 ）について発表・質疑を行う。その後、講師よりコメントする。併せて、サステナビリティに関する企業の経営者や従業員の心構えも解説する。	SDGsの重要点について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4時間
第8回	**国際航空輸送のこれまでと今後の展望** 国際航空輸送の変遷、島国日本における航空輸送について、コロナ前後の訪日外国人の動向も踏まえ、その将来像を説明する。次回の授業でグループ討議、発表を行うための予習事項を提示する。	国際航空運送や航空会社の経営について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
第9回	**国際航空輸送のこれまでと今後の展望（課題の検討・討議と補足解説・質問への回答）** 課題についての討議・発表。その後、補足説明および質問への回答を行う。ビジネスパースンとしての心構えなどの講話も含める。	国際航空運送や航空会社の経営について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4時間
第10回	**異文化マネジメントの現場から学ぶ ～現地法人経営のリアル～** 海外四か国９年間の大手観光企業における海外駐在経験の概要を説明。各国の習慣や文化の違いを明示したうえで、次回の授業でグループ討議・発表を行うための予習事項を提示する。	外国と日本の違いについて復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
	異文化マネジメントの実例から、大手観光企業の現地法人経営で直面する課題や成功の秘訣を解説。現場のリアルな体験を通じた実践的な知識を共有する。		
第12回	**日本の少子化問題に対する誤解の蔓延と科学的解決手法の検討** 社会問題に関してChatGPTなどを用いた「過去の議論のまとめ」検討は、そもそもその問題への「社会の致命的な誤解」がある場合、全く意味をなさなくなる。特に少子化問題に関しては現状、科学的にみて有効な解決手法が導き出される状況になっていない。統計的エビデンスに基づく日本の少子化問題の解決手法を学び、情動的解決に依存しない演繹的解決脳を身に着けることを目標とする。	出生減について、統計的なエビデンスに基づく政策策定（EBPM）について理解する。次回の講義の課題を行う。	4時間
第13回	**日本の少子化問題に対する誤解の蔓延と科学的解決手法の検討（関係地域別解決手法の検討）** 第１２回の授業をもとに、自らの出身地や居住地の少子化問題の解決手法を、グループディスカッションをもとに検討する。	少子化に関する重要事項について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
第14回	**本講義全体のまとめ** 本講義全般に関する振り返りとまとめを行う。加えて、その時点に相応しいアジア新興国関連などのトピックスの解説も行う予定。	本講義全体で学んだことや考えた重要事項の振り返りを行う。	4時間

521

授業科目名	**人文地理**				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	1年ー4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業のテーマは、人文地理学とはどのような学問か。どのような見方・考え方で、どのようなことに、どのようにアプローチするのかということを出発点として、人文地理学を学ぶと何がわかり、どんなことの役に立つのかという問いに様々なテーマの事例を通して答えることである。
そのため、まず人文地理の資料・表現方法として最も重要な地図の基礎的事項を学ぶ。次に、環境、資源、観光などのテーマについて、様々な情報を駆使して地域を読み解き、事象の分布やまとまりにみられる空間的な規則性・傾向性とその要因を考察する人文地理学の知恵と技を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地理学の学問体系（系統地理学、地誌学、自然地理学、人文地理学などの関係）、地域的特色を理解するための読図技能 人文地理学の用いる基礎的な専門用語とその概念	人文地理学の学問的な位置付けを説明できる。 人文地理学に関する基礎的な用語の使用法を区別できる。 地図の読図に関する基礎的な作業ができる。

汎用的な力	
1. DP８.他者とのコミュニケーション	人文地理学の見方・考え方を用いて、地域の事象について自らの考えを述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時に取り組む課題	40 %	： 読図作業は、作業への取り組み度合、記述適切さ・具体性・独自性などから評価する。 地域の事象に対する自らの考えは、人文地理学の見方・考え方の使用の有無および記述の具体性・独自性などから評価する。
定期試験	60 %	： 人文地理学の学問体系については、地理学における人文地理学の位置付けを論理的に説明できるかを評価する。 人文地理学に関する基礎的な用語については、その使用法を区別できるかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『みわたす・つなげる人文地理学』（上杉和央・香川雄一・近藤章夫編、古今書院(2021)、ISBN:9784772281218)
『現代人文地理学の理論と実践 - 世界を読み解く地理学的思考』（ハバード,フィル・キチン,ロブ・バートレイ,ブレンダン・フラー,ダンカン著、山本正三・菅野峰明訳、明石書店(2018)、ISBN:9784750347417)
『人文地理学への招待』（竹中克行編、ミネルヴァ書房(2015)、ISBN:9784623072293)

『現代社会の人文地理学』（稲垣　稜、古今書院(2014)、ISBN:9784772231626）
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日４限

場所：　西館４階研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：人文地理学とは何か** 地理学の学問体系における人文地理学の位置付け、人文地理学の見方・考え方について学びます。	予習：シラバスを通読しておいてください。復習：イントロダクションの配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第2回	**地図表現とその活用** メンタルマップ、世界地図、地球儀など世界を大観する方法の違いを学びます。	予習：大陸、海洋、主要な国・都市などの地表の構成を確認しておいてください。 復習：「地図表現とその活用」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第3回	**地図が創り上げた世界観と歴史** 地図の発達とそれらが創り上げた世界観を概観し、世界を大観する際の注意点について考えます。	予習：あなたが最も適切だと考える世界地図を用意し、その理由を考えてください。 復習：「地図が創り上げた世界観と歴史 」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第4回	**地形図の読図** 地形図に関する基礎的事項を確認し、その読図作業を通じて、地域的特色を見出す視点を学びます。	予習：国土地理院のHPで地形図を閲覧し、自身の居住地周辺の地形図表現を確認しておいてください。 復習：「地形図の読図」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第5回	**環境論** 文化地理学の環境論の視点から、人間活動と環境の関係について考えます。	予習：世界にはなぜ「豊かな地域」と「貧しい地域」が存在するのか自身の考えをまとめておいてください。 復習：「環境論」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第6回	**環境問題** 人間と自然環境との関わりを考える基礎的概念の地球環境システムについて学び、環境問題の整理の方法について学びます。	予習：「環境問題」と聞き最初に思いついたものについて調べておいてください。 復習：「環境問題」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第7回	**エコロジーの実践と葛藤** 環境保全型農業成立のしくみからエコロジー実践の条件について、地域固有の資源の議論からエコロジーの葛藤について考えます。	予習：環境保全を目指した農業の例を調べておいてください。 復習：「エコロジーの実践と葛藤」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第8回	**地域資源** 地域資源管理の問題および食文化の地域資源化のもたらす結果について考えます。	予習：「資源」と聞いて思いつくものをなるべく多くリストアップしておいてください。 復習：「地域資源」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第9回	**観光と地域** ツーリストの分類とその特徴、観光地のライフサイクルモデルから、観光と地域の関わりについて学びます。	予習：ツーリストの定義について調べておいてください。復習：「観光と地域」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第10回	**地域イメージ形成と地域の変容** 地域イメージ形成過程およびその影響など、地域イメージのもたらす役割について学びます。	予習：これまでに訪れたことのない国・地域をあげ、それらにどのようなイメージを持っているかを整理しておいてください。 復習：「地域イメージ形成と地域の変容」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第11回	**余暇・観光における空間的行動（ゲスト）** 余暇活動・観光行動の空間的特性から、ツーリスト空間、集客圏、観光地間の関係について学びます。	予習：ここ数年で余暇活動・観光で訪れた場所をリストアップしておいてください。 復習：「余暇・観光における空間的行動（ゲスト）」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間

第12回	**余暇・観光における空間的行動（ホスト）** 旅行商品の供給体系の変遷から、観光地間の空間的な相互関係の特徴について学ぶ。	予習：web等でパッケージツアーのパンフレットを一読し、そこであげられている観光地にどのような特徴があるのかを考えておいてください。 復習：「余暇・観光における空間的行動（ホスト）」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第13回	**観光空間の形成** ディズニー化という視点から、近年の観光空間形成の原理や特徴について考えます。	予習：ディズニー・テーマパークが顧客を引き付ける理由を考えておいてください。 復習：「観光空間の形成」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第14回	**授業のまとめ** 授業全体のまとめを行い、人文地理学の見方・考え方で事象を考える意義を確認します。	予習：シラバスと配布資料を通読し、これまでの授業資料からキーワードを抜き出し、整理しておいてください。 復習：これまでの講義資料の整理、キーワードリストの作成など試験の準備学修をしてください。	4時間

521

授業科目名	**短期海外研修**				
担当教員名	辛川敬・中野毅・デイヴィス恵美				
学年・コース等	1年集中	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	（辛川）40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり。 （中野）長年にわたり外資系航空会社の日本支社での営業、営業企画、および本社勤務に携わり、航空業界における豊富な経験と知識を持つ。 （デイヴィス）大手日系電機メーカーのイギリス現地法人において、ヨーロッパ圏内の販社営業を担当し、販売戦略などに関する資料作成やプレゼンテーションも担当した。				

授業概要

学生一人ひとりが自分の将来のキャリアを見据え、習得したいスキルにつながる研修を選択します。ホームステイをしながら語学力を伸ばしたり、多文化共生社会の中に飛び込んで異文化コミュニケーション力を磨いたり、文化的・言語的背景の異なる人々のコミュニティ活動に参加することにより、自文化の価値を見つめ直す機会を得たりします。出発前には研修に備えるための事前学習を行います。帰国後には英語での報告書とプレゼンテーションにより、自らの体験を振り返り、共有しあうことで今後のキャリア形成の一環として集大成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	英語コミュニケーション能力	異なる言語を使った生活環境において、相手を理解しようと努める姿勢と、自分の言いたいことをきちんと伝える力を身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	異文化への理解	自分とは異なる考え方、習慣があることを知り、違いを尊重することができる。
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		お互いを正しく理解するために、困難を回避するのではなく、間違いを恐れず果敢に状況に向き合う姿勢を身に着ける。
2. DP９.他者との協調・協働		海外でのトラブルや危険を避けるために、集団行動におけるルールを守り、自分の役割をきちんと果たすことができる。
3. DP10.忠恕の心		他文化を自文化と同じように敬い、尊重する気持ちを持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・その他(以下に概要を記述)

目的地、研修期間、研修内容はそれぞれのプログラムごとに異なる。
事後報告書を提出し、２年次以降のキャリア形成に繋げていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
現地プログラムにおける取り組み	60 %	： 現地での生活環境において課題に対し主体的に、責任ある行動で学んだか、プログラムの趣旨に照らして成長がみられるかという観点から、現地報告に基づいて評価する。
事前学習への取り組み	20 %	： 事前学習に積極的かつ主体的に取り組めているか、出された課題や書類には期限を守り、適切に対応できているかという観点から評価する。
期末レポートと発表		： 期末レポート（報告書）およびプレゼンテーションの質、量について、設定したルーブリックに基づいて評価する。提出期限に遅れた場合には減点の対象となる。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

神田外大×東京外大「英語モジュール」

履修上の注意・備考・メッセージ

各研修の準備として、多くの書類を期日までに提出することが求められます。
また、重要書類を帰国日まできちんと管理する必要があります。緊張感をもってのぞんでください。
もちろん、出発までの体調管理も非常に重要です。心配がある方は早めに相談してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回オリエンテーションで指示します。

場所：　初回オリエンテーションまでに指示します。

備考・注意事項：　各自相談が必要な場合は各研修プログラム担当教員にメールでアポイントメントをとってください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**短期海外研修の目的の理解** 各研修の概要と目的の理解 出発までのスケジュール 研修先の環境について 提出が必要な書類について	必要書類の準備や作成、自己紹介の練習	2時間
第2回	**各研修先について** 各研修先の国についての基礎知識 各研修先の都市についての調査計画 書類の提出と確認 世界の英語（World Englishes）について	各国についての調査、緊急連絡先の報告	2時間
第3回	**滞在先について** グループの決定と自己紹介 滞在先の都市についての調査内容の発表 渡航に役立つ英語表現 目標シートについて	研修にあたっての質問リスト作成、目標シート	2時間
第4回	**現地生活に備える** 現地生活における注意事項 各滞在先での心得 荷物の準備の仕方 目標シートの提出	現地の生活に必要な情報収集や準備	2時間
第5回	**課題の理解と危機管理** 危機管理講習 滞在中および帰国後の課題の理解 １）振り返りワーク ２）現地調査 ３）英文報告書 ４）プレゼンテーション	保険の支払いやアプリ登録、現地調査の計画	2時間
第6回	**出発前最終確認** 空港での集合、グループ移動、確認、報告について 保険の確認 滞在先の確認 航空券（eチケット）の見方、他	出発のための準備	2時間
第7回	**渡航と滞在方法** 空港での出発前最終ガイダンス グループでの渡航 ホストファミリー先／寮／ホテルの確認 各滞在先のルールの理解 到着の報告	振り返りワーク（渡航～到着）	2時間
第8回	**研修先でのオリエンテーション** 研修場所までの到達方法の理解 研修先でのオリエンテーション内容の理解と書類記入	振り返りワーク（最初の週末とオリエンテーション）	2時間
第9回	**現地での第1日目** 研修内容についてと滞在先での体験 各国文化、研修先言語でのタスク指示、生活に必要な用語などについて学ぶ 滞在都市の主要な場所を訪問し都市の特徴をつかむ。交通機関のしくみを理解する	現地課題、振り返りワーク	2時間
第10回	**現地での第２日目** 研修内容についてと滞在先での体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ 仲間づくりのための積極的なコミュニケーションにいどむ 滞在先の多様な人種、文化について学ぶ	現地課題、振り返りワーク	2時間
第11回	**現地での第３日目**	現地課題、振り返りワーク	2時間

	研修内容についてと滞在先での体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ 仲間づくりのための積極的なコミュニケーションにいどむ 滞在先の多様な人種、文化について学ぶ		
第12回	**現地での第４日目** 研修内容についてと滞在先での体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ 仲間づくりのための積極的なコミュニケーションにいどむ 滞在先の多様な人種、文化について学ぶ	現地課題、振り返りワーク	2時間
第13回	**現地での第５日目** 研修内容についてと滞在先での体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ 仲間づくりのための積極的なコミュニケーションにいどむ 滞在先の多様な人種、文化について学ぶ	現地課題、振り返りワーク	2時間
第14回	**振り返りレポートの作成** プレゼンテーション原稿の作成 プレゼンテーション用のスライドの作成 発表練習	個別指導教員からアドバイスを受ける	2時間

521

授業科目名	**国際観光概論**				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	1年ー4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、旅行、宿泊、運輸業をはじめとするさまざまな観光ビジネスと地域との関わりやその果たす役割について包括的に理解を深めることを目標とする。わが国では、観光を通して交流人口を増やすことによる地域活性化や経済波及効果への期待が高まっている。一方、地方では外国人旅行者の受け入れ体制づくりが行われているが、観光産業における経営の後継者不足や若者の地方離れによる人手不足が顕著である。こうしたわが国の観光ビジネスの可能性と課題について理解を深め、解決策を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	観光の歴史・専門用語・仕組みの理解	観光とは何かについて、観光の専門用語・現代社会における観光の仕組みについて基礎知識を得る。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光に関する知識	インターネットや書籍の情報をもとに、観光業界の特徴的な動向を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握することによって、観光における課題や今後のあり方について考察することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
小テスト・受講態度	20 %	：	毎回の授業内容から出される小テストの答えを提出してもらい、平常点として成績に反映する。
中間テスト	40 %	：	次の観点から評価する。１．授業内容をどの程度理解しているか、２．理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
定期試験（筆記）	40 %	：	観光学の基礎知識を用いて自身の意見を述べる問題。次の観点から評価する。１．観光学の基礎知識の正しい理解、２．現代の観光における問題点を指摘し、その解決のための方案を探ることまでつなげられるのか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国枝よしみ・岡田晃編著	・ 新しい観光学	・ 千倉書房	・ 2023 年

参考文献等

前田　勇　編著（2015）『新現代観光総論』学文社(ISBN9784762029172)
岡本 伸之 編著（2001）『観光学入門』有斐閣(ISBN4-641-12130-3)
岡本 伸之 編著（2013）『観光経営学（よくわかる観光学)』朝倉書店(ISBN978-4-254-16647-7)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室（西館２階）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・広がりつつある観光産業** 学習内容や評価方法、受講においての注意事項などについて説明したうえで、広がりつつある観光産業について学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	**「観光」の概念/歴史** 「観光」および観光に関連することばの意味と現代観光の基本的構造と構成要素について学びます。また、現代の観光がどのような社会的背景の中で発展してきたかについて観光の歴史を通して学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅行、マスツーリズム）	4時間
第3回	**観光資源とニューツーリズム/持続可能な観光** 観光対象の基本的性格や観光対象の類型、対象の素材としての観光資源の定義や分類について学びます。また、ニューツーリズムの概念やそれぞれの定義について理解し、ニューツーリズム推進に関する取組について学びます。さらに、持続可能な観光とは何かについて理解してもらいます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニューツーリズム、持続可能な観光、デ・マーケティング）	4時間
第4回	**旅行ビジネスの過去・現在・未来** 旅行がビジネスとして確立してきた歴史と背景について学びます。また、旅行ビジネスがもたらす交流創造（人的交流・地域交流）について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：トーマス・クック、FIT）	4時間
第5回	**観光とテクノロジー** 観光関連分野の企業がテクノロジーを導入する目的やテクノロジーの急速な進化による観光関連産業や観光地での活用状況について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テクノロジー、OTA）	4時間
第6回	**航空ビジネス** 航空運送事業の特性や航空会社の組織と仕事について概観したうえで、航空業界の現状や将来について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：航空輸送事業、航空ネットワーク）））	4時間
第7回	**ホテルビジネスの現状と今後の展望** ホテルビジネスの概要と仕事の基本知識について理解するとともに、それぞれの職種で求められる知識やスキル、資格を明らかにし、ホテルを職業として選択した場合のキャリアパスについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅館業法、ホテルマネジメント）	4時間
第8回	**今までの授業内容のReviewと中間テスト** 今迄の授業内容を振り返り、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	**テーマパークとイベント事業** テーマパークの定義や遊園地との違い、その特性について学びます。また、観光におけるイベントの役割とイベントツーリズムについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テーマパーク、イベント）	4時間
第10回	**ホスピタリティ** ホスピタリティとは何か、なぜ重要なのかについて理解し、サービスとホスピタリティの違いについて学びます。さらに、航空運送事業の特性とホスピタリティの関係について理解したうえで、航空会社（ANA）の実践例を通して航空業界におけるホスピタリティを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピタリティ、接客過程モデル）	4時間
第11回	**観光マーケティング** 経営学分野であるマーケティング理論を観光に応用し、観光業界に携わる企業の観光マーケティング活動について解説します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、SWOT分析）	4時間
第12回	**観光政策/観光まちづくり**	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：DMO、体験交流型観光）	4時間

	観光分野において国や地方公共団体が、政治や行政を行う上での考え方や方針のことである観光政策について学びます。また、観光まちづくりとは何かについて理解したうえで、アフターコロナ時代に一層注目される観光まちづくりの考え方について学びます。		
第13回	**ブランドと観光** ブランドについて理解し、観光におけるブランドの使われ方、そしてプレイスのブランドがその国、地域、場所にどのように貢献するのかについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランディング、ブランド・イメージ）	4時間
第14回	**食と地域振興** 食とツーリズムに関連する、フードツーリズム、ガストロノミーツーリズム、アグリツーリズム、ワインツーリズム、スローフード、地産地消などのコンテンツについて学びます。また、食の地域資源を利用したまちづくりによる地域振興の事例を通して、食と地域振興との関連性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：フードツーリズム、地方創生）	4時間

521

授業科目名	**旅行ビジネス論**				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	1年-4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営マネジメントを担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。（全14回）				

授業概要

将来において経済成長を担うとされている観光産業において、日本と世界、地域と社会、人と人を結ぶ旅行業はその中心的役割を持っている。その旅行業について、旅行会社が果たしてきた役割や社会的価値に注目し、経営の面からその特性を明らかにする。グループワークでは、具体的な旅行商品造成に挑戦しその成果を共有する。また、最近注目の着地型観光、地域交流ビジネスについて、そして旅行業に求められる人材についての講義も含まれる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	旅行産業における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につける	旅行業の職務に係る問題解決のためにその専門性を応用できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		旅行ビジネスの課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

国内、海外旅行企画のグループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
定期試験	30 %	:	試験の素点に基づいて到達度を評価する。
授業への参加	20 %	:	毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
グループワークとプレゼンテーション	30 %	:	グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
リアクションペーパー	20 %	:	毎回の授業の終わりに提出のレポートで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

立教大学観光学部旅行産業研究会編著（2019）『旅行産業論（改訂版）』日本交通公社。
ISBN-10:4902927829/ISBN-13:978-4902927825

履修上の注意・備考・メッセージ

・日々のニュースから、観光に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限（13:10～14:50）

場所： 松田研究室

備考・注意事項： メールで質問等も受け付けます（matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp)。その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方：旅行業とは** 授業の進め方、目標を説明する。 「旅行」と「観光」の定義を踏まえた上で、旅行業の範囲を理解する。さらに旅行業の将来の姿を考察し、旅行業に求められる能力を理解する。	教科書、第1講、1章、2章、3章を読み、旅行業について基本的な定義と範囲を理解しておく。	4時間
第2回	**旅行業の社会的役割と存在意義** 旅行業の歴史を踏まえ、旅行業の社会的役割と存在意義を理解する。 以降毎回の授業の後半30分で行う旅行商品を企画するグループワークについて説明する。	教科書、第2講、1章、2章を読み、旅行業の産業としての自立過程を理解しておく。実際に旅行会社の店舗を訪問し、自身の興味ある国内旅行商品が入ったパンフレットを次回授業に持ち寄る。	4時間
第3回	**旅行契約形態と企画旅行商品について** 旅行会社の企画する旅行商品を理解する。旅行商品とそのバリューチェーンを理解する。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第1回）	教科書、第3講、1章、2章を読み、旅行会社にとっての企画旅行商品を理解しておく。グループワークの準備。	4時間
第4回	**旅行業の経営について** 旅行商品の特性と旅行会社の経営特性を理解する。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第２回）	教科書、第4講、1章、2章を読み、旅行会社の創る商品とその経営の特性を理解する 。グループワークの準備	4時間
第5回	**旅行マーケットについて** 時代とともに変化する国内旅行、海外旅行におけるそれぞれのマーケットと旅行商品を理解する。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第３回）	教科書、第5講、1章、2章を読み、国内、海外旅行のマーケットの変遷と現状を理解しておく。国内旅行企画発表会の準備をする。	4時間
第6回	**旅行マーケットの成長、成熟後の現代の抱える問題点について** 旅行マーケットの時代を追っての変化と、旅行者の旅行形態の変化を理解し、その変化をもたらした要因を探る。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第４回）	教科書、第6講、1章、2章、3章を読み、旅行マーケットの現状と問題点を理解しておく。国内旅行企画発表会の準備をする。	4時間
第7回	**旅行会社のビジネス展開について（販売ルート）** 旅行会社が具体的にどのような販売ルートを持っているかを理解する。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行企画成果発表会）	教科書、第7講、1章、2章、3章を読み、旅行会社の店頭販売、メディア販売、インターネット販売について理解をしておく。	4時間
第8回	**外部講師による講義：旅行業における公正競争規約（表示規約）企画商品の変遷** 旅行業法と景品表示法の関連について理解し、実際の景品表示法違反などの事例から学ぶ。	実際に旅行会社の店舗を訪問し、旅行商品についての気づきを４００字程度のレポートにまとめ発表できるようにしておく。授業後提出要。	4時間
第9回	**旅行会社のビジネス展開について（販売ターゲット）** 旅行会社が具体的にどのようなターゲット設定、販売方法を取っているかを理解する。 企画旅行商品の変遷を踏まえ、現在と将来の戦略について理解する。また、後半の旅行企画のグループワークについての課題を考える。	教科書、第8講、1章、2章、3章を読み、旅行会社が販売のターゲットとする出張ビジネス、法人・教育旅行、MICEについて理解しておく。グループワークの準備。	4時間
第10回	**インバウンド事業について** 昨今急激な伸びを示すインバウンドマーケットについて、その変遷と現状、ビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第１回）	教科書、第9講、1章、2章を読み、インバウンドビジネスについて理解しておく。グループワークの準備。	4時間

第11回	**旅行会社の予約販売システムについて** 旅行会社の予約販売システムと、世界の旅行関連システムを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第２回）	教科書、第10講、1章、2章を読み、旅行会社の予約販売システムの変遷と、航空会社の予約システム等の世界の旅行関連システムを理解しておく。グループワークの準備。	4時間
第12回	**旅行マーケットのグローバル化について** グローバルな視点での旅行産業の動向と、世界の旅行会社のビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第３回）	教科書、第11講、1章、2章、3章を読み、旅行会社のグローバル化について理解しておく。グループワークの準備。	4時間
第13回	**地域観光について** 着地型観光、地域交流ビジネスにおける旅行会社の役割を理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバンド企画成果発表会/前半）	教科書、第13講、1章を読み、地域における観光による６次産業化の概念を理解しておく。海外旅行企画成果発表会の準備をしておく。	4時間
第14回	**旅行産業の危機管理と社会的価値について** 観光における危機管理の特徴と、旅行会社の役割を理解する。旅行産業の教育的・社会的価値について理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画成果発表会/後半）	教科書、第13講、2章、3章を読み、旅行産業における危機管理と、社会的価値について理解しておく。海外旅行企画成果発表会の準備をしておく。	4時間

521

授業科目名	**観光政策論**				
担当教員名	辛川敬・デイヴィス恵美・樫本英之・中野毅				
学年・コース等	１年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

国や当該地域の観光を振興するための観光政策について学びます。前半は基礎編として、国や地域の観光政策の変遷や現状、実例を学んだ上で、近年の重要トピックスとして食・お土産、宿泊、案内人等に関する政策や取組施策等について学びます。
後半は、それらの学びを踏まえて、複数の受講者によるグループワークで、教員が選定する地域を対象として、観光情報のリサーチや分析等を踏まえて、観光戦略プランを検討し、発表を行います。それらにより、自分事として観光政策について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光政策の基礎知識と立案方法	観光政策に関する歴史や多様な姿等を学び、グループワークを通して、観光政策の目的やめざすあり方について考える力を身につけることができる。
2. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	観光は運輸、宿泊、飲食、物販など非常にすそ野の広い産業分野と関連しており、それら産業との連携の視点からも観光政策を学ぶ	観光が非常に多分野多岐にわたる産業と関係していることを学ぶとともに、自分の将来のキャリア発見の参考にできる
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、地域の課題を発見し、地域にふさわしい観光のあり方を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ふりかえりシート・受講態度	40 %	： 前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。
グループワーク	40 %	： 後半のグループワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。
期末テスト	20 %	： 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に都度提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は短期海外研修の参加を前提とします（同時履修登録）。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時にお知らせします

場所： 各教員の研究室

備考・注意事項： 質問等はメールでも対応します。
メールアドレスは、初回授業で伝えます。
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光政策を進める意義や日本における問題点等について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回	**国の観光政策** 国の観光政策や観光に関係する政策（国土計計画、自然公園、文化財等）の歴史的経過や現状や抱える問題等について学び、これからのインバウンド政策や国内旅行政策、地方創生、さらには世界的に要請されるサステイナブルツーリズム等について考えます。	国の観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第3回	**都市部の自治体における観光政策** 都市部の自治体における観光に関する課題や観光政策、DMO等を中心とする観光ガバナンスについて学ぶとともに、事例を通して、観光政策の立案方法や立案プロセスについて学びます。	都市部の自治体における観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第4回	**地方部の自治体における観光・地域活性化政策** 過疎地域など地方部の自治体においては、観光に関する期待が非常に高くなっています。そうした地域における問題や観光政策、活性化政策、ガバナンス等について学ぶとともに、事例を通して、政策等の立案方法や立案プロセスについて学びます。	地方部の自治体における観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第5回	**食やお土産と観光政策** 食やお土産は旅行における魅力の大きな部分を占めます。ミシュランやＢ級グルメ等の食、いちご狩りなどの観光農業、秘密のケンミンショウなどに見られる特産品などです。それらの現状や産み出す取組等について学びます。	食やお土産と観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第6回	**宿泊と観光政策** ホテルや旅館以外に、民泊や農泊、まち宿、キャンプ、車中泊など観光における宿泊は多様化しています。またネットによる予約システムが主流になってきており、それらについて学び、その問題点や今後のあり方について考えます。	宿泊と観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第7回	**案内ガイドと観光政策** 旅行や観光の質を高める大きな要素に、その資源や地域を案内するガイドやインタープリターの存在があります。テレビ番組でも地域のスポットや人を訪ね歩くプログラムが流行っています。また、近年はスマートフォンを活用した音声ガイドやVR、ARも含めた案内が出現しつつあります。さらに、インバウンドに対応する通訳ガイドの役割も大きくなっています。これら旅行や観光における案内ガイドの意義や現状、問題点、今後のあり方について考えます。	案内ガイドと観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第8回	**観光政策の推進と体制・人材** 観光政策の推進に関わる人材や体制について学びます。観光政策は一般に、行政が事務局を担いつつ、観光協会などの観光団体、商工会議所や商工会、関連する事業者、そして市民等が連携しながら進めています。 また近年設立が広がっているDMO（観光地域づくり法人）や、地方で活躍する人材候補となる地域おこし協力隊制度についても学びます。	観光政策の推進と体制に関するふりかえりシーとの作成・提出	4時間
第9回	**観光政策立案演習のガイダンス** 第9回～第14回に実施する観光政策立案演習の内容と進め方の解説を行います。対象地域はあらかじめ選定します。グループワークとして取り組むため、グループ決めを行います。	グループメンバーにおける役割分担や連絡手段等の検討。	4時間
第10回	**対象地域の観光に関するリサーチ** 配布するシートを活用し、対象地域の観光に関するリサーチ（観光データ、観光資源、取組等）、をインターネット等を使って行います。	事前に対象地域について地域の概要や観光資源について下調べしておく。必須ではないが、グループで対象自治体の視察を行う。	4時間

第11回	**観光戦略の検討（現状データ等からみた課題の発見・設定）** 配布するシートを活用し、SWOT分析等により、観光戦略について検討します。講義中に、適宜、質問を受け付け、必要に応じて助言を行います。	関連する事例等を調べてみる。	4時間
第12回	**観光戦略の検討（事例等を踏まえた観光戦略の立案）** 第11回を踏まえて、観光戦略についてまとめ、プレゼン資料を作成します。	発表の練習をしておく。	4時間
第13回	**発表会（前半）** 観光戦略について、グループごとに発表を行います。自分のグループの発表だけではなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。	自分と他グループの発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第14回	**発表会（後半）とまとめ** 第13回の続きを行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。	自分と他グループの発表及び講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

521

授業科目名	**観光資源論**				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	2年ー4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。（全14回）				

授業概要

観光資源とは、人々が観光行動を起こすための観光対象（観光魅力）の「源」になるものです。それらは実に多様であり、時代のニーズや人々の欲求によって変わってくるものです。
その観光資源の保全や活用・開発等について、事例を通じて学ぶとともに、ワークを通じてそれらについて自ら考える能力を養います。
特に、受講生自身が主体的に調べ、分析し、方策を検討し、事例を調べ、プレゼン資料として作成し、みんなの前でプレゼンを行い、意見交換するというアクティブラーニングを採用することにより、観光資源の実態や保全・活用についてリアルに感じ、考える機会を提供します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光資源の多様な捉え方と発見方法	観光資源に関する歴史や多様な捉え方等を学び、自分の視点で観光資源を発掘し、活用さらには地域振興について考える力を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、観光資源を見出し、それに関する課題等について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度・提出物	40 %	： 基本的には毎回ワークシートを提出してもらいます。その提出状況と、通期の受講態度で評価します。
ミニPBLワーク	50 %	： ミニPBLワークを２回行います。その取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。
期末レポート	10 %	： 講義全体に関する理解度や意欲を測るレポート作成を期末に行います。その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2022）『新しい観光学』千倉書房、ISBN978-4-8051-1275-5

NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編　(2016)『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、ISBN978-4-7615-2635-1
JTB総合研究所編　(2021)『観光学基礎-観光に関する14章』JTB総合研究所
酒井順子著　(2003)『観光の哀しみ』新潮文庫、ISBN4-10-398503-8

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
アドレスは、授業で伝えます。
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光資源の定義及び観光と自分との関わりを考えてもらいます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回	**観光政策と注目される観光資源、観光資源の保全・開発** 最新の観光政策とその中で注目される観光資源について学びます。さらに、その観光資源のほぜにゃ開発について事例を通して学びます。	第2回講義のふりかえり	4時間
第3回	**ミニPBL①；観光資源の活用フィールドワークの準備** 身近な地域で注目した観光資源を選定し、その観光資源について公開情報をもとにリサーチするとともに、フィールドワーク調査の実施計画を作成する。観光資源の対象は、尼崎城あるいは高槻ジャズストリートにしてもよい。	第３回講義のふりかえり	4時間
第4回	**ミニPBL①；観光資源のフィールドワーク調査** 第3回で決めた観光資源について、自ら現地に赴き、フィールドワーク調査を行い、レポートとしてまとめ、提出する。	第４回講義のふりかえり	4時間
第5回	**ミニPBL①；現地調査に基づく観光資源の活用策の検討** 現地調査を踏まえて、観光資源の活用策について検討するとともに、関連する事例等についてリサーチを行い、プレゼン資料としてまとめる。	第5回講義のふりかえり	4時間
第6回	**ミニPBL；現地調査に基づく観光資源の活用策の提案（プレゼン＆意見交換）その１** 自分で選定した観光資源の活用策の提案について、プレゼンと意見交換を行う。	第６回講義のふりかえり	4時間
第7回	**ミニPBL；現地調査に基づく観光資源の活用策の提案（プレゼン＆意見交換）その２** 自分で選定した観光資源の活用策の提案について、プレゼンと意見交換を行う。	第７回講義のふりかえり	4時間
第8回	**観光資源のいろいろな保全と活用（事例編）** １～７回の授業を踏まえて、さらに多様な観光資源を対象に、保全と活用策について、事例を交えて学ぶ。	第８回講義のふりかえり	4時間
第9回	**ミニPBL②：地域らしい食及びお土産（レクとリサーチ編）** 観光資源の重要な要素としての食とお土産に注目し、地域らしい食とお土産について講義を行う。	第９回講義のふりかえり	4時間
第10回	**ミニPBL②：地域らしい食及びお土産（リサーチ編）** 奈良県の食とお土産を対象とし、人に贈りたい視点、人にご馳走したい視点から選定し、その特徴についてまとめる。	第10回講義のふりかえり	4時間
第11回	**ミニPBL②：地域らしい食及びお土産（プランニング編）** 奈良県の食とお土産を対象とし、人に贈りたい視点、人にご馳走したい視点から選定し、その特徴と問題点、さらにそれを踏まえた提案について、プレゼン資料としてまとめる。	第11回講義のふりかえり	4時間
第12回	**ミニPBL②：地域らしい食及びお土産（プレゼン＆意見交換編）その１** 第９回～11回で検討・作成したプレゼン資料について、プレゼンし、みんなで意見交換を行う。	第12回講義のふりかえり	4時間
第13回	**ミニPBL②：地域らしい食及びお土産（プレゼン＆意見交換編）その２** 第９回～11回で検討・作成したプレゼン資料について、プレゼンし、みんなで意見交換を行う。	第13回講義のふりかえり	4時間
第14回	**授業のまとめとふりかえり** 第1回～第13回の授業全体のふりかえりを行うとともに、期末レポートに関する説明を行う。	第14回講義のふりかえり	4時間

521

授業科目名	国際経営総論				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	1年ー4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA)、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全14回）。				

授業概要

現代においては、企業活動が国境を越えさらにグローバルな視点から経営と事業活動を行い成果を挙げることが、多くの企業の重要な経営の目標や課題として重要性を増しています。本講義は、企業活動のグローバル化に関する企業経営のあり方について、国際経営に関する基礎的な知識・理論を学び、最新の動向やトレンドにも焦点を当てて重要点を解説し、国際経営に関する基本的な理解を深めます。国際経営の基礎的な知識は、海外市場での企業活動だけでなく、国内で海外からの顧客をターゲットとするホテル等観光関連の企業、日本市場で活動する外資系企業や、外国人幹部や社員が活躍する日本企業の活動にも大きな関りがあります。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を分かりやすく解説するとともに質疑応答を行います。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月１回程度併用する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	国際経営に関連する基本的な事項・知識を理解する。	国際経営に関する基本的な事項・知識について説明できる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		国際経営に関わる基本的な課題につき、文献含む各種情報を主体的に収集・分析し活用でる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

授業方法はクラスの規模等に応じて適宜変更する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
小レポート（リアクションペーパー、毎回）	30 %	:	授業内容を踏まえた記述を評価対象にします。授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。授業日から1週間の期限後の提出は原則として認めません。
テキスト各章の発表	10 %	:	テキストの各章を分担し、単独で発表していただきます。満点を１０点で評価、発表なしの場合は0点です。
授業内クイズ	20 %	:	国際経営に関する基本的な事項を質問し、各授業時間内で回答いただきます。
期末試験	40 %	:	国際経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができているかを基準にして評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中川功一・林正・多田和美・大木清弘	・はじめての国際経営 ISBN978-4-641-15017-1	・有斐閣	・2015 年

参考文献等

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社　ISBN:978-4-88334-266-7

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習（課題の解答案の作成を含む、以下同じ）をすること。本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・経済・社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するよう心掛けてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、テキストの各章別の分担発表、毎回のリアクションペーパーや課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 西館3階44研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、国際経営とは何か** 国際経営とはどのようなものかについて、国際経営が日常化している状況や、国際経営の難しさ、企業が国際経営を行う理由などについて学びます。	教科書の第1章を読んで、国際経営に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。	4時間
第2回	**海外直接投資の理論** 海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論についての基本を学びます。	講義の内容を、教科書の第2章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外直接投資やその理論に関する理解を深めます。	4時間
第3回	**多国籍企業による国際競争の歴史** 国際経営の主たる担い手である多国籍企業について、その歴史的な変遷を振り返り学びます。そこでは、米国企業、欧州企業、日本企業による競争環境の変化などを取り上げます。	講義の内容を、教科書の第3章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本企業も含む多国籍企業の歴史的な変遷や競争環境の変化に関する理解を深めます。	4時間
第4回	**多国籍企業の国際経営の事例** 代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営の特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書の第1-3章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し多国籍企業と国際経営についての理解をより深めます。	4時間
第5回	**国際経営のタイプとトランスナショナル経営** 国際経営のタイプや、その進んだ形であるトランスナショナル経営とはどのようなものであるか、国際経営で重要なグローバル統合とローカル適応という考え方を学びます。	講義の内容を、教科書の第5章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際経営のタイプとトランスナショナル経営や、グローバル統合とローカル適応に関する理解を深めます。	4時間
第6回	**海外子会社の経営** 海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の設立の方法・形態、子会社の役割などについて学びます。	講義の内容を、教科書の第6章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外の子会社の経営やその設立などに関する理解を深めます。	4時間
第7回	**国際マーケティング** マーケティングとは何か、国際マーケティングと国内マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第7章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。	4時間
第8回	**国際マーケティングの企業事例** 前回の授業で学んだ国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	講義の内容を、教科書の第7章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、国際マーケティングについての理解をより深めます。	4時間
第9回	**海外生産と国際拠点展開** 海外での生産の意義・目的、拠点設立と運営の重要点、国際的な生産ネットワークについて学びます。	講義の内容を、教科書の第8章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外生産の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第10回	**海外生産の企業事例** 前回の授業で学んだ海外生産に関し典型的な多国籍企業の事例で学びます。	講義の内容を、教科書、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、海外生産についての理解をより深めます。	4時間

第11回	**研究開発の国際化** 研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか（立地の選択）、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。	講義の内容を、教科書の第9章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第12回	**国際的な人的資源管理** グローバル人材や国際人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第10章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、グローバル人材や国際人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第13回	**日本企業の国際経営** 日本企業の国際経営の現状と課題、今後の発展に求められる重要事項について、分かりやすい事例も紹介して学びます。	講義の内容を、教科書の第12章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本的経営の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第14回	**本講義のまとめ** 本講義で取り上げた重要事項について講義全般を振り返ってさらなる理解を深めます。	本講義の重要点を復習し、講義全般に関する理解を深めます。	4時間

521

授業科目名	国際機関論				
担当教員名	田中翔				
学年・コース等	1年ー4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

現代の国際社会では、安全保障や人権、経済、貧困、環境、文化、技術など幅広い政策分野において、国際機関が重要な役割を果たしています。約200年に及ぶ国際機関の歴史には戦争が深く影響してきた側面がある一方、共通の利益や脅威など人々の認識も関わってきました。特に急速かつ広範なグローバル化が進んだ現代においては、国際機関の営みが私たち個人に与える影響を無視することはできません。本授業では、国際機関とは何かを歴史、特徴、役割など様々な視点から学ぶとともに、その活動内容を通して現代の国際社会を考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	国際機関の歴史、特徴、役割、活動内容についての理解	国際機関はどのような歴史的背景の中で誕生したのか、国際機関にはどのような種類のものがあるのか、国際機関の果たす役割は何か、国際機関の活動内容にはどのようなものがあるのか、重要なキーワードを用いながら自分の言葉で説明できるようになる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		現代の国際社会におけるテーマについて、自分が興味を持った理由、関連する国際機関の活動内容、そのテーマについての自分の主張を自分の言葉で説明できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業でのリアクションペーパー	30 %	： 毎回の授業終わりに講義内容についてまとめたリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーの内容から、講義の理解度を評価します。
授業内ミニテスト（2回）	40 %	： 授業内でミニテストを2回実施し、講義内容の理解度と論述を評価します。
期末レポート	30 %	： 期末レポートを1回実施し、講義内容の理解度と論述を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田哲也『国際機構論入門　第2版』（東京大学出版会、2023年）ISBN: 978-4-13-032236-2

吉村祥子、望月康恵編著『国際機構論　活動編』（国際書院、2020年） ISBN: 978-4-87791-305-2

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の直後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントを取っていただけるとスムーズです。
質問はメールでも受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：国際機関論とは何か** 本講義の目的や進め方、評価方法を説明します。また、国際機関論とは何かについて、学問的な射程範囲と、授業で取り扱う内容の射程範囲を説明します。	国際機関に関連するニュースを各自で調べてみてください。	4時間
第2回	**国際政治とは何か：主権国家体制と現代の国際政治** 国際機関を理解する上での基礎となる現代の国際政治について「主権国家体制」をキーワードに学びます。	主権国家体体制とはどのようなものであり、どのような経緯で生まれたのかについてまとめてください。	4時間
第3回	**国際機関の歴史①：戦争と共通利益** 国際機関の成り立ちについて、戦争や共通利益の観点から学びます。	国際機関の成り立ちについて、戦争や共通利益の観点からまとめてください。	4時間
第4回	**国際機関の歴史②：国際連盟と国際連合** 国際連盟の成り立ちと失敗、それを踏まえての国際連合の成り立ちについて歴史的時系列に沿って学ぶとともに、国際連盟と国際連合の何が異なるのかについて学びます。	集団安全保障とは何かについてまとめてください。	4時間
第5回	**国際機関の歴史③：冷戦期と冷戦後** 冷戦期と冷戦後の国際連合の活動の変化と、その要因となった政治的背景について学びます。	国際連合の活動の観点から、冷戦期と冷戦後の何が異なるのかについてまとめてください。	4時間
第6回	**国際連合とは何か：国際連合の組織構造について** 国際連合の条約、組織構造、意思決定プロセス、財政といった国際連合の組織論について学びます。	国際連合や関連機関がどのような組織構造で成り立っているのかについてまとめてください。	4時間
第7回	**地域機構とは何か：EUとASEANの事例から** 欧州統合や東南アジア諸国連合（ASEAN）の事例から、国際連合と地域機構は何が異なるのか、また地域機構の間でも異なる点があることを学びます。	国際連合と地域機構の何が異なるのかについてまとめてください。	4時間
第8回	**国際機関とは何か：非国家主体による機関** 個人や企業といった、国家ではない構成員によって成り立つ国際機構について学びます。	国家以外の構成員によって成り立つ国際機構の特徴についてまとめてください。	4時間
第9回	**国際機関の活動①：紛争** 紛争に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	紛争に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第10回	**国際機関の活動②：経済** 経済に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	経済に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第11回	**国際機関の活動③：環境** 環境に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	環境に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第12回	**国際機関の活動④：難民** 難民に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	難民に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第13回	**国際機関の活動⑤：観光** 観光に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	観光に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第14回	**本講義のまとめ** 本講義全体を通しての要点をまとめ、本講義を通して学んできた国際機関についての知識や考え方をどのように現代社会を理解する上で活かすことができるのかを考えます。	本講義全体を通しての要点を復習してください。	4時間

522

授業科目名	**ミクロ経済学**				
担当教員名	本間哲也				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ミクロ経済学は，経済活動に関わる個々の「登場人物」（たとえば消費者や企業など）に注目し，生産・販売・消費といった行動がなぜ，どのように行われるかを理解しようとする学問である。
本科目では，ミクロ経済学の基本的な考え方や分析の方法を学ぶ。それにより，社会を見る「道具」としての「経済学の考え方」を身につけ，その有用性を実感してもらうことを目指す。
学んだ内容は今後，日常の消費生活や，社会人として実際のビジネスに携わる際，現状把握や意思決定を助けるであろう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営や市場に関わる諸現象を捉え，意思決定する際に有効な，経済学的分析概念の知識を得る。	消費者行動・経営活動・企業行動・政府の政策の原理やメカニズムを科学的に理解し，説明できる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	経済学の考え方や接近方法を自らが関わる具体的場面に援用し，適切な現状理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	40 %	： 学習内容の理解, 適切な説明ができる文章力。 ※表面的な用語知識よりも概念やメカニズムの理解を重視する。
課題	40 %	： 授業内容の理解, 諸事例に対する応用力。 ※提出資料の体裁や読みやすさも評価の対象。
授業への貢献	20 %	： 質問・発言などの「参加」状況。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・N.グレゴリー＝マンキューマンキュー経済学Ⅰ ミクロ編(第5版)』センゲージ・ラーニング（発売元：TKDラーニング/東京化学同人），2025年，ISBN:978-4-807-91812-6。
・N.グレゴリー＝マンキュー『マンキュー入門経済学(第4版)』センゲージ・ラーニング（発売元：TKDラーニング/東京化学同人），2025年，ISBN 978-4-807-91811-9。
・安藤至大『ミクロ経済学の第一歩 新版』有斐閣，2021年，ISBN:978-4-641-15085-0。
・その他必要に応じ適宜示す。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は２単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること。
・履修開始前の特段の予備知識は不要。
・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。
・本講義で紹介する諸概念・分析フレームワークは，経営戦略論・管理会計・企業財務など，経営学部で開講されるいろいろな科目の基礎になっていることが多い。したがって本科目の履修はこれらの経営学諸科目の理解を深めるのにも役立つであろう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜３時限目

場所：　研究室（西館４階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**授業ガイダンス・経済学の道具立て** 講義の目的・内容・授業の進め方・評価方法など 財・サービスの概念，希少性，機会費用など	シラバスを読み直し，内容を確認する。復習用教材等を用い，授業内容（経済学独特の基礎的諸概念）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第２回	**経済学とミクロ経済学，消費者の理論(1)：消費と効用** 社会科学における「経済学」の位置づけ，ミクロ経済学とマクロ経済学の違い，マンキューの「経済学の十大原理」など 効用，限界効用，需要曲線など	復習用教材等を用い，ミクロ経済学の特徴などを再確認する。次回授業（前回授業の復習部分）で授業内容（消費行動と効用など）を説明できるようにしておく。	4時間
第３回	**消費者の理論(2)：需要** 消費者余剰，需要曲線のシフト，需要の価格弾力性など	復習用復習用教材等を用い，授業内容（需要関数など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第４回	**生産者（企業）の理論** 企業とは何か，利潤，供給曲線，生産者余剰など	復習用教材等を用い，授業内容（企業行動の経済学的理解など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第５回	**市場均衡と効率性** 市場均衡，均衡の安定性，均衡の効率性，厚生経済学の定理	復習用教材等を用い，授業内容（価格メカニズムなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第６回	**市場介入と効率性** 価格規制，課税や補助金の影響，死荷重の発生など	復習用教材等を用い，授業内容（政府の役割など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第７回	**独占と寡占** 完全競争と不完全競争，独占利潤など	復習用教材等を用い，授業内容（不完全競争市場の特徴など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第８回	**外部性** 外部効果，外部効果の内部化，コースの定理など	復習用教材等を用い，授業内容（外部経済／不経済など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第９回	**公共財** 公共財の概念，政府の役割と限界など	復習用教材等を用い，授業内容（公共財と市場の関係など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第10回	**経営と経済学** 競争優位，差別化，広告，評判，取引費用，競争政策など	復習用教材等を用い，授業内容（企業の諸活動の経済学的理解など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第11回	**ゲームの理論(1)：非協力標準形ゲーム** 非協力ゲームの考え方，標準形ゲームにおけるナッシュ均衡など	復習用教材等を用い，授業内容（ゲーム理論の基礎的枠組みなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第12回	**ゲームの理論(2)：展開形ゲーム** 展開形ゲーム，ゲーム理論の応用例	復習用教材等を用い，授業内容（逐次手番ゲームなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第13回	**不確実性と情報** 期待効用とリスク態度，逆選択，モラルハザードなど	復習用教材等を用い，授業内容（不確実性の経済学）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第14回	**まとめ**	定期試験準備：全14回の授業内容を総復習する。	4時間

授業の振り返りとまとめ，試験情報		

522

授業科目名	欧米地域研究				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	2年ー4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、欧米の地域研究を通じて、現代のヨーロッパとアメリカにおける、政治、経済、言語、思想、文化などを多角的に捉えながら、各地域の多様性について理解を深めることを目標とする。また、それぞれの国における主要都市を取り上げて、各都市の成立から発展を通した都市の構成や交通インフラの特徴についても詳解していく。さらに、欧米諸国が現代において抱えている諸課題について議論するとともに、地域の特性を踏まえた今後の可能性についても考察を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	グローバルな視野から地域・文化の知識	欧米が抱える課題に対する取り組みについて理解する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		欧米の社会を理解することで多様性を養うことができる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		得られた知識や情報の分析から、地域の課題を捉えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内レポート	30 %	： 授業内容とその重要な点の正確な把握。
授業への積極的参加	30 %	： 授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解。
プレゼンテーション	40 %	： 発表準備を通して、人に伝えるスキルの修得。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

老川慶喜、小野田滋、柿崎一郎、高嶋修一、鳩澤歩、渡邊恵一（編）『鉄道史大事典』朝倉書店、2024年。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習してください。また授業中の私語は慎んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜：２限

場所： 研究室（西館４階）

備考・注意事項： Google Classroom や Gmailでいつでも連絡してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**欧米地域をどのように学ぶのか** 授業の概要と目的について説明します。 欧米各国の地理的境界線を把握します。	世界地図で海外諸国の地理を確認してください	4時間
第2回	**第二次世界大戦以降の欧米の発展** 欧米における近代市民社会が成立した以降の近現代史を概観します。 欧米の地域に関する先行研究の傾向から、各国が発展してきた過程を理解します。	欧米の近現代史を調べてください	4時間
第3回	**アメリカの地域文化** アメリカの政治体制や各州の行政組織を理解します。 欧米地域の地理的特性や文化的特徴を通して地域資源を活かした取り組みを学びます。	アメリカの地域文化の特徴を調べてください	4時間
第4回	**ヨーロッパの地域文化** 各国の政治体制や行政組織を理解します。 ヨーロッパの地域の地理的特性や文化的特徴を通して地域資源を活かした取り組みを学びます。	ヨーロッパの地域文化の特徴を調べてください	4時間
第5回	**欧米の都市** ニューヨーク、ロンドン、パリ、ローマ、ベルリンなどを事例に都市が抱える課題を考えます。 都市機能の確保に向けて、都市環境や都市交通の取り組みを理解します。	欧米の大都市、地方都市の発展について調べてください	4時間
第6回	**アメリカの都市計画** アメリカの都市システムの形成を概観します。 ニュータウンの計画によって発展した都市やコンパクト・シティの取り組みを進める事例を理解します。	アメリカの交通機関を調べてください	4時間
第7回	**ヨーロッパの都市計画** ヨーロッパの都市システムの形成を概観します。 持続可能な都市計画について事例を通して取り組みを理解します。	世界における宗教を調べてください	4時間
第8回	**欧米の交通機関** 欧米の各国の主要都市における交通インフラを把握します。 空港から都市へのアクセスの方法を調べます。	欧米の交通網を調べてください	4時間
第9回	**グループワーク（都市の選定）** グループごろに事例として取りあげる都市を決定し、交通インフラについて情報収集を行う。 ツーリストにとってどのような移動手段があるかを把握する。	選定した都市について調べてください。	4時間
第10回	**グループワーク（空港からのアクセス）** 欧米の主要都市の空港から観光地あるいは都市へのアクセス手段を調査する。 アクセスの方法の特徴を把握する。	選定した都市の最寄空港について調べてください	4時間
第11回	**グループワーク（都市内の交通手段）** ツーリストが訪れた都市においての移動手段としての交通網を調査します。 推奨する交通手段を検討します。	選定した都市の交通機関を調べてください	4時間
第12回	**グループワーク（都市の特徴）** 選定した都市の文化、観光資源について情報収集します。 推奨する体験型ツーリズムをまとめます。	選定した都市について調べてください	4時間
第13回	**プレゼンテーション** 欧米に訪れた際に利用する交通機関について発表します。 グループワークの成果として発表スキルを養います。	発表の練習をしてください	4時間
第14回	**まとめ　欧米における課題と対策** 各国、各地域における交通インフラを通して、ツーリズムの移動手段を考えます。 都市における課題と今後の展望を確認します。	欧米の都市における課題について考えてください	4時間

522

授業科目名	**商法**				
担当教員名	橋谷聡一				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	債権回収会社（宅建業者）にて金融機関から債権譲渡を受け債権回収業務等を行った。また、特にビジネス法に関する事項としては、業界団体にて金融商品取引法等の法令制定から適用までの調査、会員向けコンサルティング、Jリートの合併施策の立案等の実務経験がある。				

授業概要

世の中にはたくさんの個人企業もありますが、ビジネスの主体は株式会社などの法人です。株式会社は商人であり、会社法に基づき設立されます。
商法や会社法を学習するためには、まず、民法の総合的な知識が土台となり、そのうえで商法と主に会社法について学習する知る必要があります。
より具体的に言えば、例えば、企業が取引を行う場合、民法が基礎となりますしその応用として商取引があります。さらに、会社の仕組みを理解するためには法人制度の基本的な知識が求められます。
そのため、法学を学んだことがない学生の方も対象として法律の基本的な考え方から民法の重要なコンセプト、会社制度の基本的な知識を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業人として商取引や法人について理解できるよう知識を蓄える。	法律用語を常識として身につける。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		事業という現実的な課題に対応するためのツールとしての法律を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

講義中に問いかけと考える時間を置き、自ら考える姿勢を養いたいと思います。直接、口頭で答えを求めることは苦手な方もいると思いますので原則としては行いません。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	50 %	： レポート課題の内容に即して、調べたことを正しい日本語で書くことができているか。
ウェブ課題	50 %	： 基本的な知識が理解できているか客観的にはかる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
池島　真策 ・橋谷　聡一	・『民法・商法からはじめる　ビジネス法入門』	・ 税務経理協会	・ 2023　年

参考文献等

池島真策・橋谷聡一　編『はじめてのビジネス法』（2017年、晃洋書房）
ISBN-13 ： 978-4771028241

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了後、10分。

場所： 非常勤講師室。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション** これから学ぶビジネス法の概要について説明する。また、教科書を概観し、どのような流れでこの講義が進められていくのか説明する。 さらに、この講義ではレポート課題を必須としていることから、レポートを書くにあたってのリサーチ方法、書き方などについても指示する。 なお、受講生の理解状況に合わせてシラバス内容は変更されることがある。	法律の調べ方を学ぶ。	4時間
第2回	**第Ⅰ章ビジネスにおける法　Ⅰ－１ビジネスにかかわる法** ビジネス法について考える場合、その対象を考える必要がある。他の法、例えば、憲法であれば六法の憲法を学べばよいが、ビジネス法はその範囲が定まっているわけではない。そのため、ビジネスで出会う法的課題にどのような方が適用されるか、考えるという姿勢を養いたい。	日常生活やアルバイトでどのような法が関わるか考える。	4時間
第3回	**Ⅰ－２　民法と商法の関係 、Ⅰ－３　コンプライアンス** ビジネスの主要な法である民法と商法との関係について考える。民法は私法の一般法であり、商法はその特別法となる。また、近時コンプライアンスが強調されることが多いが、コンプライアンスとは何かについて基本的な事項を学ぶ。	コンプライアンス上の問題についてニュースを調べる。	4時間
第4回	**Ⅰ－４　訴訟に備える法務、 Ⅰ－５　ビジネスの展開とルールメイキング** みなさんが法務部に勤務した場合や営業パーソンとして求められる対応のヒントについて考える。これに加えて、新たな技術革新が進む中で、それらと法との関係を整理するために提供されている仕組みについて学ぶ。	電動キックスケーターはどのような条件を満たせば免許無しで公道を走行できるか、以前はどうだったか。	4時間
第5回	**第Ⅱ章民法　　Ⅱ－１民法概論 Ⅱ－２　人と物** ビジネス法の基礎となる民法について、その構造を学ぶ。権利の主体となる人に加えて、その客体となる物とは何かについて学習する。あくまでも民法上の権利の客体であり特別法が別に存在することには留意が必要である。基本的なことではあるが重要な概念である。	日常生活と民法との関係について考える。	4時間
第6回	**Ⅱ－３　債権①―債権の発生原因―、Ⅱ－４　債権②　―債務不履行―** 日本の民法では物権と債権を厳格に区別するが、債権はどのような理由で生じるのか、また、例えば、契約から生じた債務が履行されない場合、どのような対応を取ることができるかまなぶ。	日常生活で生まれる債権債務関係について考えてみる。	4時間
第7回	**Ⅱ－５　売買①―売買の基礎―** 最も身近な契約である売買について学習する。意識したことはないかもしれないが、学習者の皆さんは一日に何件かの売買契約を締結している。その場合、代金の支払いと商品の引き渡しが同時に行われることが多い。次回の講義との異同も意識しつつ聞いていいただきたい。	どのような売買契約を最近締結したか振り返ってほしい。	4時間
第8回	**Ⅱ－６　売買②―不動産売買と登記―** 不動産売買の場合、契約締結と決済の時期的なズレが生じる。つまり、日常の売買契約とは異なり、時間的な流れが生じる。このような取引の特徴を学ぶとともに、不動産登記が果たす役割を学ぶ。	不動産取引についてネット等を利用して調べる。	4時間
第9回	**Ⅱ－７　売買③―代理や類似の概念―** 自らが専門性を有しないことや契約の場所が離れている場合、代理人を利用することがある。他にも、未成年者の契約を親権者が代理することもある。この制度の基本を学ぶ。	代理が有効に機能するための要件を確認する。	4時間
第10回	**Ⅱ－８　貸借① Ⅱ－９、貸借②―不動産の賃貸借―** ものやお金を貸し借りすることがある。これを貸借というが賃料を支払う場合が大半であり、賃貸借と呼ばれる。本講義ではその基本原則と不動産の賃貸借について学習する。	身近な借りる契約はどのような物があるか調べる。	4時間
第11回	**Ⅱ－10　委任・請負・雇用** 典型契約のうち、委任、請負、雇用など他人の労力を利用する契約について学ぶ。特に雇用については多くの方が卒業後、企業等で労働するわけであることから労働基準法等についても学習する。	アルバイトをしている方はその内容を確認する。	4時間
第12回	**第Ⅲ章　商法 Ⅲ－１商法概論** 民法の特別法である商法とはどのような法律なのかを学ぶ。ビジネスにおいては、たとえ儲けが薄くとも、大量に、繰り返し、素早く取引することで成功することができることがあるし、これが基本的な考え方となる。	自ら、ビジネスをどのように運営すればスムースかを熟考する。	4時間
第13回	**Ⅳ－１　会社法概要 、Ⅳ－２　会社形態―株式会社・持分会社―**	インターネットで有名な会社がどのような会社形態をとっているか調べる。	4時間

	会社には持分会社（組合の発展形に近い、内部規律の自由な会社）と株式会社が存在する。持分会社の基本的な仕組みを学ぶとともに、現在、主な事業主体となる株式会社の基本的な仕組みについても学習する。		
第14回	**Ⅳ－３　会社の資金調達―株式・社債の発行―、 Ⅳ－４ 株式会社の機関構造** 会社は資金調達し、それを事業に投資し、利益をえる。どのように資金調達を行うかと、事業が有効かつ効率的に行われているかを実行し、チェックする株式会社の機関について学ぶ。	有名な企業がどのような機関を置いているかネットで調べる。	4時間

522

授業科目名	ホスピタリティと異文化理解				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

現代社会は「心の時代」であると言われている。また、現代の社会において企業が激しい競争の中で勝ち残るためには、 他企業との差をつけなければならないが、その差をつけるには、究極的には、模倣しがたいヒューマンウェアの部分しかない。ヒューマンウェアこそが、差別化、差異化を図る基盤であり、このヒューマンウェアがホスピタリティを体現する。
本講義では「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」についての理解が社会生活上不可欠であること、そしてその活用の重要性について考えていく。さらに、異なる文化背景を持った人々の異文化コミュニケーションの場において、異文化を受容し適切に対応しながら、相互の理解を深めるために必要な知識を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ホスピタリティの意義・文化の起源、異文化理解	ホスピタリティに関する理念及び諸理論の習得と異文化を受容し適切に対応しながら、相互の理解を深めるために必要な知識を身に付ける。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		常にホスピタリティや異文化に興味を持ち、様々な媒体を通して収集下資料から、関連業界や異文化理解においての課題を検討できる。
2. DP10.忠恕の心		相手の立場に立って、考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート・受講態度	20 %	： 教材の理解力、および課題意識について評価する。
中間テスト	40 %	： 次の観点から評価する。１．授業内容をどの程度理解しているか、２．理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
定期試験（筆記）	40 %	： ホスピタリティの基礎知識を用いて自身の意見を述べる。１．ホスピタリティの基礎知識を正しく理解し、２．ホスピタリティの重要性や最高のホスピタリティ実践方法について提案できるのかの観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

服部　勝人（2004）『ホスピタリティ・マネジメント入門』丸善株式会社(ISBN4-621-07441-5)

海老原　靖也（2005）『ホスピタリティー入門』大正大学出版会(ISBN4-924297-32-1)
ホスピタリティ・サービス研究会（2007）『事例でわかるホスピタリティ・サービス』日本能率協会マネジメントセンター(ISBN978-4-8207-4479-5)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 研究室（西館２階）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス＆ホスピタリティの意義、重要性** 学習内容や評価方法、受講においての注意事項について説明したうえで、ホスピタリティとは何か今の時代なぜホスピタリティが重要なのかについて学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	**ホスピタリティ文化の起源** ホスピタリティ文化の起源、とりわけ西洋におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：共飲共食、ホスピタル、ホスピス）	4時間
第3回	**ホスピタリティ文化の起源（東洋・日本）** 東洋と日本におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：社会的倫理の範疇、もてなす、ご馳走）	4時間
第4回	**ホスピタリティとサービスの語源** ホスピタリティとサービスの語源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピス、セルバス）	4時間
第5回	**ホスピタリティとサービスの概念比較** ホスピタリティとサービスの概念について学び、相違点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：双方向、一方通行）	4時間
第6回	**東京ホテル戦争1（ホテルのマーケティング）** 2002年以降、外資系高級ホテルの多数の東京進出により起こった社会現象「東京ホテル戦争」を取り上げ、その背景や影響などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旧御三家、新御三家ホテル）	4時間
第7回	**今までの授業内容Reviewと中間テスト** 今迄の授業内容を振り返り中間テストを実施します。	今までの授業内容を復習しておく。	4時間
第8回	**外部講師による特別講座** 外部講師をお招きし、ホスピタリティ業界をめぐる現状や課題についてお話を聞きます。	ホスピタリティ産業の動向を調べておく。	4時間
第9回	**東京ホテル戦争２（ジョブホップ）** 「東京ホテル戦争」がもたらした弊害について学んだ後、ホテルにおいてのヒューマンウェアの重要性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ジョブホップ）	4時間
第10回	**東京ホテル戦争３（場所のホスピタリティ、高級ホテルの基準）** リゾートホテルの「場所のホスピタリティ」、高級ホテルの基準、社会を感じさせない高級ホテルの特性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：場所のホスピタリティ、高級ホテルの基準）	4時間
第11回	**ホスピタリティの本質（相手の器に全てを合わせる、マニュアルには落とし込めない）** 相手が考えている一歩先をリードする、相手の器に全てを合わせていく、マニュアルには落とし込めないなどのホスピタリティの本質について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：相手の器、マニュアル）	4時間
第12回	**外部講師による特別講座** 外部講師をお招きし、ホスピタリティ業界をめぐる現状や課題についてお話を聞きます。	ホスピタリティ産業の動向を調べておく。	4時間
第13回	**ホスピタリティ・マネジメントの定義** TQSやインターナルマーケティングなどの理論に基づいた、ホスピタリティ・マネジメントの定義について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：TQS,相互依存型の産業形態）	4時間
第14回	**ホスピタリティのある観光を作る** 観光に求められるホスピタリティやホスピタリティを育むことの意味、ホスピタリティのある観光実現の指針などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピタリティを育む教育のポイント、ホスピタリティある人間の育成）	4時間

522

授業科目名	**観光マーケティング論**				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

観光は人々の楽しみに大きく関与するものなので、その期待に応えていくためには、他の一般商品以上にお客様の視点に立ったマーケティングの発想が不可欠であります。本講義では、観光ビジネスではどのようなマーケティングが実践されているのかを理解するために、マーケティングの基本的な理論とケーススタディを中心に学びます。観光客を受け入れる都市や地域は集客のためにどのような取り組みをしているかについても理解してもらいます。本授業は、教員による一方的な講義ではなく、受講者による学習・発表が主になります。発表内容に基づき、教員が補足説明することによって、学習内容の理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティングの基礎理論と観光マーケティングの実践方法の理解	マーケティングを学ぶ上で必要な理論の理解とそれに対応する観光のケーススタディを通して、実践で発揮する力を身に付ける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光産業のマーケティングに関する知識	インターネットや書籍の情報をもとに、観光産業のマーケティングの特徴的な動向を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握してもらうことによって、観光地における集客戦略やリピータ率向上のための取り組みについて考察することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表・受講態度	40 %	： １．与えられた課題に対してポイントを適切にまとめ、分かりやすく発表できたのか。２．毎回実施する小テスト点数の平均。
中間テスト	30 %	： 次の観点から評価する。１．授業内容をどの程度理解しているか、２．理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
定期試験（筆記）	30 %	： 次の観点から評価する。１．マーケティングの基礎知識を正しく理解、２．観光マーケティングのケーススタディを通して、集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについて自身で考察できるのか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

森下　晶美編著　・新版　観光マーケティング入門　・同友館　・2016　年

参考文献等

ホスピタリティ・ビジネス研究会訳（Philip Kotler 外2人）『ホスピタリティと観光マーケティング』　東海大学出版部　1997年(ISBN4486014030)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・マーケティングとは** 学習内容や評価方法、受講においての注意事項などについて説明したうえで、マーケティング・観光マーケティングとは何かについてQuiz形式で確認します。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	**ホスピタリティと観光のマーケティングについて** マーケティングの定義について確認したうえで、ホスピタリティ・ツーリズムのマーケティングの特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、4P,7P）	4時間
第3回	**商品購買と人間ニーズの充足** マーケティングは、「お客の思い」を正しく理解するための活動であることを学び、本当のニーズをつかむことが大事であることを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニーズ、ウォンツ）	4時間
第4回	**購買意思決定のプロセス** 商品の購買に至る一連の行動について理論と事例を通して理解します。また、購買に影響を与える消費者の特性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：AIDMA法則、AISAS理論）	4時間
第5回	**お客とはだれなのか。市場細分化、ポジショニング** 消費者を“ある尺度”で共通したグループに分類するとの市場細分化についてその理由や基準等について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：セグメンテーション、ターゲット・マーケティング）	4時間
第6回	**マーケティング環境分析：SWOT分析** マーケティング環境分析の必要性とツールとしてのSWOT分析について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：Strength,Weakness,Opportunity,Threat）	4時間
第7回	**マーケティング・リサーチ** マーケティング・リサーチの企画・設計の進め方やデータ収集のための尺度・質問文作成における注意点などについて学ぶ。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PDCA、定量的データ、定性的データ）	4時間
第8回	**今までの授業内容のReviewと中間テスト** 現在までの授業内容をまとめた上で、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	**プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント** プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント手法を理解し、プロダクト・ライフサイクルの概念と観光地のライフサイクルにおける特徴や問題点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PPM、プロダクト・ライフサイクル）	4時間
第10回	**旅行商品流通チャネル** 旅行商品の種類と特徴について理解したうえで、旅行商品の流通チャネルについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、ホールセール）	4時間
第11回	**マーケティングで価格戦略を策定** 競争優位の基本戦略を理解し、価格決定方法や競争市場戦略の４つの位置づけについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：スケールメリット、競争市場戦略）	4時間
第12回	**ブランドマーケティング** ブランド・イメージの定義やブランド構築のプロセスなどについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランド・アイデンティティ、永続性）	4時間
第13回	**観光地ブランドと地域づくり** 観光地におけるブランド構築や地域づくりにおいてのポイントについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：コンセンサス、ディマーケティング）	4時間
第14回	**カスタマー・リレーションシップ・マーケティング**	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CRM、データベース・マーケティング）	4時間

CRMの概念やCRMが重視されるようになった背景について理解したうえで、実践事例を通じてその考え方を理解します。		

522

授業科目名	**レベニューマネジメント**				
担当教員名	**島雅則**				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。（全１４回）				

授業概要

レベニューマネジメントは、1985年にアメリカのエアラインが導入した、需要予測に応じて料金を操作するイールドマネジメント(Yield Management)を原点に、現在ではホテルを始めとするホスピタリティ産業で幅広く採用されている売上の管理手法である。本講義では、具体的で様々な例題やケーススタディに取り組むことにより、レベニューマネジメントが緻密なデータの分析と管理をベースにしながらも、担当責任者(レベニューマネジャー)が自身の幅広い知識や洞察力、経験、直感を適用し戦略的に価格を決定する方法を学ぶ。複雑で様々な要素を整理し、多面的に課題の解決に取り組む力を養うことにより、将来社会人として企業の業績向上に寄与できる人材の基礎を築く。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	ホスピタリティ産業におけるレベニューマネジメントの知識と技術を学ぶ。	与えられた増収課題に対して、顧客満足度を維持・向上を図りながら利益重視の方策を提案することができる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	レベニューマネジャー業務の基本的知識と具体的なスキルを理解する。	ケーススタディーに取り組むことにより、基本的なレベニューマネジャーの実務作業を実践することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		ケーススタディから本質的な課題を発掘し、検討できる。
2. DP９.他者との協調・協働		与えられた課題に関して自身と他者の考えの接点を見出すことにより、チームとしての問題解決策を提案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設ける。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記）	40 %	： 基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的文章作成力を評価する。
授業外課題	40 %	： 取り組み度（課題提出期限遵守を含む）と理解度、論理性について、独自のルーブリックに基づき３段階で評価する。
授業への参加度		： 授業やグループワークでの教員、メンバーとのやり取りを科目独自のルーブリックに基づいて評価する。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中谷秀樹訳『レベニュー・マネージメント概論』(流通経済大学出版会,2016年,ISBN978-4947553690)、佐藤公俊・澤木勝茂著『レベニューマネジメント』(共立出版,2020年,ISBN978-4320096509)、徳江潤一郎･長谷川惠一･吉岡勉著『数字でとらえるホスピタリティ』(産業能率大学出版部刊,2014年,ISBN978-4382057074)、国枝よしみ･岡田晃編著『新しい観光学』(千倉書房, 2023年,ISBN978-4805112755)、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』(同文舘出版,2019年,ISBN978-4495382629)、菅野誠二著『価格支配力とマーケティング』(クロスメディア･パブリッシング,2023年,ISBN978-4295408468)、松村大貴著『新しい「価格」の教科書』(ダイヤモンド社,2021年,ISBN978-4478112939)、その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。また、教科書の代用とする資料は、授業前にコピー、あるいはGoogle Classroom上でデータ配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。業種業界を問わずホスピタリティマインドとサービス産業の経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。また、経営管理には不可欠な計数感覚を身に付けるために、各講義、各グループワークの場で常にデータと数字を意識し、企業の管理会計に必要な基礎知識を修得する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日　３・４限目

場所：　島研究室（西館２階）

備考・注意事項：　上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
（shima-m@osaka-seikei.ac.jp）メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／その歴史と全体像** 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認する。レベニューマネジメントの誕生から現状、そして今後予想される展開について俯瞰し、この仕事が、企業、特にホスピタリティ産業の経営にとって必要不可欠な手法（技術）であることを理解する。	課題動画を視聴し、その時点での自身のレベニューマネジメントについての理解をレポートにまとめ、提出する。	4時間
第2回	**ホテルの宿泊部門ＫＰＩ（重要業績評価指標）** ＫＰＩは専門のレベニューマネジャーが価格設定と在庫管理を効果的に行う上でもっとも重要な道具である。前期のホテルブライダル経営論で学習した基本にくわえ、レベニューマネジメント必須の新しいＫＰＩについてその活用方法を学ぶ。	宿泊部門ＫＰＩに関する計算問題に取り組み、提出する。	4時間
第3回	**レベニューマネジメントの原点（ホテルとエアライン）** レベニューマネジメントは、エアラインのイールドマネジメントが原点。エアライン出身の本学教員に参加いただき、ホテルとエアラインのレベニューマネジメント手法の違いについて理解を深める。	授業で習得したレベニューマネジメントの基本原則に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第4回	**需要予測①　～過去データの見方～** 正確な需要の予測が宿泊産業のレベニューマネジャーにとって重要であることを理解する。その１回目は予測のための過去のデータの種類を知り、それらの見方と取扱い方法を実践事例を参考に理解する。	過去データに関する事例問題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第5回	**需要予測②　～現在データの見方～** 上級のレベニューマネジャーに求めれるのが現在手元にある予約データの分析です。ホテル全体の売上最適化のためには、個人、団体、そして宿泊以外の売上の動向にも目を光らせることが大切です。	現在データに関する事例問題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第6回	**需要予測③　～将来データの見方～** あらゆる知識、経験、データそしてIT技術を総動員して需要の予測の精度を上げることが、レベニューマネジャーの最大の使命と言われる。その力がもっとも求められる力が将来のデータの予測です。実際の複数の事例に接し、その苦労とノウハウ、そして方法を修得する。	将来のデータに関する授業では取り扱わなった事例問題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第7回	**需要予測④　～ケーススタディー～** ホテルのレベニューマネジメントチームが実際に現場で直面するケーススタディーに取り組む。グループごとに２つの事例の解決案を議論し、発表と質疑応答により気付きと理解を深める。	需要予測の総括として、総合的な練習課題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第8回	**在庫と価格管理①　～ホテル客室と顧客の分類～**	団体顧客の予約に関する実践事例に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間

	ホテルのレベニューマネジャーがどの様に販売可能な客室の在庫状況を把握し、それらの客室の販売価格を監視しているかの基本理念を学ぶ。第1回目は、客室の種類とレート、対象となる顧客の分類の知識を整理、理解し、それぞれの管理手法を学ぶ		
第9回	**ホテルでのレベニューマネジャーの実務（学外講師）** 学外講師とのコラボレーションによる特別授業。大手シティホテルで長年マーケティング部門やレベニューマネジャーとして携わった講師から、実際の現場での成功や失敗の事例についてお聞きするとともに、IT化が急速に進む現在、そして今後のレベニューマネジャーに求められるスキルや仕事の在り方についていっしょに考える。 ※本授業は講師のスケジュールの都合で日程が変わることがあります。	学外講師から出された授業外課題について自身の考えをまとめる。	4時間
第10回	**在庫と価格管理② ～階層価格戦略～** 同じ客室にもかかわらず何故料金が違うのか？　顧客に客室の真の価値を理解してもらうために必要とされる、正価（ラックレート）とレベニューマネジメントにとっての最重要戦略である階層価格について理解を深める。	予約戦略を決定するレベニューマネジメント現場での議論に関する事例課題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第11回	**在庫と価格管理③ ～ケーススタディー～** ホテルのレベニューマネジメントチームが実際に現場で直面するケーススタディーに取り組む。グループごとに２つの事例の解決案を議論し、発表と質疑応答により気付きと理解を深める。	在庫と価格管理の総括として、総合的な練習課題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第12回	**流通経路管理① ～全体像と非電子的流通経路～** 予約の流通経路は電子的経路（インターネット）とホテルのセールス担当者が直接顧客に販売する非電子的経路に分けられる。その主な流通経路すべてについての知識を得ることと、それらすべての流通経路をいかに使い分け、管理するかを理解すると同時に、売上の最適化のため各々の流通経路を管理する根本的理念を学ぶ。前半の第1回は、全体像を俯瞰した後。非電子的流通経路である、個人の施設での予約、電話による予約、団体予約、そして地域の観光振興局経由の予約について、それぞれのメリットとデメリットの理解を深める。	非電子的流通経路を利用した予約に関する課題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第13回	**流通経路管理② ～電子的流通経路～** 現在主流となっているインターネット経由の予約システムである電子的流通経路について、その現状と急速に高度化するＩＴ技術がもたらす将来性を学ぶ。人間同士のコミュニケーションを介さない予約がもたらす弊害も明らかにし、今後のレベニューマネジメントのあるべき姿についても考える。	電子的流通経路を利用した予約に関する課題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で回答案とその考え方について解説する）	4時間
第14回	**流通経路管理③ ～ケーススタディーと授業総括～** 流通経路がかかえる課題に関するホテル現場のケーススタディーにグループで取り組み、発表と質疑応答により気付きと理解を深める。その後、本授業全体を振り返り、レベニューマネジメントという仕事の本質について再確認する。あわせて定期試験のポイントについても解説する。	シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える。	4時間

522

授業科目名	**国際観光研究特別科目**				
担当教員名	国枝よしみ・Jリング				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社を経て系列のホテルで企画・広報・マーケティング等管理職を経験、公募により県庁職員となり広報、地域戦略等を経験し現在に至る。				

授業概要

本授業は、国連の世界観光機関（UNWTO）との連携のもと、国際的な観光政策の動向に関する最新の知見を得ることを目標とする。2003年「観光立国宣言」を契機として観光政策が国づくりの柱として位置づけられ、訪日外客数を飛躍的に増大させることを主要な政策目標として近年大きな成果を上げてきた。しかし、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大により、観光産業は世界的に大きな試練にさらされた。現在急速な回復を遂げているが、これを機に観光の果たす役割をグローバルな視点で捉え国際観光の在り方について考察を深めていく。ケーススタディとして米国の観光資源を例に旅行プラン企画等にグループで取り組む予定である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	事業別観光経営及び地域・文化の理解を具体的な事例を通して習得する	国際観光分野の専門的知識の理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		学習を通して地域における課題を発見することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

This is a special research class. This course includes instruction in basic critical thinking skills (CTS) to prepare students for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. Critical thinking skills are part of a ″global education″ and preparation for a successful career. According to Temple University: ″Critical thinking includes the evaluation of evidence, analysis and synthesis of multiple sources, and reflection on varied perspectives...A student engaged in critical thinking produces an informed account, a hypothesis for further study, or the solution to a problem″ (https://bulletin.temple.edu/undergraduate/general-education/general-education.pdf). Students will learn CTS by preparing and giving a group presentation in English. The presentation topic/theme will be announced in class.

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

提出物に関して、クラスルームで個別にコメントすることがあります。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Presentation	20 %	： プレゼンテーションは独自のルーブリックにより評価します。 Presentation will be assessed according to the professor's original rubric.
課題	20 %	： 授業の中で課題に取り組みます。課題は基本的にGoogle classroomに提出します。Submission will be on Google classroom.

小テスト	:	簡単なクイズを授業内で行います。The quiz will be provided in order to test students' knowledge about the materials provided in lectures and assessed according to our university's standard rubric
20 %		
期末レポート	:	期末レポートは独自のルーブリックにより評価します。 Final report will be assessed according to our university standard rubric.
30 %		
Active Learning Skills	:	週間アクティブラーニングノートやディスカッションサマリについて独自のシラバスにより評価します。Weekly active learning notes, class discussion summaries, CTS skills, presentation preparation.
10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国枝・坂井・樫本・デイヴィス	・ 観光マネジメント	・ 千倉書房	・ 2022 年

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2023）『新しい観光学』, 千倉書房 ISBN:978-4805112755

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定の出席回数に満たない場合は成績評価をしないことがありますので気をつけて下さい。積極的に議論に参加、発言することを期待します。なお、授業外時間にすべき内容を記載していますので、必ず学習しておくこと。Students are required to participate and discuss proactively in every class.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火3限

場所： 西館３F

備考・注意事項： 上記は、国枝のオフィスアワー、リング先生はメールで問い合わせてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**観光マネジメント序論　Introduction of Tourism Management** ・ガイダンス ・観光学の進化と成熟の過程を知る。 ・海外での観光教育と訓練を行う大学、職業教育等を学び、日本と比較する	観光学システムを事前に予習しておくこと	4時間
第2回	**観光システム　Tourism Systems** ・観光システムの基本的な構造について知る ・観光客についての定義とタイプ ・観光システムにおけるの出発地、経由地、目的地を理解する	観光産業の発展と成長を予習しておくこと	4時間
第3回	**観光産業の発展と成長　Development and Growth of Tourism Industries** ・観光の歴史から観光の特徴を理解する ・産業革命の果たした役割と戦後の国際観光到着数の増加を学ぶ ・観光需要と経済発展を結びつける	オーストラリアの観光の特徴を予習しておくこと	4時間
第4回	**観光目的地　Tourism Destinations** ・観光目的地としての先進国と新興国の相対的な状況を理解する ・観光客を引き付ける魅力とは何か、その特徴を見極める ・世界の主要な地域の魅力について評価する ・オーストラリアの観光の特徴を知る	観光商品とは何かを調べておくこと	4時間
第5回	**観光商品　Tourism Products** ・観光名所の4つの主要タイプとサブタイプに分ける ・観光産業のの主要セクターの基本的な特徴を学ぶ ・観光製品の多様化とグローバル化について議論する ・Presentation preparation and materials introduction. Project-based learning. CTS. The presentation topic/theme will be announced in class.	与えられた観光市場について予習しておくこと	4時間
第6回	**観光市場　Tourism Markets** ・観光客の行動のプロセスを理解する ・市場のセグメンテーションの必要性とそれに関する基準を学習する ・心理的セグメントにおけるタイプ別特徴を理解する ・事前に米国のメイン州のマーケティング戦略を学習しておき、グループで日本人向けの誘致 戦略を考察する ・Presentation preparation/Project-based learning.	予め与えられた観光マーケティングについて予習しておくこと	4時間
第7回	**ケーススタディ　観光マーケティング　Tourism Marketing**	プレゼンテーションを完成させ、発表の練習をしておく	4時間

	・サービスマーケティングの特徴と理解する ・観光マーケティングの需要、市場の失敗、マーケティングミックスに関して理解する ・価格戦略について学習し、観光振興で活用するメディア戦略を考える ・メイン州への日本人の誘致戦略に関して、英語のフォーマットを活用し 　プレゼンテーションに落とし込む		
第8回	**プレゼンテーション　Presentation** ・各グループでケーススタディのプレゼンテーションを行う ・米国からの評価と自分たちの評価を行う ・プレゼンテーションの振り返りと改善点を話し合う	観光のプラス面とマイナス面を考えておくこと	4時間
第9回	**観光における経済への影響　Economic Impact of Tourism** ・観光に伴うプラスとマイナスの影響を理解する ・観光地がマイナスの影響を受けるメカニズムを知る ・観光産業に特徴的な需要の変動パターンとそれがもたらす経済の影響を学ぶ	観光の社会・文化に及ぼす影響を考えておくこと	4時間
第10回	**観光の社会文化と環境への影響　Impact of tourism toward social culture and environmnt** ・観光がもたらす社会的・文化的恩恵を挙げる ・商品化とそのプラスマイナスの影響を説明する ・観光と犯罪の間に存在する関係性について考える ・環境への影響を測る手段としてのエコロジカルフットプリントについて学ぶ	観光地開発とはどのようなことかを予習しておくこと	4時間
第11回	**観光地開発と持続可能な観光　Tourism Development and Sustainability** ・目的地のサイクルという概念を理解する ・観光地サイクルに変化をもたらす要因を理解する ・国家規模で行われる観光開発パターンにどのように適合するかを考える	持続可能な観光の事例を挙げておくこと	4時間
第12回	**持続可能なツーリズム　Assessing Global Market Opportunities** ・マスツーリズムのメカニズムを理解する ・持続可能な観光とはどのようなものかを理解して応用できるようになる	国際観光機関の活動を事前に調べておくこと	4時間
第13回	**ケーススタディ：Case Study** 世界観光機関（UN-Tourism）の講師より、具体的な事例を解説いただき、持続可能な観光に必要な要素、人材、体制など講義を聞いた後、まとめと自身ができることを考えてレポートにする	ケーススタディのレポートをまとめ提出する	4時間
第１4回	**観光調査：Tourism Research** ・主たるタイプの調査を紹介し、それぞれの重要性を理解します ・一次・二次調査に関する手法について解説します ・調査プロセスの基本的な段階について理解する ・これまでのまとめと振り返りを行う	これまでの振り返りを行うこと	4時間

522

授業科目名	航空・運輸事業論				
担当教員名	辛川敬				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり（第1～5，7～14回）。航空会社の経営企画、総合研究所社長等を歴任（第6回）。				

授業概要

航空事業は現在国際的な交通運輸産業の中心的な役割を担い、国際観光のみならず社会インフラとして、極めて重要な役割を果たしている。その航空事業の歴史、発展、背景等から基礎的な知識を持ち、航空ビジネスの現状、課題を理解する。また、経営学の面からも、航空事業戦略を分析し理解する。講義だけでなく、グループワークにより、様々な航空会社の事例からその経営戦略を分析し発表する機会を作り、その能動的な学びを通し、学生が航空ビジネスにより興味を持つことを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	航空事業の幅広い領域について、その基本的な役割や内容を理解する。	講義の情報をもとに、航空事業の各領域が担う内容、相互関連性、必要性、重要性を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	航空事業の各領域における専門的な業務内容に関する知識を深める。	航空事業の各領域における専門的な業務内容に関する知識を深める。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		様々な角度からのアプローチを通じて、航空産業が抱える課題を多面的に発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

航空会社の経営戦略に関するグループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	20 %	： 14回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業への参加意欲	30 %	： 毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。
リアクション・ペーパー	50 %	： 毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
（株）ANA総合研究所	・ 航空産業入門　第2版	・ 東洋経済	・ 2017　年

参考文献等

株式会社ANA総合研究所編集『エアラインオペレーション入門』改訂新版　イカロス出版　2022年　ISBN978-4802211437
井上　泰日子 『最新航空事業論』（第3版）　日本評論社 2019年　ISBN978-4535559486

他、随時参考文献等を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・日々のニュースから、航空事業に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限

場所： 西館４階

備考・注意事項： メールで質問等も受け付けます。
その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方、航空事業の特徴と他の交通事業との違い** 14回の授業の内容、進め方、評価について解説をする。 航空運輸業の特徴を他の運輸業との比較において明らかにする。	教科書を読み、航空輸送について基本的な特徴を理解しておく。	4時間
第2回	**航空産業の歴史** 航空運輸業の歴史と、それぞれの時代における役割を理解する。	教科書を読み、航空の歴史の全体像をつかんでおく。	4時間
第3回	**日本における航空産業の歴史** 日本における航空運輸業の歴史と、他国との違いを理解する。	教科書の日本の歴史に関する箇所をまとめておく。	4時間
第4回	**航空会社の経営戦略（レベニュー・マネジメント）** 収益を最大化するレベニュー・マネジメントの仕組みを理解する。	教のレベニュー・マネジメントの項目を読みまとめておく。	4時間
第5回	**航空会社の経営戦略（ネットワーク戦略）** 航空会社の路線網における戦略を理解する。	教科書、第２部第８章を読み、航空会社のネットワークの実例からその戦略を理解しておく。	4時間
第6回	**外部講師による特別授業（航空会社の経営戦略について）** 航空会社のケーススタディー モデルケースとしてANAを取り上げ、航空事業の歴史、経営戦略の変遷を理解する。 与えられた事前課題について討議する。	ANAについて事前配布資料を読み、まとめておく。 事前提供の課題について自身の意見をまとめておく。	4時間
第7回	**航空会社の経営戦略（マイレージ戦略）** 航空会社のマイレージ・プログラム（FFP）が航空会社の経営にどのような影響を及ぼすか理解する。また、その基礎となるデータベースマーケティングを理解する。	教科書を読み、FFPについて理解しておく。	4時間
第8回	**航空会社の経営戦略（ブランド、商品開発）** 航空会社のブランド、商品開発戦略について理解を深める。	教科書を読み、ブランド、商品開発について理解をしておく。	4時間
第9回	**LCC（格安航空会社）のビジネスモデル** LCC（Low Cost Carrier)の経営戦略について理解する。 また、LCCと従来の航空会社(FSC：Full Service Carreir)の経営戦略における違いを明らかにする。	教科書を読み、LCC戦略について理解をしておく。	4時間
第10回	**航空貨物について** 航空貨物を、ビジネス、オペレーション両面から理解する。	教科書を読み、貨物についての理解をもつ。	4時間
第11回	**空港の役割（旅客サービス、グランドハンドリング等について）** 航空事業における空港の役割と空港での主業務である旅客サービスとグランドハンドリングについて理解する。	「エアラインオペレーション入門」を読み、空港の役割の基本を理解しておく。	4時間
第12回	**日本の空港** 日本の空港について、その運営形態や現状、課題を学ぶ。	教科書を読み、日本の空港運営について理解をしておく。	4時間
第13回	**日本の空港が行っている事業** 日本の空港が行っている事業について、現状、課題を学ぶ。	教科書を読み、日本の空港運営について理解をしておく。	4時間
第14回	**航空機製造産業について、今後の航空業界の課題、全体ふりかえり** 航空機製造産業について、その特色、特殊性を理解する。 今後の航空業界の課題を学ぶ。	航空機製造産業について調査を行っておく。	4時間

522

授業科目名	**MICE＆イベント企画論**				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年イベントに携わり、イベントの企画・立案および運営マネジメントを担当。一般社団法人日本イベント産業振興協会認定である。（全14回）				

授業概要

本授業では、観光立国戦略の手段であるＭＩＣＥについて学びます。ＭＩＣＥとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。また、一般社団法人日本イベント産業振興協会認定授業でもあり、イベント企画・提案・制作が出来る基本的なスキルを体系的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	イベントとMICE業務の専門知識	イベントとMICE業務の基礎的な企画・提案・制作ができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業や組織の課題解決のため、イベントやMICEについての情報を得る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度・演習	30 ％	： 授業態度および演習を独自のルーブリックに基づいて30点満点で評価します。
振り返り	30 ％	： 前回授業の振り返り。授業内容を踏まえた必要知識が理解を30点満点で評価します。
定期試験	40 ％	： イベントの必要知識を40点満点で評価します。イベント検定試験合格相当の知識があれば40点とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一般社団法人日本イベント産業振興協会	・イベント検定公式テキスト　基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント	・	・2020　年

参考文献等

一般社団法人日本イベント産業振興協会『イベント検定公式テキスト　基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント』
ISBN-10:4901173286/ISBN-13:978-4901173285

履修上の注意・備考・メッセージ

・一般社団法人日本イベント産業振興協会「イベント検定公式テキスト　基礎からわかるイベント」を必ず購入してください。このテキストは書店での在庫が少ないため、必ず教科書販売期間にて事前購入してください。
・一般社団法人日本イベント産業振興協会認定「イベント検定」試験を必ず受検してください（受験料別途）。
・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日5時限

場所： 松田研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・観光立国とイベント** イベントを学ぶ意義について考えます。	観光とイベントの現状について調べておきます。	4時間
第2回	**イベントの概念と全体像（1）イベントの定義** イベントの概念と分類	イベントの概念（テキスト第1章第1節）を理解しておきます。	4時間
第3回	**イベントの概念と全体像（2）社会の発展とイベント** イベントの歴史	イベントの歴史（テキスト第1章第2節）を理解します。	4時間
第4回	**イベントの概念と全体像（3）イベントの役割** メディアとしてのイベント	イベントのメディア的価値を理解しておきます。	4時間
第5回	**イベントの企画と計画（1）企画の意味と本質** イベントの企画	イベント企画（テキスト第2章第4節）とはなにか理解しておきます。	4時間
第6回	**イベントの企画と計画（2）計画の意味と本質** イベントの計画	イベント計画（テキスト第2章第5節）とはなにか理解しておきます。	4時間
第7回	**イベントの企画と計画（3）イベント企画の構成要素** イベント企画書とプレゼンテーション	イベントの実際の企画書（配布資料）を調べておきます。	4時間
第8回	**イベントの制作推進（1）制作と製作** イベントの制作推進と管理	イベントの制作と管理（テキスト第3章第7節）について調べておきます。	4時間
第9回	**イベントの制作推進（2）イベントの4大管理** イベントの会場制作	イベントの会場制作（テキスト第3章第8節）について調べておきます。	4時間
第10回	**イベントの制作進行（3）イベントプログラムの概念** イベントのプログラム制作	イベントのプログラム制作（テキスト第3章第9節）について調べておきます。	4時間
第11回	**イベントの制作進行（4）告知・集客の考え方** イベントの告知・集客、参加者・来場者・協力者募集	イベントの告知と集客方法（テキスト第3章第10節）を調べておきます。	4時間
第12回	**イベントの運営とマネジメント（1）広義の運営と狭義の運営** イベント運営の全体とイベント会場の運営業務	各自イベントに参加して運営の流れについて調べておきます。	4時間
第13回	**イベントの運営とマネジメント（2）イベント実施時の運営と会場管理業務** イベント運営業務のポイントおよびリスクマネジメントと安全管理	イベントの運営業務のポイントを調べておきます。	4時間
第14回	**イベントの運営とマネジメント（3）ユニバーサルイベント** これからのイベントマネジメントで必要とされるユニバーサルの概念と具体的な対応を学ぶ	イベントを自分ならばどう企画運営するか考えておきます。	4時間

522

授業科目名	**ホテル・ブライダル経営論**				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。（全１４回）				

授業概要

サービス産業の中核に位置するホテルの事業経営の両輪であるホスピタリティとマーケティングの本質を学ぶとともに、その特異な経営手法も身に付ける。ホテルとブライダル現場の運営知識の習得にくわえ、様々な事例にケーススタディ形式で触れ学ぶことにより、ホテルとブライダルのマネジメントへの興味と自己啓発意欲を高める。併せてこのビジネスを運営と経営の両視点から理解することにより、業界のグローバル化と生産性向上にマネジメントレベルで取り組める高度経営人材の育成を目指す。また、学修成果の確認のため、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」３級にもチャレンジできるよう指導する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	ホテル・ブライダル業界に関する知識	厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の３級「学科試験」合格レベルの知識が習得できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ホテル・ブライダル経営に関するケーススタディに取り組み、自らの考えをまとめ記述できる力	厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の３級「実技試験」合格レベルの知識が習得できる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		ケーススタディから本質的な課題を発掘し、検討できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		課題に対して、柔軟な条件設定ができ、具体的な改善、解決策を提示できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設ける。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記）	40 %	： 基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的文章作成力を評価する。
授業外課題	40 %	： 取り組み度（課題提出期限遵守を含む）と理解度、論理性について、独自のルーブリックに基づき３段階で評価する。
授業への参加度		： 授業やグループワークでの教員、メンバーとのやり取りを科目独自のルーブリックに基づいて評価する。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『ホテル･マネジメント概論Ⅰ』(一般社団日本宿泊産業マネジメント技能協会,2023年)、国枝よしみ・岡田晃編著『新しい観光学』(千倉書房,2023年,ISBN978-4805112755)、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』(同文舘出版,2019年,ISBN978-4495382629)、仲谷秀一著『新･総支配人論』(嵯峨野書院,2006年,ISBN978-4782304273)、田尾佳子著『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』(白桃書房,2016年,ISBN978-4561266860)、『数字でとらえるホスピタリティ』(産業能率大学出版部刊,2014年,ISBN978-4382057074)、沼上幹著『ブライダル産業～デフレーション下における需要構造分析』(東洋経済新報社,2017年)、【論文】徳江順一郎『ブライダルにおける市場の変化とホスピタリティ』(高崎経済大学論集第54巻第2号,2011年)、河内山潔、石川夕起子『ブライダル企業のケーススタディーワタベウェディング株式会社をケースとして―』(関西国際大学研究紀要12巻,2011年)、その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。また、教科書の代用とする資料は、授業前にコピー、あるいはGoogle Classroom上でデータ配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であり平均すると毎回４時間の授業外学修が求められるため、「授業外学修課題」ではホテルの基本現業部門の業務知識と用語の習得に取り組む。あわせて各回の授業の内容は丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。ホテルやブライダル業界にキャリアを求める学生はもとより、業種業界を問わずホスピタリティマインドとサービス産業の経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。また、経営管理には不可欠な計数感覚を身に付けるために、毎回の授業の冒頭を使い企業の管理会計に必要な基礎知識を学ぶ。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日　３・４限目

場所：　島研究室（西館２階）

備考・注意事項：　上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
（shima-m@osaka-seikei.ac.jp）メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、ホテル業界は今** 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。動画も使いホテル業界の現状と課題を共有し、ホテルマネジメントスキルの修得のための道筋を示す。	授業で視聴した動画に関する課題についてレポートにまとめて提出する。	4時間
第2回	**ホテルの歴史と基本知識** ホテルの語源と起源を学び、観光産業を構成する重要な業種の一つであるホテル業の発展の歴史を世界と日本で概観する。基本知識としては、分類の仕方や商品の特性を学ぶ。	世界あるいは日本の主要ホテルチェーン３つを選び、その発祥と発展の経緯並びに特徴についてまとめ、次回の授業の理解に備える。	4時間
第3回	**世界と日本のホテルチェーン** 現在の主要な世界ホテルチェーンを多面的に分類し、それぞれの生き残りのためのグローバル戦略について考える。あわせて日本の主要ホテルチェーンとその置かれている現状を学び、外資系とのホテル戦争をどう乗り切るかを考え、その仮説について議論する。	事前知識として、次回受業のテーマであるＫＰＩについて調べ、レポートにまとめる。（推奨する資料や動画は授業で提示する）	4時間
第4回	**組織目標達成のための重要指標（ＫＰＩ）** 客室部門の客室稼働率(Occupancy Rate)や平均客室料金(Average Daily Rate)など、ホテル産業の収入の基本指標を学ぶ。ホテルに限らずどの業界においても、過去の実績と成功のデータはある。ホテル業界も例外ではなく、ホテルのパフォーマンスを分析・評価する際に最も役に立つのがＫＰＩ(Key Performance Indicator)データである。	クラスルームに配信する「ホテルビジネス基礎編」第２章 宿泊部門を読み込み、基本事項をまとめ提出する。（次回の授業冒頭で回答を振り返る）	4時間
第5回	**ホテル産業におけるマーケティングの理解** マーケティング戦略の立案においては、顧客に関する側面のみならず、競合について理解を深めなければ自社の競争優位性、そしてその持続性を実現することは難しい、この授業では、ホテルのマーケティングを取り巻く経済やテクノロジーなどの環境、また脅威や戦略地位などの競争環境に関して、市場構造の視点をくわえて解説する。	クラスルームに配信する「ホテルビジネス基礎編」第３章 料飲部門を読み込み、基本事項をまとめ提出する。（次回の授業冒頭で回答を振り返る）	4時間
第6回	**ホテルの経営形態** ホテルの運営方式は大きく独立型とチェーン型に分けられる。現在の主流であるチェーン展開方式である代表的な５形態について、それぞれのメリットとデメリットを学び、今後日本のホテルが主要外資系ホテルチェーンと伍してグローバルに展開し、生き残るための条件について考える。	次回の授業で講義いただくホテルのブライダル責任者に対する事前質問事項をまとめてくる。	4時間
第7回	**ブライダルビジネスの基本（学外講師）** ホテルのブライダル部門の責任者にブライダルビジネスの基本と昨今のマーケットの事情について講義いただく。 ※この第７回授業、並びに関連する第８回は講師のスケジュールにより日程が変わることがあります。	クラスルームに配信する「ホテルビジネス基礎編」第４章 宴会部門を読み込み、基本事項をまとめ提出する。（次回の授業冒頭で回答を振り返る）	4時間

第8回	**ブライダル専業会社の多角化を考える** 出生率の低下が少子化を招き、ジミ婚やナシ婚も増える昨今、ブライダル業界は厳しい事業経営にさらされている。特にブライダルを専業とする会社を例に、今後の事業（ポートフォリオ）の多角化について考える。	次回の授業で取り上げるクレーム・苦情対応に関する事例問題に取り組み提出する。（次回の授業内で解答について解説する）	4時間
第9回	**ホスピタリティ産業のクレーム・苦情対応** ホテルでは日々様々なクレームが発生し、その対応は現場からマネジメントまでホテルパーソンに求められるもっとも大切なスキルである。昨今話題になっているカスハラ（カスタマーハラスメント）の最新事例を含め、その対処の仕方のポイントを整理し、動画等追加資料での説明もくわえ理解を深める。	次回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。（キーワードは指定する）	4時間
第10回	**ホテル会計と収益管理** ホテルをグローバルレベルで評価するためには、米国のホテル会計の統一制度である「ユニフォームシステム」の理解が不可欠である。その特殊性と有用性を学ぶことにより、ホテルビジネスを経営の視点で見る力を養う。授業は、授業外学習課題のキーワードに関する質問事項に回答し、疑問を解決しながら進める。	次回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。（キーワードは指定する）	4時間
第11回	**ホテル関連の法規** ホテル業は業務が多岐にわたり、利害関係者が多く存在するため、そこで日常的に発生するトラブルの種類も多種多様である。したがって、宿泊業に関連する行政法規に様々な法領域に散在する。その中でも極めて重要かつ代表的な法律について学び、対応するトラブルの種類を理解し整理する。授業は、授業外学習課題のキーワードに関する質問事項に回答し、疑問を解決しながら進める。	次回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。（キーワードは指定する）	4時間
第12回	**ホテル投資とファイナンス** 昨今、ホテル業は不動産業の様相が強く、投資対象として注目されている。不動産投資に関する基本用語を学ぶとともに、投資を考える際にポイントとなるリターン（Return）とリスク（Risk）を事例で確認しながら理解を深める。あわせて投資のためのファイナンス(金融)の基本についても学ぶ。授業は、授業外学習課題のキーワードに関する質問事項に回答し、疑問を解決しながら進める。	次回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。（キーワードは指定する）	4時間
第13回	**ホテル経営の課題と経営戦略の再構築** 今日のサービス産業、特にホテル業界が直面する課題について、経営管理とサービスの両面から整理をする。それぞれの課題について具体的解決策を検討し、コロナ終息後のホテル・旅館業の経営戦略の再構築に関して提案にまとめる。	第４回、５回、７回の授業外課題について再度振り返り、ホテル現場用語を自身で整理し提出する。	4時間
第14回	**授業の振り返りと総括** 提出された前回の授業外課題の回答について講評とコメントに続きポイントを再確認する。授業全体を総括し、定期試験のポイント、並びに本授業の目的の一つである、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」３級の受検にあたっての注意点についても説明する。	シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える。	4時間

522

授業科目名	旅行業務取扱管理者演習				
担当教員名	松田充史・松野麻里子				
学年・コース等	2年-4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営を担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。				

授業概要

本授業では、観光における唯一の国家試験である旅行業務取扱管理者資格の問題演習を通じて、旅行実務等について体系的に学ぶ。JR・航空・バス・フェリー・宿泊で構成される5分野の運賃・料金の知識、国内観光資源（＝地理）といった旅行会社のみならず、あらゆる観光関連事業者に必要とされる知識を体系的に学び、観光における唯一の国家試験である「旅行業務取扱管理者資格」を習得することを目標としている。
9月に実施される旅行業務取扱管理者試験を受験する学生が履修すること。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	旅行実務への理解	旅行業務取扱管理者資格に関する知識を得ることで、旅行実務の理解を深める。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		理解した知識で課題解決できる。
2. DP７.実践の完遂		知識を実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習	60 %	： 授業で行う演習を独自のルーブリックに基づいて60点満点で評価します。
定期試験	40 %	： 国内旅行業務取扱管理者資格の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
ユーキャン	・ 旅行業務取扱管理者・速習レッスン（国内・総合）	・ 自由国民社（ユーキャン）	・ 2025 年

参考文献等

必ず使用教科書を購入すること。
『旅行業務取扱管理者・速習レッスン（国内・総合）』2025年最新版
『ユーキャン 旅行業務取扱管理者　過去問題集（国内）』自由国民社（ユーキャン）
『ユーキャン 旅行業務取扱管理者　観光資源（国内・海外）ポケット問題集＆要点まとめ』自由国民社(ユーキャン)
（注）2025年度版のためISBNは未定

履修上の注意・備考・メッセージ

・必ず使用教科書を購入すること。
・国家試験「旅行業務取扱管理者試験」を必ず受験すること。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
・旅行業務取扱管理者資格試験の科目は広範囲におよび、本授業の学習だけでは不足である。授業外においても自主的かつ積極的に予習・復習を行うこと。
・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。
・対面での講義を補足するためにGoogle Classroomを活用する可能性もあり。
・教育研究支援センター「旅行業務取扱管理者試験（国内）対策講座」も併せて受講すること。
①5/20（火）4限　②5/27（火）4限　③6/3（火）4限　④6/10（火）　4限　⑤6/17（火）　4限　⑥6/24（火）4限　⑦7/1（火）4限　⑧7/8（火）4限　⑨7/15（火）4限　⑩⑪8/19（火）3-4限　※模擬試験実施
⑫8/26（火）3限　⑬⑭9/2（火）3-4限　（予定）
＊試験概要・公示後に確定します

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3時限（13:10～14:50）

場所：　松田研究室

備考・注意事項：　質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

松野講師への質問等はmatsuno-m@g.osaka-seikei.ac.jp へお願いします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、「運賃・料金」「観光資源（=地理）」の全体像** 今後の授業の進め方について、「運賃・料金（JR、航空、バス、フェリー、宿泊）」及び「観光資源(＝地理)」の概略を含め、旅行業務取扱管理者試験について理解する。	振り返りシートの作成。JR概要の該当する箇所の通読等。	4時間
第2回	**JR運賃・料金（１）JRの概要** JRの概要（運賃と料金の違い、年齢区分等）及び運賃の基本等について学ぶ。	振り返りシートの作成。JR運賃の該当する箇所の通読等。	4時間
第3回	**JR運賃・料金（２）JR運賃** 運賃の例外、割引（往復、学生、重複）及び発売日、有効期間、途中下車等について学ぶ。	振り返りシートの作成。JR特急料金の該当する箇所の通読等。	4時間
第4回	**JR運賃・料金（３）特急料金** 特急料金の基本、新幹線８路線と運行列車に関する知識等について学ぶ。	振り返りシートの作成。新幹線運賃・料金の該当する箇所の通読等。	4時間
第5回	**JR運賃・料金（４）新幹線（その１）** 特急料金：新幹線内乗継等について学ぶ。	振り返りシートの作成。新幹線内乗継の該当する箇所の通読等。	4時間
第6回	**JR運賃・料金（５）新幹線（その２）** 特急料金：新幹線内乗継等について学ぶ。	振り返りシートの作成。JRグリーン料金に該当する箇所の通読等。	4時間
第7回	**JR運賃・料金（６）グリーン料金等** その他の料金（グリーン、寝台、個室）、山形・秋田新幹線等について学ぶ。	振り返りシートの作成。払戻・変更、団体に該当する箇所の通読等。	4時間
第8回	**R運賃・料金（７）払戻・変更、団体** 運賃・料金に関する払戻・変更、団体の取り扱い等について学ぶ。	振り返りシートの作成。国内航空に該当する箇所の通読等。	4時間
第9回	**国内航空** 年齢区分、予約、購入期限、有効期間、運賃概要、取消・払戻等について学ぶ。	振り返りシートの作成。バス、フェリー、宿泊に該当する箇所の通読等。	4時間
第10回	**バス、フェリー、宿泊** 年齢区分、運賃・料金の詳細、購入期限、有効期間、取消・払戻等について学ぶ。	振り返りシートの作成。北海道、東北地方の予習。	4時間
第11回	**国内観光資源（１）北海道、東北地方**	振り返りシートの作成。関東、中部地方の予習。	4時間

	それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。		
第12回	**国内観光資源（２）関東、中部地方** それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。中部、近畿、中国地方の予習。	4時間
第13回	**国内観光資源（３）中部、近畿、中国地方** それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。四国、九州、沖縄地方の予習。	4時間
第14回	**国内観光資源（４）四国、九州、沖縄地方** それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4時間

522

授業科目名	**地域観光マネジメント**				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営マネジメントを担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。（全14回）				

授業概要

観光は経済効果や雇用創出の面から日本の最も重要なテーマの一つです。特に地方創生に貢献すると期待されています。この授業では地域における新たな創造型観光について学びます。最新事例を取り上げ、その背景にある地域の課題と意義を発見します。また持続可能性について、国や地方自治体だけではなく、民間や地域住民の参加や協働から議論します。そして、一連の講義と事例研究を通し、自ら積極的、主体的に学ぶ力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地域をマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の面から学ぶ	地域の仕組みを理解できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	地域における事業体の環境適応性を理解する	適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる力を身につける。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域に関する課題解決に向けて方策を企画・分析・活用できる
2. DP８.他者とのコミュニケーション		課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、コミュニケーションをとることができる。
3. DP９.他者との協調・協働		授業に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での取り組み	40 %	： 独自のルーブリックに基づいて評価します。
定期試験	60 %	： 試験の素点に基づいてテキストの理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小長谷一之・前田武彦	・ 地域創造型観光	・ 晃洋書房	・ 2024 年

参考文献等

・「地域創造のための観光マネジメント講座」学芸出版社（2016）
・「観光白書　最新版」（国土交通省）

履修上の注意・備考・メッセージ

・定期試験があります。テキストで毎回予習復習を欠かさないでください。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日5時限

場所： 松田研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の目的と方法について説明をします。前半では地域観光について基本的なことを学び、後半ではグループワークをおこないます。	Google Classroomで振り返りシートをつくる	4時間
第2回	**地域と観光** 日本の地域と、観光のあゆみについて理解します。そのうえで地方における観光の意義について考えます。	観光における地方の取り組みについて調べておくこと。	4時間
第3回	**地域のマーケティング** 地域経営を理解します。そのうえで観光政策など「観光立国」日本の政策について理解します。	マーケティングについて調べておくこと。	4時間
第4回	**地域の組織と主体** 地域観光の組織と主体を理解します。ＤＭＯの事例などからを理解します。さらに、地域活性化としての観光から地域の主体となる組織の在り方を多角的に理解します。	地域の組織にはどんなものがあるか調べておくこと。	4時間
第5回	**地域ブランド戦略** 地域が目的を達成するために必要となる打ち手を観光から考えます。さらにブランドの概念など多角的に地域観光を理解します。	日本で開催されるイベントについて調べておくこと。	4時間
第6回	**ツーリズムと関係人口** 関係人口の概念や事例、可能性について理解します。	交流人口、関係人口、定住人口について調べておくこと。	4時間
第7回	**地域観光の課題（閑散期・オーバーツーリズム）** 変化の激しい環境下での地域観光の現状を理解します。地域を取り巻く課題と視点を観光から考えます。閑散期やオーバーツーリズムなど多角的に課題を考えます。	調査対象について調べておくこと。	4時間
第8回	**大阪の事例調査①（調査対象を選ぶ）** 調査の下調べをします。調査の目的、方法を理解したうえで調査対象を選びます。さらに資料をどのように入手するか、資料がどの程度あるかを調べます。	調査内容について調べておくこと。	4時間
第9回	**大阪の事例調査②（調査内容を決める）** 下調べによってわかったことをふまえて、調査内容を決めます。さらに、観光資源とは何か、資源の発掘から観光資源への開発などの理解を深めます。	フィールドワークの技法について調べておくこと。	4時間
第10回	**大阪の事例調査③（フィールドワーク）** フィールドワークでの観察をおこないます。より効果的な調査となるように、各グループで個々の役割を主体的かつ積極的に担います。	グループでのフィールドワークの観察内容をまとめておく。	4時間
第11回	**大阪の事例調査③（調査）** グループの協働による調査を通して、地域観光の現状を理解します。	各自で発表の準備をおこなう	4時間
第12回	**発表会（1日目）** 地域観光の調査内容をまとめ・発表します。グループごとにプレゼンテーションをおこないます。	各自で議論の準備をおこなう	4時間
第13回	**発表会（2日目）** 発表した内容に対して質疑応答をします。グループで課題解決の方向性を確認します。	議論の準備をしておく。	4時間
第14回	**調査内容の分析と議論** 調査を全員で振り返ります。本授業でのフレームワークを使い、調査内容を分析し議論したものを可視化します。	Google Classroomでまとめておく	4時間

522

授業科目名	**観光まちづくり論**				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。（全14回）				

授業概要

観光まちづくりとは「観光」×「まちづくり」で、住んでよし、訪れてよしのまちづくりのことです。観光客が特定の観光地のみを訪ねるだけではなく、例えば、まちにある人気のレストランで食事をしたり、ショップを訪ねたり、住民による観光ガイドにまちを案内してもらうなど、観光客がまちに直接ふれることにより、ご当地の事業者や住民にとっても誇りが持て、メリットのある観光で、近年広がっています。この授業では、公園などの公共施設の魅力化、まちごとミュージアム、地域分散型宿泊施設、道の駅、農業との連携、農泊、ワーケーション、地域芸術祭などテーマを設定した上で、事例等について学び、観光まちづくりの実態と効果、今後の課題や方向性について一緒に考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光まちづくりの考え方と多様な事例や展開	観光まちづくりの考え方を学び、全国の多様な角度からの事例を知ることにより、観光や地域を深く捉え、活用や展開について考える力を身に着けることができる。
2. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	観光まちづくりの事例における事業創出と運営ノウハウ	観光まちづくりの事例を学び、分析することにより、関連産業や事業の創出や運営の方法について学ぶことができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		個人ワークとグループワークを通して、観光まちづくりの事例を調査・分析することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度・提出物	80 %	： 毎回、ワークシート等の提出を求めます。その提出状況と、通期の受講態度で評価します。
期末レポート	20 %	： 講義全体に関する理解度や意欲を測るレポート提出を求め、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2022）『新しい観光学』千倉書房、ISBN978-4-8051-1275-5

NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編 (2016)『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、
ISBN978-4-7615-2635-1
国土交通省『観光白書』（最新版）※webにも掲載

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 個人研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 講義全体の概要と進め方、評価等について説明します。 観光まちづくりの現れた背景や経緯、観光やまちづくりとの違いを踏まえた定義や意義等について考えます。 現状及び今後の社会情勢や観光を取り巻く状況を踏まえて、これからの観光まちづくりの求められる方向性について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回	**「魅力的な公共施設」と観光まちづくり** まちなかにある公園や博物館・美術館、スポーツ施設などの公共施設は、もとは市民の憩いの場や教育・健康等を増進するための施設でしたが、近年、建物等の外観もかっこよく、内外の居心地もよく、飲食や物販等の機能も持つ、いわば観光的な施設としても変身してきました。それにより、公共施設への集客数が上がり、さらには周辺のまちにもお客さんが流れるなど波及効果も見られる場合もあります。こうした取組について事例を中心に学び、魅力的な公共施設と観光まちづくりが現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方について考えます。	魅力的な公共施設と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第3回	**「まちまるごとミュージアム」と観光まちづくり** まちなかにあるごく普通の自然、歴史・文化、建物、お店など多様な資源を訪問スポットとして捉え、まち全体を観光フィールドと考えた「エコミュージアム」「まちなか博物館」などの考え方があります。それにより、まちのイメージアップや交流人口の増加、来訪者のみならず地域住民の参加や誇りの向上などを目的とする典型的な観光まちづくりです。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	まちまるごとミュージアムと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第4回	**「地域イベント」と観光まちづくり** まちなかにある数多くのレストランやカフェなどが参加し、ある一日を設定して、来訪者は５枚つづりのチケットを持ち、参加店舗の中から５軒を選んで各お店を訪ね、それぞれで１ドリンク、１フードを楽しむ。それが典型的な「まちなかバル」と呼ばれるイベントです。来訪者は普段は利用しないお店に入り、新しいシェフやメニューとであることができる、一方、お店側は来訪者にPRし、新しいお客さん獲得の可能性がある観光まちづくりの一種です。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	地域イベントと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第5回	**「地域分散型宿泊施設」と観光まちづくり** ホテルや旅館など宿泊施設は１つの建物の中で完結しているのが一般的ですが、近年、泊まるのはまちなかの空き家にある部屋、夕食は地域で人気のある居酒屋、お風呂は銭湯、朝食は近くの喫茶店でモーニングを食べるなど、あたかも地域住民として暮らすように「地域分散型宿泊施設」の取組が現れてきました。イタリア発祥で日本でも取組が進みつつある観光まちづくりの一種です。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	地域分散型宿泊施設と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第6回	**「道の駅」と観光まちづくり** 道の駅とはもともと道路利用者が休憩や道路情報を入手することを中心に1993年から設置され始めましたが、現在は地域農産物直売所や加工品の開発・物販店、レストラン、観光案内コーナー、公園など付加価値機能の部分が重視され、全国で1,000か所以上設置されています。来訪者が立ち寄り、地域住民も農産物等を出品したり、買い物などに利用する、まさに観光まちづくりや地域活性化の拠点となっています。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	道の駅と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第7回	**「農業」と観光まちづくり** 農業が関係する観光は高度成長期以来さまざまなものがあります。みかんやぶどうなどの味覚狩りなどの観光農園、都市農村交流による農村活性化をねらったグリーンツーリズムという名のもとに農村における貸農園や直売所、宿泊施設等の整備、６次産業化などです。またアフターコロナの時代には改めて、安全な食や農産物、地産地消、エシカル消費などが注目され農家と消費者（市民）が直接つながる動きもあります。それらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	農業と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第8回	**「農泊」と観光まちづくり**	農泊と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

	小学校や中学校の修学旅行で農家に泊まり、農作業体験や郷土料理の調理や試食体験、地元の人との交流や地域の魅力資源への案内付き訪問などをする体験プログラムが特に2000年代から広がってきました。そして現在は子どもの教育旅行だけではなく、大人やインバウンド客もターゲットとして含めた「農泊」という取組として全国で進められています。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。		
第9回	**「ワーケーション」と観光まちづくり** 「ワーケーション」とはWork(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすことで、コロナ禍で注目を集めた新しい旅行スタイルの１つです。企業側にとっては、普段とは異なる就業環境による、仕事の質の向上や有給休暇の取得促進、従業員にとってはリフレッシュ効果や長期休暇の取得、受け入れ地域にとっては、平日旅行需要の創出、関係人口の増加、遊休施設等の有効活用などのメリットがあるとされ、近年、取り組む企業や自治体も増えつつあります。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	ワーケーションと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第10回	**「地域芸術祭」と観光まちづくり** 日本中で開催されている「地域芸術祭」のパイオニアで、かつ世界最大級の国際芸術祭として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」があります。これは新潟県の越後妻有地域で2000年から始まり、３年に１度開催されています。豊かな四季が巡る里山で1年を通して約200点の作品を楽しめるだけでなく、季節ごとに企画展やイベント、ツアーを開催しており、アート作品や旧小学校での食事や宿泊もできます。地域に内在するさまざまな価値をアートを媒介として掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域再生の道筋を築くことを目指しています。また、同様の地域芸術祭として「瀬戸内国際芸術祭」があります。こちらは瀬戸内海の島々が舞台であり、来訪者は船で島々を巡ります。これらはまさに過疎地域における観光まちづくりの実験とも言えます。これらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	地域芸術祭と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第11回	**「ローカル鉄道やバス」と観光まちづくり** 人口減少やマイカー普及による利用者減少に加え、特に、近年のコロナ禍を受けて、地方における鉄道やバスなどの公共交通の経営は非常に厳しくなっています。そうした問題を、地域の通勤通学や観光利用などを含む沿線自治体にとっての重要な地域課題として捉え、さまざまな対応策が実施されています。観光列車の運行や名物駅長の配置や発信、地域と連携した駅空間の活用、人とモノの両方を載せるバス便の工夫、イベントバスとしての改良などです。これらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	ローカル鉄道やバスと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第12回	**観光まちづくりに関する意見交換（ワールドカフェ）** 11回までの授業をふりかえり、印象に残った、関心のあるテーマを選び、その理由と今後の展開方向やアイデアについて個人ワークとして考えた上で、ワールドカフェ方式で、複数人との間で共有、意見交換し、他人からの気づきを得るともに、自分の考えを深めるきっかけとします。次回までの課題として、観光まちづくりに関する気づきと提案に関するスライドを作成します。	観光まちづくりに関する気づきと提案に関するスライド作成	4時間
第13回	**発表会（前半）** 12回のワークを踏まえ、各自が作成したスライドに基づき、観光まちづくりに関する気づきと提案に関して、各自、発表を行います。自分の発表だけではなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。	自分と他グループの発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第14回	**発表会（後半）とまとめ** 13回に引き続き発表会を行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。	自分と他グループの発表及び講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

522

授業科目名	ツーリズム研究1				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講座は、観光や国際ビジネスを学ぶ学生が、異文化環境での学びを最大化するための準備を行うことを目的としています。授業では、異文化理解と自国および現地社会（文化、観光資源、ビジネス環境）の理解を深めるとともに、現地でのフィールドワークのための準備を行います。また、異文化コミュニケーションに焦点を当て、数多くのケーススタディを通じて効果的なコミュニケーションの知識を身に着けながら、交流において直面する可能性のある課題への対処法について考えます。交流に必要な英語知識も学びます。明確な目的と自信をもって留学や海外研修に参加できるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	グローバルなコミュニケーション	文化的差異に配慮したミュニケーションのあり方を理解し、実際の場面で柔軟な対応ができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		日本と海外の社会、文化、観光資源、ビジネス慣習などを調査・分析することができる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自分で設定した課題について調査計画を立てることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	20 %	： 期限を守って提出しているか、課題の目的を理解し適切に取り組んでいるか
授業参加	30 %	： グループ活動、ディスカッション、発表等への取り組みから評価
中間レポート	40 %	： 学習した内容を理解し、応用できているかをルーブリックに基づいて評価
期末レポート	10 %	： 授業に基づき自分の考えを深め、整理し、表現できているかをルーブリックに基づいて評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Peter Vincent, Naoko Nakazato ・ Speaking of Critical Thinking ・ NAN'UN-DO ・ 2021 年

参考文献等

関連文献については各回の授業で随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します

場所： 西館２階個人研究室

備考・注意事項： Google Classroomや Gmailでいつでも連絡してください。
メールには必ず科目名、学籍番号、氏名をお知らせください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと目標設定ワークショップ** ・授業の概要、目的、進め方の理解 ・目標設定ワークショップ	ワークシートの完成	4時間
第2回	**ツーリズムと異文化理解の基礎** 異文化理解の基礎的な視点について ・講義とディスカッション	日本文化を英語で伝える練習	4時間
第3回	**日本文化とその影響(1)：伝統文化** 日本の伝統文化の影響について ・講義とディスカッション ・個人ワークとグループ内および全体での共有	日本文化を英語で伝える練習	4時間
第4回	**日本文化とその影響(2)：現代日本社会** 日本の現代文化の影響について ・講義とディスカッション ・個人ワークとグループ内および全体での共有	日本文化を英語で伝える練習	4時間
第5回	**現地社会の理解(1)：歴史、社会構造、交通** 現地社会についての調査 ・講義とディスカッション ・個人ワーク、グループ内共有 ケーススタディ：文化の違いが引き起こす問題	現地社会についての調査／日本との比較	4時間
第6回	**現地社会の理解(2)：文化的な違いと人々の価値観** 現地社会についての調査 ・講義とディスカッション ・個人ワーク、グループ内発表 ケーススタディ：学校文化の違い	現地社会についての調査／日本との比較	4時間
第7回	**現地社会の理解(3)：食文化や飲食習慣** 現地社会についての調査 ・講義とディスカッション ・個人ワーク、グループ内発表 ケーススタディ：感じ方について	現地社会についての調査／日本との比較	4時間
第8回	**現地社会の理解(4)：観光資源と観光業** 現地社会についての調査 ・講義とディスカッション ・個人ワーク、グループ内発表 ケーススタディ：日本の外国人	現地社会についての調査／日本との比較	4時間
第9回	**現地社会の理解(5)：ビジネス環境、経済状況、ビジネス慣習** 現地社会についての調査 ・講義とディスカッション ・個人ワーク、グループ内発表 ケーススタディ：意見の表し方の違い	現地社会についての調査／日本との比較	4時間
第10回	**異文化コミュニケーション(1)：自他の価値観への気づき** ケーススタディ：意見のすり合わせ ・ディスカッション ・ミニレポート 調査準備：英語で質問する方法	現地調査についての計画	4時間
第11回	**異文化コミュニケーション(2)：意見が対立した場合** ケーススタディ：意見の対立 ・ディスカッション ・ミニレポート 調査準備：英文メールの書き方	現地調査についての計画	4時間
第12回	**異文化コミュニケーション(3)：ビジネスの方法** ケーススタディ：交渉する ・ディスカッション ・ミニレポート 調査準備：アポの取り方	現地調査についての計画	4時間
第13回	**現地フィールドワークの準備**	現地調査計画レポートの完成	4時間

	現地調査内容の発表 現地生活上の危機管理		
第14回	**まとめと振り返り** 目標設定ワークショップ２ 海外からの旅行者・短期滞在者としての責任について考える	授業の振り返り、最終レポートに向けた準備	4時間

522

授業科目名	**フィールドリサーチ**				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。（全14回）				

授業概要

本授業は、観光における研究手法の主要なものであるフィールドリサーチについて、その手法を身につけることを目標とする。フィールドリサーチとは、フィールドに密着し、参与観察・ヒアリングなどの技法を使いながら一次データを集め、調査対象に対して考察する研究方法である。履修者はまず基本的な研究方法・態度を理解した上で、実際にフィールドリサーチに繰り出して、定性的な情報を集め、得られた諸データから分析・討論を繰り返しながら、新たな発見をめざす技術と態度を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	フィールドリサーチの基礎知識と実践力	フィールドリサーチの知識と方法を学んだ上で、実践演習としてフィールドワークを行い、リサーチの具体的な方法について身に着けることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		現場を観察し、関係する人の話を聞くことにより、また、それらを記録し、分析・考察し、発表することで、あらゆる分野に必要な現場観察・対応のノウハウを身に着けることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		現場観察やヒアリング、記録、その分析・考察を踏まえた上で、発見された課題についてその解決のための方策について企画提案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自ら考えた課題解決のための方策について、自ら主体的に関わり、解決に向けて動く。
4. DP10.忠恕の心		フィールド調査は現場関係者やステークホルダーとの関りが前提となる。その中で、相手のことを想像し、自分の役割について認識を深める。

学外連携学修

有り(連携先：大阪府あるいは兵庫県内の自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート・受講態度	15 %	： 講義におけるワークシートの提出状況や内容、授業態度で評価します。
フィールドリサーチへの参加態度	70 %	： フィールドリサーチの演習をグループワークとして２セット行いますが、その事前調査、現場での対応、事後のまとめ、発表における態度や内容を評価します。
期末レポート		： 講義全体に関する理解度や意欲を測るレポート課題を出し、その結果で評価します。

15　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜３限

場所：　個人研究室

備考・注意事項：　質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
アドレスは、授業で伝えます。
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、フィールドリサーチの概念や必要性について説明し、事例等を参照し、フィールドリサーチの実践イメージについて理解を深めます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回	**現場観察の方法論** フィールドリサーチの１つの柱は、現場に赴いて、その状況を客観的に観察し、記録することです。その事前の準備や、現場での観察する視点や対応、記録の方法、事後のまとめや分析・考察等について、具体的な方法論について学びます。 現場観察のための観察シートの作成、観察マップの作成、カメラや録音機器など、その対象に応じて必要なツールについても学びます。	現場観察の方法論に関するワークシートの作成・提出	4時間
第3回	**ヒアリングの方法論** フィールドリサーチのもう１つの柱は、現場に赴いて、関係者や来訪者等に聞き取り等を行うヒアリング調査です。その事前の準備や現場での対応、記録の方法、事後のまとめや分析・考察等について、具体的な方法論について学びます。 ヒアリングに必要なヒアリングシートの作成、録音機器など、その対象に応じて必要なツールについても学びます。	ヒアリングの方法論に関するワークシートの作成・提出	4時間
第4回	**現場リサーチ（イベント編）・事前調査と準備** 授業の５回分を使って、イベントを対象とした現場リサーチの演習を行います。 近畿圏の自治体と連携し、観光イベントや地域の行事等を対象とします。 数名のに人数のグループを形成し、グループワークの形で進めます。 この回では、事前準備として、そのイベント等に関する情報収集と整理を踏まえて、現場リサーチを想定して、そのために必要な観察シートの作成やヒアリングシートの作成などを行い、現場リサーチの準備を行います。	事前調査と準備に関するワークシートの作成・提出	4時間
第5回	**現場リサーチ（イベント編）・現地調査** 第4回を踏まえて、第5回と第6回の2回分の授業時間を使い、対象となるイベントの現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。	現地調査に関するワークシートの作成・提出	4時間
	第4回を踏まえて、第5回と第6回の2回分の授業時間を使い、対象となるイベントの現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。		
第7回	**現場リサーチ（イベント編）・分析と考察** 第5回と第6回の2回分で行った現場リサーチの結果をまとめるとともに、分析・考察を行い、発表資料を作成します。	分析と考察に関するワークシートの作成・提出	4時間
第8回	**現場リサーチ（イベント編）・発表と意見交換** 第7回に作成したプレゼン資料をもとに、各グループによる発表を行い、現場リサーチのあり方について全員で意見交換を行います。	発表評価シートの作成・提出	4時間
第9回	**現場リサーチ（施設編）・事前調査と準備** 授業の５回分を使って、イベントを対象とした現場リサーチの演習を行います。 近畿圏の自治体と連携し、観光施設やまちなかを対象とします。 数名のに人数のグループを形成し、グループワークの形で進めます。 この回では、事前準備として、そのイベント等に関する情報収集と整理を踏まえて、現場リサーチを想定して、そのために必要な観察シートの作成やヒアリングシートの作成などを行い、現場リサーチの準備を行います。	事前調査と準備に関するワークシートの作成・提出	4時間

第10回	**現場リサーチ（施設編）・現地調査** 第９回を踏まえて、第10回と第11回の2回分の授業時間を使い、対象となる観光施設等の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。	現地調査に関するワークシートの作成・提出	4時間
	第９回を踏まえて、第10回と第11回の2回分の授業時間を使い、対象となる観光施設等の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。		
第12回	**現場リサーチ（施設編）・分析と考察** 第10回と第11回の2回分で行った現場リサーチの結果をまとめるとともに、分析・考察を行い、発表資料を作成します。	分析と考察に関するワークシートの作成・提出	4時間
第13回	**現場リサーチ（施設編）・発表と意見交換** 第12回に作成したプレゼン資料をもとに、各グループによる発表を行い、現場リサーチのあり方について全員で意見交換を行います。	発表評価シートの作成・提出	4時間
第14回	**まとめとふりかえり** 講義及び現場リサーチの実践をふりかえり、フィールドリサーチの要点について再度確認し、今後の実践に向けた課題についてみんなで共有します。	講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

232

授業科目名	**国際経営戦略論**				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全14回）。				

授業概要

現代においては、企業活動が国境を越えさらにグローバルな視点から経営と事業活動を行い成果を挙げることが、多くの企業の重要な経営の目標や課題として重要性を増しています。本講義は、企業活動のグローバル化に関する企業経営のあり方について、国際経営、特に戦略に関する知識・理論を学び、最新の動向やトレンドにも焦点を当てて重要点を解説し、国際経営および戦略に関する理解を深めます。国際経営や戦略の知識は、海外市場での企業活動だけでなく、国内で海外からの顧客をターゲットとするホテル等観光関連の企業、日本市場で活動する外資系企業や、外国人幹部や社員が活躍する日本企業の活動にも大きな関りがあります。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を分かりやすく解説するとともに質疑応答を行います。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月１回程度併用する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	国際経営戦略に関連する基本的な事項・知識・理論を理解する。	国際経営戦略に関連する基本的な事項・知識・理論について説明できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	国際経営戦略に関連する重要事項・知識・理論を理解する。	国際経営戦略に関する重要事項・知識・理論について理解し課題の解決案の検討に応用できる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		国際経営戦略に関わる重要な課題を、文献・情報収集・分析・応用により発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

授業方法はクラスの規模等により適宜変更する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート（リアクションペーパー、毎回）	30 %	： 授業内容を踏まえた記述を評価対象にします。授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。授業日から1週間の期限後の提出は原則として認めません。
テキスト各章の発表	10 %	： テキストの各章を分担し、単独で発表いただきます。満点を10点で評価、発表なしの場合は0点です。
授業内クイズ	20 %	： 国際経営に関する国際経営に関する基本的な事項を質問し、各授業時間内で回答いただきます。
期末試験	40 %	： 国際経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができているかを基準にして評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大木清弘	・ コア・テキスト国際経営 ISBN978-4-88384-266-7	・ 新世社	・ 2017 年

参考文献等

吉原秀樹（2021）『国際経営〔第5版〕』有斐閣アルマ　ISBN: 978-4641221727
梶浦雅己編著（2014）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（改訂新版）』文眞堂　ISBN：978-4-8309-4810-7
江夏健一・太田正孝・藤井健（2013）『シリーズ国際ビジネス１国際ビジネス入門〈第2版〉』中央経済社
ISBN: 978-4502480102

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習（課題の解答案の作成を含む、以下同じ）をすること。本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・経済・社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するよう心掛けてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、毎回のリアクションペーパーや課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 西館3階44研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、国際経営とは何か** 国際経営とはどのようなものかについて、国際経営が日常化している状況や、国際経営の難しさ、企業が国際経営を行う理由などについて学びます。	教科書の第1章を読んで、国際経営に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。	4時間
第2回	**海外直接投資の理論** 海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論についての基本を学びます。	講義の内容を、教科書の第2章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外直接投資やその理論に関する理解を深めます。	4時間
第3回	**多国籍企業による国際競争の歴史** 国際経営の主たる担い手である多国籍企業について、その歴史的な変遷を振り返り学びます。そこでは、米国企業、欧州企業、日本企業による競争環境の変化などを取り上げます。	講義の内容を、教科書の第3章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本企業も含む多国籍企業の歴史的な変遷や競争環境の変化に関する理解を深めます。	4時間
第4回	**多国籍企業の国際経営の事例** 代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営の特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書の第1-3章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し多国籍企業と国際経営についての理解をより深めます。	4時間
第5回	**国際経営のタイプとトランスナショナル経営** 国際経営のタイプや、その進んだ形であるトランスナショナル経営とはどのようなものであるか、国際経営で重要なグローバル統合とローカル適応という考え方を学びます。	講義の内容を、教科書の第5章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際経営のタイプとトランスナショナル経営や、グローバル統合とローカル適応に関する理解を深めます。	4時間
第6回	**海外子会社の経営** 海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の設立の方法・形態、子会社の役割などについて学びます。	講義の内容を、教科書の第6章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外の子会社の経営やその設立などに関する理解を深めます。	4時間
第7回	**国際マーケティング** マーケティングとは何か、国際マーケティングと国内マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第7章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。	4時間
第8回	**国際マーケティングの企業事例** 前回の授業で学んだ国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	講義の内容を、教科書の第7章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、国際マーケティングについての理解をより深めます。	4時間
第9回	**海外生産と国際拠点展開** 海外での生産の意義・目的、拠点設立と運営の重要点、国際的な生産ネットワークについて学びます。	講義の内容を、教科書の第8章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外生産の重要点に関する理解を深めます。	4時間

第10回	**海外生産の企業事例** 前回の授業で学んだ海外生産に関し典型的な多国籍企業の事例で学びます。	講義の内容を、教科書、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、海外生産についての理解をより深めます。	4時間
第11回	**研究開発の国際化** 研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか（立地の選択）、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。	講義の内容を、教科書の第9章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第12回	**国際的な人的資源管理** グローバル人材や国際人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第10章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、グローバル人材や国際人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第13回	**日本企業の国際経営** 日本企業の国際経営の現状と課題、今後の発展に求められる重要事項について、分かりやすい事例も紹介して学びます。	講義の内容を、教科書の第12章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本的経営の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第14回	**本講義のまとめ** 本講義で取り上げた重要事項について講義全般を振り返ってさらなる理解を深めます。	本講義の重要点を復習し、講義全般に関する理解を深めます。	4時間

522

授業科目名	**財務諸表論**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

財務会計は、株主、投資家、債権者等の企業外部の利害関係者に対し、経営成績や財政状態を報告することを目的とした会計である。本講義では、財務諸表の作成にあたり、企業が遵守すべきルールである会計基準について理解を深めていく。主として、財務会計の機能と制度、財務諸表における利益計算、企業会計原則の一般原則、および個々の会計項目における会計処理について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	貸借対照表および損益計算書の分析方法に関する知識	企業における財政状態や経営成績について、データを通して分析し、判断できるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	貸借対照表および損益計算書項目における会計処理の知識	財務諸表を構成する個別の会計項目における会計処理を理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業の財務諸表を見て、その内容の分析および問題点の発見ができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業中に行う小テストにより内容理解の確認を行う。
課題の提出	30 %	： 学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。
期末テスト	40 %	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

桜井久勝『財務会計講義　第24版』中央経済社、2023年（ISBN：978-4-502-46061-6）。
伊東邦雄『新・現代会計入門　第6版』日本経済新聞出版、2024年（ISBN：978-4-296-12004-8）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館２F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび財務会計の機能** 講義の進め方に関する説明 財務会計の利害調整機能と情報提供機能 財務会計の法規制	配布資料（財務会計の機能）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第2回	**貸借対照表と損益計算書** 貸借対照表と損益計算書における会計項目	配布資料（貸借対照表と損益計算書）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第3回	**利益計算の仕組み** 企業活動と財務諸表 複式簿記の構造	配布資料（利益計算の仕組み）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第4回	**会計基準** 会計基準の必要性 会計基準の設定 企業会計原則の一般原則	配布資料（会計基準）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第5回	**利益測定の基礎概念** 現金主義会計と発生主義会計 発生主義会計の基本原則	配布資料（利益測定の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第6回	**資産評価の基礎概念** 資産評価の基準（取得原価、取替原価、純実現可能価額、割引現在価値）	配布資料（資産評価の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第7回	**現金預金と有価証券** 現金および預金 有価証券とは 有価証券の範囲と区分 有価証券の取得原価 有価証券の期末評価	配布資料（現金預金と有価証券）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第8回	**売上高と売上債権** 収益認識に関する会計基準 売上債権（売掛金、受取手形、貸倒引当金）	配布資料（売上高と売上債権）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第9回	**棚卸資産と売上原価** 棚卸資産の範囲と区分 棚卸資産の取得原価 棚卸資産の原価配分 棚卸資産の期末評価	配布資料（棚卸資産と売上原価）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第10回	**有形固定資産と減価償却** 固定資産の範囲と区分（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産） 有形固定資産の取得原価 減価償却 固定資産の期末評価	配布資料（有形固定資産と減価償却）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第11回	**無形固定資産** 知的財産と研究開発 無形固定資産とは 無形固定資産の取得原価 無形固定資産の償却 繰延資産	配布資料（無形固定資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第12回	**負債** 負債の範囲と区分 引当金 流動負債 固定負債 偶発債務	配布資料（負債）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第13回	**株主資本と純資産** 純資産の構成 払込資本――資本金と資本剰余金 稼得資本――留保利益	配布資料（株主資本と純資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第14回	**まとめ**	授業で配布した問題の見直し	4時間

第1回～第13回までの授業内容の復習		

522

授業科目名	Research & Presentation１				
担当教員名	デイヴィス恵美				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手日系電機メーカーのイギリス現地法人において、ヨーロッパ圏内の販社営業を担当し、販売戦略などに関する資料作成やプレゼンテーションも担当した。				

授業概要

本授業では、将来観光人材として活躍するための素地となる教養を育むことを目的とする。具体的には、学生自らが興味をもって発信したい文化について掘り下げてリサーチを行い、英語で発表ができることを目標とする。授業ではリサーチトピックについて個人発表を通して他者と共有する。その上でリサーチ内容や発表スキルについてフィードバックを受け、次回の改善につなげることにより、段階を踏んで発表スキルを高める。卒業研究発表の下地となるリサーチ力、分析力、論理的思考、文章構成力、発表力について総合的に実践し、アカデミックスキルを高める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	文化的資料を読み理解する	文化的な内容について知識を深め、関連するリサーチを通して教養を深める。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	アカデミックプレゼンテーションの基礎を学ぶ	プレゼンテーションに必要な定型表現や語彙を習得する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		必要な資料をどのように探せば良いのかを知り、その妥当性と信頼性について考える
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自律的なリサーチを行い、その情報を仲間と共有することで経済性を確保し、協力して問題解決に取り組む
3. DP７.実践の完遂		最終的な課題を達成することの意義を仲間と共有し、達成までお互いを助け合う
4. DP８.他者とのコミュニケーション		協働学習の中で、他者から学び、自らのコミュニケーションを省察する
5. DP９.他者との協調・協働		協働学習の中で、仲間に信頼をおいて学修を推進すると同時に、自らも信頼を得られる仕事をこなす

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

9週目までに最低1回の個別フィールドワークを必要とする。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

·授業内プレゼンテーションを行い、クラスで自らのリサーチの進捗を共有しあう。
·ピアレビューシステムを取り入れ、オープンな環境でお互いの成果を建設的にコメントし合う。
·学科専門教員を授業内プレゼンテーションのオブザーバーとして招致し、フィードバックをもらう。
·提出物にはコメント・評価をつけて返却する。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Participation	30 %	: 授業内での建設的なピアレビューに積極的に参加しているかにより、貢献度を評価する。
In-class mini presentation	30 %	: 協働学習の意義を認識し、自律的なリサーチに基づいたミニプレゼンテーションを提供し、授業運営に貢献できているかを総合的に判断する。
Final Presentation	20 %	: 自らのリサーチを論理的かつ説得性のあるプレゼンテーションとして発表できているかをルーブリックに基づき評価する。
Research Portfolio	20 %	: 自らの学習の進捗を管理し、批判的に振り返り改善に結び付ける努力が示されているかを総合的に判断する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指定する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められます。 特に協働学習の本質を理解し、自らの貢献度を向上させるためにも、必ず毎回のミニプレゼンテーションを実践できるように準備してください。普段から社会における様々な事象をクリティカルな視点を持って眺め、自らインプットを求める積極性が求められます。社会で有用な人材として活躍するためにはコミュニケーションを円滑に行うスキルが必要であり、その原動力は自らの「人間力」であることを理解し、分野を限定することなく幅広く見聞を広めて下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

備考・注意事項： 場所: 西館　個人研究室1
本授業では学期中に最低でも1回のフィールドワークが必要です。その分1回の通常授業を調整します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：リサーチとは** Introduction 1. 講義の進め方の説明 2. 学期を通しての学びに期待することの説明 3. 学修ポートフォリオについての説明 4. リサーチの行い方の説明（特に生成系AIの使用についての注意喚起） 5. ルーブリックの説明 6. 個人の最終到達目標の設定 個人ワーク それぞれの興味のある文化的事柄について簡単なリサーチを行う。 グループワーク お互いのテーマについて1分間でスピーチを行う。 お互いにコメントをフィードバックする。 共通テーマ①についての説明	共通テーマ①リサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第2回	**共通テーマ①ミニプレゼンテーション** ミニプレゼンテーション それぞれ共通テーマ①について、自らのリサーチに基づいた個別プレゼンテーションを行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理 共通テーマ②についての説明	共通テーマ②リサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第3回	**共通テーマ②ミニプレゼンテーション** プレゼンテーション それぞれ共通テーマ②について、自らのリサーチに基づいた個別プレゼンテーションを行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理 個別の課題設定について説明	個人テーマ設定・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第4回	**個人テーマ共有ミニプレゼンテーション**	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間

	プレゼンテーション それぞれ設定した個別テーマについて説明を行う。なぜそのテーマに関心があるのか、どのようなことを発見したいのかについて簡潔かつ論理的に説明を行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理		
第5回	**個人テーマミニプレゼンテーション　Step1** プレゼンテーション それぞれ個別テーマについての自らのリサーチの進捗状況を報告する。今後の予定について説明をする。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・学習ポートフォリオ提出①	2時間
第6回	**アカデミックプレゼンテーション講義①** プレゼンテーションスライドについて 発表構成について プレゼンテーションスキルについて	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第7回	**個人テーマ　中間発表** プレゼンテーション それぞれのテーマについてのここまでのリサーチについてまとめた中間報告を日本語で行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第8回	**アカデミックプレゼンテーション講義②　英語版** 英語でのプレゼンテーションについて 定型表現等のインプットと練習	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第9回	**個人テーマミニプレゼンテーション　Step2** プレゼンテーション それぞれ個別テーマについての自らのリサーチの進捗状況を報告する。 今後の予定について説明をする。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理 ※この週までにフィールドワークを実施し、その調査結果についてまとめる	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第10回	**個人テーマミニプレゼンテーション　Step3** プレゼンテーション それぞれ個別テーマについての自らのリサーチの進捗状況を報告する。 フィールドワーク調査について報告をする。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第11回	**個人テーマ　英語中間発表** プレゼンテーション それぞれのテーマについてのここまでのリサーチについてまとめた中間報告を英語で行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第12回	**アカデミックプレゼンテーション講義③　英語版** 英語でのプレゼンテーションについて改善点の指示 定型表現等のインプットと個別練習	個人テーマリサーチ・最終プレゼンの作成	2時間
第13回	**最終プレゼンテーション** それぞれのテーマについての最終報告を英語で行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	振り返り・学修ポートフォリオ提出	2時間
第14回	**フィールドワーク調整** 個別フィールドワークの調整のため休講	期末振り返りレポート提出	2時間
第15回	**n/a** n/a	n/a	0時間
			時間

522

授業科目名	Research & Presentation２				
担当教員名	デイヴィス恵美				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手日系電機メーカーのイギリス現地法人において、ヨーロッパ圏内の販社営業を担当し、販売戦略などに関する資料作成やプレゼンテーションも担当した。				

授業概要

本授業では、将来観光人材として活躍するための素地となる教養を育むことを目的とする。具体的には、学生自らが興味をもって発信したい文化について掘り下げてリサーチを行い、英語で発表ができることを目標とする。授業ではリサーチトピックについて個人発表を通して他者と共有する。その上でリサーチ内容や発表スキルについてフィードバックを受け、次回の改善につなげることにより、段階を踏んで発表スキルを高める。卒業研究発表の下地となるリサーチ力、分析力、論理的思考、文章構成力、発表力について総合的に実践し、アカデミックスキルを高める。
前期にResearch&Presentation1を履修した学生については、別トピックをリサーチ対象に設定してさらに英語プレゼンテーションスキルに磨きをかけるとともに、卒業論文のアブストラクトを英語で執筆できるように指導する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	文化的資料を読み理解する	文化的な内容について知識を深め、関連するリサーチを通して教養を深める。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	アカデミックプレゼンテーションの基礎を学ぶ	プレゼンテーションに必要な定型表現や語彙を習得する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		必要な資料をどのように探せば良いのかを知り、その妥当性と信頼性について考える
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自律的なリサーチを行い、その情報を仲間と共有することで経済性を確保し、協力して問題解決に取り組む
3. DP７.実践の完遂		最終的な課題を達成することの意義を仲間と共有し、達成までお互いを助け合う
4. DP８.他者とのコミュニケーション		協働学習の中で、他者から学び、自らのコミュニケーションを省察する
5. DP９.他者との協調・協働		協働学習の中で、仲間に信頼をおいて学修を推進すると同時に、自らも信頼を得られる仕事をこなす

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

9週目までに最低1回の個別フィールドワークを必要とする。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

·授業内プレゼンテーションを行い、クラスで自らのリサーチの進捗を共有しあう。
·ピアレビューシステムを取り入れ、オープンな環境でお互いの成果を建設的にコメントし合う。
·学科専門教員を授業内プレゼンテーションのオブザーバーとして招致し、フィードバックをもらう。
·提出物にはコメント・評価をつけて返却する。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、
シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題

に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Participation	30 %	: 授業内での建設的なピアレビューに積極的に参加しているかにより、貢献度を評価する。
In-class mini presentation	30 %	: 協働学習の意義を認識し、自律的なリサーチに基づいたミニプレゼンテーションを提供し、授業運営に貢献できているかを総合的に判断する。
Final Presentation	20 %	: 自らのリサーチを論理的かつ説得性のあるプレゼンテーションとして発表できているかをルーブリックに基づき評価する。
Research Portfolio	20 %	: 自らの学習の進捗を管理し、批判的に振り返り改善に結び付ける努力が示されているかを総合的に判断する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指定する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められます。 特に協働学習の本質を理解し、自らの貢献度を向上させるためにも、必ず毎回のミニプレゼンテーションを実践できるように準備してください。普段から社会における様々な事象をクリティカルな視点を持って眺め、自らインプットを求める積極性が求められます。社会で有用な人材として活躍するためにはコミュニケーションを円滑に行うスキルが必要であり、その原動力は自らの「人間力」であることを理解し、分野を限定することなく幅広く見聞を広めて下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

備考・注意事項： 場所: 西館　個人研究室1
本授業では学期中に最低でも1回のフィールドワークが必要です。その分1回の通常授業を調整します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：リサーチとは** Introduction 1. 講義の進め方の説明 2. 学期を通しての学びに期待することの説明 3. 学修ポートフォリオについての説明 4. リサーチの行い方の説明（特に生成系AIの使用についての注意喚起） 5. ルーブリックの説明 6. 個人の最終到達目標の設定 個人ワーク それぞれの興味のある文化的事柄について簡単なリサーチを行う。 グループワーク お互いのテーマについて1分間でスピーチを行う。 お互いにコメントをフィードバックする。 共通テーマ①についての説明	共通テーマ①リサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第2回	**共通テーマ①ミニプレゼンテーション** ミニプレゼンテーション それぞれ共通テーマ①について、自らのリサーチに基づいた個別プレゼンテーションを行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理 共通テーマ②についての説明	共通テーマ②リサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第3回	**共通テーマ②ミニプレゼンテーション** プレゼンテーション それぞれ共通テーマ②について、自らのリサーチに基づいた個別プレゼンテーションを行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理 個別の課題設定について説明	個人テーマ設定・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第4回	**個人テーマ共有ミニプレゼンテーション**	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間

	プレゼンテーション それぞれ設定した個別テーマについて説明を行う。なぜそのテーマに関心があるのか、どのようなことを発見したいのかについて簡潔かつ論理的に説明を行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理		
第5回	**個人テーマミニプレゼンテーション　Step1** プレゼンテーション それぞれ個別テーマについての自らのリサーチの進捗状況を報告する。今後の予定について説明をする。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・学習ポートフォリオ提出①	2時間
第6回	**アカデミックプレゼンテーション講義①** プレゼンテーションスライドについて 発表構成について プレゼンテーションスキルについて	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第7回	**個人テーマ　中間発表** プレゼンテーション それぞれのテーマについてのここまでのリサーチについてまとめた中間報告を日本語で行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第8回	**アカデミックプレゼンテーション講義②　英語版** 英語でのプレゼンテーションについて 定型表現等のインプットと練習	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第9回	**個人テーマミニプレゼンテーション　Step2** プレゼンテーション それぞれ個別テーマについての自らのリサーチの進捗状況を報告する。 今後の予定について説明をする。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理 ※この週までにフィールドワークを実施し、その調査結果についてまとめる	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第10回	**個人テーマミニプレゼンテーション　Step3** プレゼンテーション それぞれ個別テーマについての自らのリサーチの進捗状況を報告する。 フィールドワーク調査について報告をする。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第11回	**個人テーマ　英語中間発表** プレゼンテーション それぞれのテーマについてのここまでのリサーチについてまとめた中間報告を英語で行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	個人テーマリサーチ・授業内ミニプレゼンの作成	2時間
第12回	**アカデミックプレゼンテーション講義③　英語版** 英語でのプレゼンテーションについて改善点の指示 定型表現等のインプットと個別練習	個人テーマリサーチ・最終プレゼンの作成	2時間
第13回	**最終プレゼンテーション** それぞれのテーマについての最終報告を英語で行う。 ディスカッション ピアコメント 課題、問題点の整理	振り返り・学修ポートフォリオ提出	2時間
第14回	**フィールドワーク調整** 個別フィールドワークの調整のため休講	期末振り返りレポート提出	2時間
第15回	**n/a** n/a	n/a	0時間
			時間

522

授業科目名	**専門インターンシップ**				
担当教員名	東出加奈子・島雅則・辛川敬				
学年・コース等	2年・3年	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学における専門科目の学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目的としています。事前学習では、実習先企業･団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的マナーの研修などを行うとともに、実習期間の達成目標を明確にするために｢インターンシップ･ポートフォリオ｣を作成します。就業体験先では、それぞれのプログラムに従って、実働5～10日間の実習に取り組みます。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が研修結果をまとめ、成果と自己成長の視覚化と言語化のためにプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門分野に関連した企業の研究と事前学習	受け入れ企業の事業分野と業務に関する知識、必要とされるスキルについて十分に理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門分野に関連した企業での実習と事後学習	受け入れ企業での業務実践を通じて、必要な知識・技能を習得しながら自らの課題を明らかにできる。

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	業務を遂行しながら、業務特性と自己の能力・行動を分析し課題を整理できる。
2. DP７.実践の完遂	目標を具体的に設定し、その取り組みの成果を言語化し、自己成長を明確化できる。
3. DP８.他者とのコミュニケーション	自らの意思や役割、業務成果などを分かりやすく伝えることができる。
4. DP９.他者との協調・協働	グループや組織内で、自身の役割を理解して、その役割を遂行し、組織目的達成に向けてメンバーと協働することができる。
5. DP10.忠恕の心	実習の現場やグループでの課題への取り組みにおいて、常に誠実さと思いやりを絶やさず、周りから信用され、頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インターシップ・ポートフォリオ	50 %	： 事前･事後学修への取組み度。受入先での就業体験目的の把握レベル、及び受入先やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
受入企業・団体による評価	30 %	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会でのプレゼンテーション		： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えてい

るかどうか。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．履修上限単位には含まれません。
３．実習参加にあたっては、学業成績（主にGPA）とアドバイザー教員の推薦を参考に、学内選考を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
４．事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
５．マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　担当によって異なる（初回授業で案内）

場所：　担当教員の研究室

備考・注意事項：　担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターンシップの意義（ガイダンス授業）** インターンシップの現状とそのメリットについて学びます。自身のインターンシップに参加する目的について考えてもらい、目標の大枠決定のサポートをします。実習先企業に提出するプロフィールシート、並びにインターンシップ・ポートフォリオのフォーマットを提示し、その作成方法を説明します。	「インターンシップ・ポートフォリオ」のフォーマットに従い、「自己目標」の初回入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１）業界･実習先企業の研究** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ理解を深めます。併せて、名刺作成アプリについて説明し、作成準備をします。	名刺を作成し、その扱い方のマナー研修に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２）プロフィールシートの作成** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成します。	プロフィールシートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第4回	**事前学修（３）マナー研修（社会人マナーの意義と実践）** 社会人としての基本的マナーとその意義を考え、実践する際の心構えやポイントについて学びます。（スーツ着用） ※この授業は学外講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第5回	**事前学修（４）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成①（意義の確認と目標の明確化）** インターンシップ・ポートフォリオ作成の意義と作成要領を詳説します。第1回授業外課題で作成した「自己目標」の素案を、担当教員の指導を受け、各自の実習先企業が求める内容に沿った形で具体化します。	作成中の「インターンシップ･ポートフォリオ」の内容を再点検し、次回の授業に備える。	4時間
第6回	**事前学修（５）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成②（仮説に基づく試案の作成）** 実習結果について仮説を立て、担当教員の指導の下、具体的な成果と自己成長の記載を試みます。実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施します。	実習前「インターンシップ･ポートフォリオ」を最終確認の上、期限内に提出する。	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、前半の実地研修。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、後半の実地研修。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修（１）「インターンシップ･ポートフォリオ」の作成③（仕上げ）** 各自の就業体験について振り返り、整理をしながら、自身のインターンシップ･ポートフォリオを仕上げる。	完成した「インターンシップ･ポートフォリオ」について、目標設定から自己成長までの一連の流れを、筋道を立てて説明できるよう準備をする。	4時間
第10回	**事後学修（２）「インターンシップ・ポートフォリオ」の共有と修正** 同一就業体験先、あるいは混成のグループに分かれて発表をする。相互評価による気付きを通して改善点を明確にする。	明確になった改善点を反映させ、自身の「インターンシップ･ポートフォリオ」の最終仕上げをする。	4時間

第11回	**事後学修（３）プレゼン資料の作成** 担当教員のアドバイスを受けながら、就業体験先別にプレゼンテーション用のスライドを作成する。	第11回と12回は同日に実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間
第12回	**事後学修（４）プレゼン資料のリハーサル** プレゼン資料案が完成したグループからリハーサルを実施する。学生相互並びに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点をよく検討した上、修正するとともに、プレゼン資料の細部のチェックを行う。	4時間
第13回	**事後学修（５）プレゼンテーション①（前半グループの発表）** グループ毎にプレゼンテーションを実施する。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるという形式をとる。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とする。	第１３回と１４回は同日に続けて実施するため、第１４回目の授業外学修課題に集約する。	4時間
第14回	**事後学修（６） プレゼンテーション②（後半グループの発表と授業総括）** 前半と同じ内容と進行で、残りの全チームのプレゼンテーションを実施する。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくる。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。	4時間

523

授業科目名	**世界遺産論特殊講義**				
担当教員名	松田充史・大塚正博				
学年・コース等	3年・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教員のいずれもが実務経験がある。松田は旅行会社にて企画・立案・商品造成およびマネジメントをおこない、また自治体組織で京都のプロモーション担当。大塚は旅行会社および航空会社で計30年の実務経験がある。旅行会社では海外企画、商品造成、添乗業務を行い本社管理職や支店長としてのマネジメント業務を行った。世界遺産検定マイスター資格も有する。				

授業概要

「世界遺産」とは地球の生成と人類の歴史によって生み出された、顕著な普遍的価値を持つ人類共通の財産です。ユネスコ総会で採択された「世界遺産条約」の成立の背景やユネスコの理念など、世界遺産の基礎知識を踏まえた上で、多文化理解や地球環境保護などの考え方を国内外の多様な遺産から学びます。また危機遺産や負の遺産などの様々な遺産から、保護・保全の重要性や、ユネスコの平和の理念を考えていきます。
一方、世界遺産に登録されることによる弊害や、その普遍的価値の保護と開発、登録へのプロセスなど課題が多くあり、それらをマネジメントする能力が求められている。
あわせて学修成果の可視化として世界遺産検定３級以上の合格を目指します。
この授業では世界遺産の画像を多用したスライドを使用した講義が中心となりますが、Google Classroomも併用し各回の授業で使用したスライドやレジュメ、次回授業課題などを格納していきますので、授業外学修課題への取組みや、双方向のアクティブラーニングも取り入れます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	世界遺産に関する専門知識を習得する	世界遺産の課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができるようになり、その可視化としての世界遺産検定に取り組む

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	世界遺産の課題や問題点の発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	30 %	： 授業態度や提出物の内容を40点満点で評価し、積極性・主体性が見られれば40点、取り組み姿勢により5点刻みで評価します。
小テスト・模試	30 %	： 授業内で行う小テスト・模試を30点満点で評価します。7月に学内で開催される世界遺産検定の結果により加点対象とします。
グループワーク（プレゼンテーション）	20 %	： 指示された課題に対し問題意識を持って取組んでいるか、グループワークにおける貢献度や積極性、協調性を評価します。　また成果物であるプレゼンテーションには独自の視点での意見が述べられてるかを30点満点で評価します。
定期試験（レポート）	20 %	： グループワークで取り組んだ世界遺産に関するテーマについて、その課題を認識し問題意識を持って自分の意見が述べられていれば20点とし、5点刻みで段階的に評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
世界遺産検定事務局	・ きほんを学ぶ世界遺産100世界遺産検定3級公式テキスト（第5版）	・ マイナビ出版	・ 2025　年

参考文献等

＊3級所持者、または上位級を目指す場合は2級以上のそれぞれの検定級に応じたテキストを教科書としてください。

「くわしく学ぶ世界遺産300〈第6版〉世界遺産検定2級公式テキスト（2025年度版）」世界遺産検定事務局著　マイナビ出版　ISBN:978-4-8399-8899-9
「すべてがわかる世界遺産1500（上巻）　世界遺産検定1級公式テキスト」世界遺産検定事務局著 マイナビ出版 978-4-8399-8569-1
「すべてがわかる世界遺産1500（中巻）　世界遺産検定1級公式テキスト」世界遺産検定事務局著 マイナビ出版 978-4-8399-8568-4
「すべてがわかる世界遺産1500（下巻）　世界遺産検定1級公式テキスト」世界遺産検定事務局著 マイナビ出版 978-4-8399-8570-7

「世界遺産検定公式過去問題集（2025年度版）」世界遺産検定事務局著　マイナビ出版
1・2級　ISBN:978-4-8399-8886-9
3・4級　ISBN:978-4-8399-8887-6

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められます。
・世界遺産検定事務局「きほんを学ぶ世界遺産100世界遺産検定3級公式テキスト(最新版)」を必ず購入してください。
・また上位級を目指す方はそれぞれの級に見合った公式テキストを準備してください。
・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。
・2025年7月12日（土）（時間未定）に学内で行われる「世界遺産検定2級又は3級」を必ず受験してください(受験料別途)。

配布するレジュメや専用ノートに、授業中に学んだことを記し、それをもとにした復習を行うとともに、不明な点は積極的に質問してください。模擬試験や、本番の検定試験では、授業時間の制約上、授業内では扱わない海外の世界遺産も出題されるため、指定教科書の精読が必須です。日頃から、世界遺産にアンテナを張り、各種メディアに積極的に接し、興味を持って世界遺産に親しんでおいてください。また、関西は世界遺産の宝庫でもあり、実際に世界遺産を訪問することは、実践的な学びを体感できる素晴らしい経験となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3時限(13:10～14:50)

場所：　松田研究室

備考・注意事項：　質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
松田：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。
世界遺産の授業内容に関連する質問に関しては、授業の前後またはGoogle　Classroomからのメールでも対応します。大塚：otsuka-m@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション　世界遺産の基礎知識①** ・世界遺産を学ぶことによって得られるものを理解する。 ・世界遺産誕生のきっかけと世界遺産の概念を理解する。 ・世界遺産の種類と登録数について理解する。 ・世界遺産検定の概要や出題傾向、検定3級以上の合格への道筋を理解する。	教科書、および世界遺産に関連する文献を読んでおく。	4時間
第２回	**世界遺産の基礎知識②（ユネスコの理念・世界遺産条約）** ・世界遺産条約とユネスコの理念・役割について理解する。 ・世界遺産に登録される前提条件について順序立てて理解する。 ・世界遺産の登録基準について理解する。	世界遺産に求められる価値についてまとめておく	4時間
第３回	**世界遺産の基礎知識③（登録基準や世界遺産の価値）** ・真正性、完全性について理解する。 ・世界遺産に関わる機関と登録の流れについて理解する。 ・世界遺産委員会の役割について理解する。	世界遺産を一つ取り上げ、現状と課題をまとめておく	4時間
第４回	**’様々な世界遺産①（危機遺産）** ・様々な登録形態について理解する。 ・危機にさらされている世界遺産リストについて理解する。 ・危機遺産リストから脱した世界遺産と、登録抹消された遺産を理解する。	「危機遺産」「負の遺産」について、それぞれまとめておく	4時間
第５回	**様々な世界遺産②　（負の遺産、重要キーワード）** ・負の遺産について理解する。 ・シリアルノミネーション、トランスバウンダリーサイトについて理解する。 ・文化的景観やグローバル・ストラテジー等の概念を理解する。	世界遺産の概念や重要キーワードについてまとめておく	4時間
第６回	**’ユネスコの世界遺産関連事業 基礎知識に関する「小テスト」実施** ・ユネスコの世界遺産関連事業である、「無形文化遺産」や「世界の記憶」について理解する。 ・世界遺産の基礎知識に関する小テストを実施する。	小テストの復習をテキストで行っておく	4時間
第７回	**’基礎知識の復習　小テスト出題重要事項解説** ・小テストの結果を基に、現在の理解度を把握し、合格への道筋を明確にします。 ・解説を通して、検定で最も重要な基礎知識と日本の遺産を理解します。	日本の世界遺産の特徴およびキーワードをまとめておく。	4時間
第８回	**日本の世界遺産①**	日本の世界遺産の特徴およびキーワードをまとめておく。	4時間

	・関西圏の世界文化遺産全てについて理解する。 ・古都京都の文化財」「法隆寺地域の仏教建造物群」「百舌鳥・古市古墳群」「姫路城」等 ・併せて関連する海外の世界遺産についても理解する。		
第９回	**日本の世界遺産②** ・日本の自然遺産の全てについて理解する。 ・「屋久島」「白神山地」「知床」「小笠原諸島」「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」 ・併せて関連する海外の世界遺産についても理解する。	日本の世界遺産の特徴およびキーワードをまとめておく。	4時間
第10回	**’日本の世界遺産③ 模擬試験実施** ・日本の今後の世界遺産候補について理解する。 ・模擬試験解説を通して、確実な理解を高める。 ・模擬試験問題を通して世界遺産の様々な課題を理解する。	授業で取り上げなかった海外の世界遺産についてテキストを精読し、キーワードをまとめておく	4時間
第11回	**日本の世界遺産④　世界遺産の理解①** ・日本の今後の世界遺産候補について理解する。 ・模擬試験解説を通して、確実な理解を高める。 ・頻出過去問題解説を通して、重要事項を整理する。 ・試験問題を通して世界遺産の様々な課題を理解する。	模擬試験の復習や過去問に取組む	4時間
第12回	**世界遺産の理解②** ・本番と同じ難易度の模擬試験を通して確実な理解度を高める。 ・試験問題を通して世界遺産の様々な課題を理解する。 ・頻出過去問題解説を通して、重要事項を整理する。	模擬試験の復習や過去問に取組む	4時間
第13回	**世界遺産の課題と問題点　グループワーク** ・オーバーツーリズム問題など、観光の観点から世界遺産登録の問題点や課題を考える。 ・観光資源としての世界遺産の保護と活用についての方向性を理解する。 ・世界遺産の課題に関するプレゼンテーションの準備を行う。	世界遺産の課題と問題点について自分の意見をまとめておく	4時間
第14回	**最新の世界遺産動向　グループワーク（プレゼンテーション）** ・第47回世界遺産委員会での決議事項を理解する。 ・世界遺産の今後：あなたが考える将来の世界遺産。 ・グループワークでまとめた意見を発表する。	世界遺産の課題と問題点について自分の意見をまとめておく	4時間

523

授業科目名	競争戦略論				
担当教員名	山下紗矢佳				
学年・コース等	3年・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経営戦略とは、「企業の将来像とそれを達成するための道筋」のことを意味し、企業全体の発展方向とそれに必要な経営資源の配分を決める「企業戦略（全社戦略）」と、それぞれの事業で他の企業とどのような形で競争するかを明らかにする「競争戦略（事業戦略）」に大別できる。
本講義では、「競争戦略」に焦点を当て、その基本的な考え方と仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	経営戦略に関する知識	経営戦略に関する諸概念及び環境変化に応じた経営戦略の必要性について説明できる。
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		経営戦略に関する諸概念及び企業経営における実践例について理解し自分の言葉で説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	50 %	： 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20 %	： 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10 %	： 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20 %	： コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編（2017）『【改訂版】業種把握読本－時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社. ISBN 9784904192719

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

配布資料や課題はGoogleクラスルームより公開する。資料の配布期日を過ぎてからの再配布はしない。課題の提出期日を過ぎてから提出は基本的に認めない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：講義の進め方の説明と競争戦略論を学ぶ意義** 本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「競争戦略」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学における競争戦略論の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。	【予習】シラバスを読んでおくこと。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第2回	**競争戦略の考え方** 「戦略」、「経営戦略」、「事業戦略」というそれぞれの概念的な定義と内容について解説する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第3回	**差別化戦略** 事業が収益を上げていくための方法として、自社の製品やサービスを業界の中でも独自性や特異性といった違いがあるとして顧客に認識される価値を創造することで競争優位の確立を目指す「差別化戦略」について身近な事例をもとに学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第4回	**低コスト戦略** 事業が収益を上げていくための方法として、業界内で最も低いコスト構造を実現することで競争優位の確立を目指す「低コスト戦略」について身近な事例をもとに学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第5回	**集中戦略** 事業が収益を上げていくための方法として、絞り込んだ事業領域に企業の資源を集中することで差別化や低コストを図る「集中戦略」について身近な事例をもとに学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第6回	**マーケット・セグメンテーション** 特定セグメントの顧客ニーズに最も合致したマーケティング施策を実行することで企業の収益性を効果的に増加させることを狙う方法をについて事例をもとに学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第7回	**顧客のシステム経済性、製品ライフサイクル** すべての製品には、寿命がある。「製品ライフサイクル」という概念をもとに市場における戦略的な課題を検討する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第8回	**デファクト・スタンダード** 特定の業界内で確立された支配的な境界の互換性の標準をいかに戦略的に確立するか、また、業界標準化に敗れそうな時の対処法としてどのような施策があるのか、事例をもとに検討する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第9回	**プラットフォーム型ビジネスモデル** 企業同士をつなぐことで価値を創出するビジネスの形態である「プラットフォーム型ビジネスモデル」について、その考え方を学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第10回	**新製品開発**	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間

	企業が新製品を開発する時に、自社内の研究開発資源だけを活用するのではなく、顧客や他企業などが有する社外の知識や技術を積極的に取り入れていくことの重要性について学習する。		
第11回	**価値連鎖と機能統合／機能分化** 企業が収益性を高めるために自社の事業活動範囲をどこまで手掛けるかという問題を取り上げる。業務範囲を拡大させることは「統合」の問題として、逆に絞り込むことは「分化」の問題として議論する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第12回	**知的財産、競争優位が持続する理由** 企業間の差異性が生まれる原因として、企業が戦略を実行していく上で必要となる経営資源の有無や質の違いがあげられる。他の企業が保有しない優れた有用な経営資源を自社がいかに保有し、それを戦略的に活用して他者との差異性を創るか、競争優位を持続させる考え方について学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第13回	**事業環境の分析・選択・操作** 企業は、「今どこにいるのか」ということを把握するために外部環境分析・業界分析・内部分析を実施し、その分析結果を踏まえた上で「どこへ向かうべきか」ということを決定し、戦略オプションを考案する。外部環境分析と内部分析を組み合わせた戦略立案プロセスについて学習する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第14回	**競争戦略論の展望** これまでの講義で学習した内容を振り返り、競争戦略論を学ぶ意義と要点を確認する。	【予習】テキスト及び配布資料に目を通し、分からない用語を調べておく。　【復習】講義概要を確認すること。	4時間
第15回	**まとめ** 事前に講義の中で受講生に調べ学習として、競争戦略の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらう。自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。	講義内容について見直しをすること。	4時間

523

授業科目名	**職業指導**				
担当教員名	南谷雄司				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	経理専門学校(２年) ・兵庫県立高等学校教諭(２４年) ・教頭(８年) ・校長(２年)・医療福祉専門学校(６年) ・短期大学(５年)・大学(６年) ・コミュニテイカレッジ(１９年) ・進路指導(職業指導１３年) 商品開発(５品目) ・ビジネスアイデア指導(５年)の勤務経験 (全１５回)				

授業概要

(商業教育の動向・職業教育の動向・ビジネスアイデア・ベンチャー企業・学生起業家発表・ジュニア・高等学校内株式会社紹介) 職業教育・職業指導について、知識社会、国際比較・高校現場教育の観点から詳述する。
知識社会・世界の職業教育・キャリア教育・ＡＩ・起業教育・産官学連携・リスキリング・アクティブ・ラーニング・企業分析・大学から仕事へのトランジションにおける新しい能力・新学習指導要領・高等学校の進路指導 (進学・就職) ・時事・授業方法・面接指導・教育委員会ホームページ研究

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	教職とは何かについて学び、教師の使命や職責について考える。	自己の理想とする教師像を確立する。多様な職業で活躍できる自己肯定感を育成する。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	知識社会(AI・ロボット・グローバル時代等)における仕事の大変化に対応できる生きる力を養成する。	知識社会の大変化の中で、新たなる課題を発見し、対応する力を養成する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		知識社会の大変化の中で、なくなる職業、新たなる職業課題を発見し、対応する力を養成する。

学外連携学修

有り(連携先：日本商業教育学会兵庫支部・神戸ベンチャー研究会(異業種)・学外授業の交通費は自己負担となります。)

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　討論・発表後個別・全体的にコメントする。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りテスト(授業内試験)・レポート	50 %	： 講義内容を踏まえて、多様なキャリア等の基礎的理解があるかどうかについてレポート・テスト(短答・論述等)で行います。
課題レポートの作成	30 %	： 知識社会の大変化に対応した新ビジネスプランと人生１００年計画を考える。(事業計画・収益・経費等)・レポート・発表(知識・理解・思考力・論理力)
授業への参加度	20 %	： グループワーク・討論・発表・質疑応答・教員からの質問に的確に回答できているか。毎授業ビデオレポート提出・論理的、積極的な発言等評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
道幸哲也,原田順子	・『多様なキャリアを考える』	・一般財団法人　放送大学教育振興会	・2015　年

参考文献等

・テキスト「多様なキャリアを考える」ISBN978-4-595-31571-8
・「雇用社会と法」道幸哲也　著者　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会　2017年3月20日発行
　ISBN978-4-595-31728-6 C1332
・「新時代の組織経営と働き方」　著者　原田順子　若林直樹　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会
　2020年3月20日発行　ISBN978-4-595-32209-9 C1334
・「人口減少社会の構想」著者　宮本みちこ　大江守之　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会
　2017年3月20日発行　ISBN978-4-595-31717-0 C1336
・「教育社会学概論」　著者　岩永雅也　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会
　ISBN978-4-595-31921-1 C1337

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します

場所：　初回授業時に周知します

備考・注意事項：　授業外での質問方法：初回授業時に周知します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**１　オリエンテーション本授業の目標、内容、授業の進め方、評価キャリアについて** １　職業キャリアを主軸にしながらその他の多様なキャリアについて議論を広げる。ライフコースの概念を紹介し、職業キャリアと他のキャリアとの相互性について言及する。ライフ・キャリア・レインボー・産業人材育成・組織コーン 若者研究前編・仕掛学	１　キャリアの定義をまとめる。図１－１「産業人材育成の基本フレーム」の３つの輪の重なりにあてはまることについてまとめる。	4時間
第2回	**２　日本人の職業キャリアと勤続性ＡＩ・ロボット時代の職業教育の動向** ２　現代社会において、労働者が職業キャリアを積んでいく現象の重要性について解説する。人的資本・勤続性・功績性・技能・生きがい・長期雇用・働く目的 ＡＩ・ロボット時代の職業教育の動向 若者研究後編・世界の入試	２　職業キャリアの特徴を列挙する。日本人の働く目的の特徴をまとめる。職業キャリアの発達経路についてまとめる。	4時間
第3回	**３　日本の労働市場変化と職業キャリア起業家教育** ３　賃金プロファイルは、年齢上昇・勤続年数に応じて、どの程度の賃金水準を得ているかを解説し、職業キャリアの様相を間接的にみる。年功賃金制度・職能資格制度・成果主義 起業家教育の動向 野生の思考・答えは子供の中にある	３　日本人の賃金プロファイルの特徴を性別・年齢別・産業別の統計を使いまとめる。賃金プロファイルの国際比較から特徴を解析しまとめる。賃金プロファイルの全般的低下の意味をまとめる。	4時間
第4回	**４　正規と非正規労働者の職業キャリア世界の職業教育** ４　非正規雇用の特徴を解説し、なぜ非正規雇用が増大するのかについて解説する。少子高齢化・サービス経済化・グローバル化 世界の職業教育の動向 ・海外アルバイト・定年退職は何歳か	４　非正規雇用の性別・年齢別・職種別・産業別特徴について事例を挙げて整理する。少子高齢化という社会変化が非正規雇用に対して、どのような経路をたどって影響を及ぼしているかまとめる。非正規雇用の産業構造変化が及ぼす影響について具体例を挙げてまとめる。	4時間
第5回	**５　職業キャリアの形成持続可能社会の構築と教育** ５　職業キャリアの形成に焦点をあて、人的資本は一定不変ではなく何らかの訓練(学校教育・企業内教育・その他の職業教育)により発達させることができることを解説する。人的資本論・一般的技能・企業特殊的技能・ＯＪＴ・ＯＦＦ-ＪＴ・自己啓発・学校教育論・内省的成長理論・組織のフラット化・自律的キャリア開発 ＳＤＧＳの紹介・世界を変えるシンキング	５　あなたの職業能力はどのように積み上げられたかをまとめる。公共職業訓練の意義についてまとめる。	4時間
第6回	**６　企業が求める人材の変化** ６　企業が求める人材の変化を歴史的に解説する。過去４０年、企業が求める人材がどのように変化してきたかを具体的データに基づき外観してみる。その背景にある企業社会や産業構造の変化を理解し、企業が求める人材の最近の特徴を把握する。特に大卒新卒者に求められる能力を分析する。サービス経済化・雇用形態の多様化・コミュニケーション能力・キャリア開発支援・基礎力 ルソンの壺ネスカフェー・世界の教育予算	６　企業の求人広告を新聞やＷｅｂでみて、どのような人を求めているかまとめる。企業でのインターンシップで新たに経験できる事を整理し、どんな力が身についたかをまとめる。	4時間

第7回	**７　キャリア開発支援の動向　中間振返りテスト** ７　キャリア開発支援のゴールは就職ではなく、学生個人のキャリア自立であることを明確にし、学生時代に獲得しておくべき要素を解説する。キャリア開発・就業力育成・エンプロイアビリティ・キャリア・アダプタビリティ・キャリア自立・就業観・初年次教育・早期離職 ＡＩに負けない仕事術・AIが個人を点数化	７　企業の採用面接で学生のどのような面をみているか項目を列挙し整理する。面接のポイント・今までに役立った経験や勉強を整理する。入社後３年以内の早期離職について長所・短所を整理する。	4時間
第8回	**８　職場の人間関係と法** ８　職場の人間関係、とりわけ最近のハラスメント紛争の背景や特徴、法的紛争化を回避する工夫を検討する。セクハラ・パワハラ・労働者人格権・プライヴアシー・自己決定権・職場いじめ アクティブラーニングを活用した職業教育の実践について西成高校の挑戦・知られざる天才ギフテッド	８　職場いじめと学校でのいじめの違いについて調べ、その原因について整理する。どうしたら職場において円滑なコミュニケーションがとれるのかを、個人の努力と制度的な工夫の双方から考え整理する。	4時間
第9回	**９　企業内キャリア　１０　キャリア権の考え方** ９　人材育成を重視することは日本の企業の特徴とされてきたが、コア人材とそれ以外の人材の雇用ポートフォリオ論を解説する。人事管理・ＯＪＴ・ＯＦＦ-Ｊ Ｔ・コア人材・企業特殊的技能・雇用ポートフォリオ １０　職業キャリアを支えるキャリア権の考え方を憲法規定や職業訓練法制の関連規定に基づき検討し、更に生成途上にある労働契約上の位置づけについて裁判例を素材に考察する。キャリア権・幸福追求権・労働契約・就労請求権・職業訓練法制・労働者人格権・教育研修・競業避止義務・リスキニング・高専ディープラーニング	９　人材育成について、正規・非正規労働者の違いを整理する。「種まき型」「刈り取り型」の人事ダイナミックスをまとめる。あなたの身近な組織ポートフォリオがどのようなものかをまとめる。１０　キャリア権を実現するためにどのような訴訟を考えることができるかまとめる。キャリア権を実現するために、国、企業、学校、本人の役割や相互関連について整理する。	4時間
第10回	**１１　多様な働き方と労働法の役割** １１　労働の現状とそれに対する政府の基本方針を検討し、法的ルールの観点、雇用と雇用以外との比較、更に正規と非正規の働き方の違いを考える。非正規労働・規制緩和・雇用政策・労働者概念・賃金差別・職務専念義務 ブラック校則・校長学校変える	１１　非正規労働者が増加した理由を調べ、どうしたら正規化できるかを考えまとめる。雇用されない自営的な働き方のメリツト・デメリツトを比較し整理する。	4時間
第11回	**１２　ライフコースの考え方　１３　社会の変動とライフコース** １２　ライフコースの視点と考え方は、1970年代にアメリカの社会学・歴史学・心理学の研究者たちによって開発され採用された。この章では、ライフコース論に独自の視点や方法、成果について説明する。ライフコース・キャリア・役割移行・ライフサイクル・ライフステージ １３　ライフコース論の特質は、歴史的社会的出来事と家族における出来事、そして個人の出来事の３つ関連を重視する点にあり、個人のキャリアとの関連を具体的にみる中で、注意深く観察する。時機・出来事・出生コーホート・家族キャリア・職業キャリア・産業化 人生100年計画ライフシフト・副業・中流危機を乗り越えて	１２　ライフコース論の視点と特色を整理し、成果と問題点についてまとめる。自分自身のライフコースについて、キャリアごとに重要事項をならべ、どのように連動しているか考察しまとめる。自分自身のライフコースを振り返り、歴史的社会的出来事、家族の出来事、自分の出来事に分けて年表に整理する。産業化の初期段階の家族親族が産業の担い手になり得たというハレーブンの主張や産業化に伴う親族から相対的に孤立化した核家族形成を主張するＴ．パーソンズの学説を整理する。	4時間
第12回	**１４　パーソナル・ネットワークとライフコース　１５　多様なキャリア～女性のキャリアを考える～** １４　個人のライフコースにそつて、パーソナル・ネットワークもまた変化を遂げていく。戦争という社会的出来事や、就職、結婚、転勤、退職という個人の人生にとって重要な出来事も、パーソナル・ネットワークに大きな影響を与える。これらの様相を事例分析する。パーソナル・ネットワーク・第１次ゾーン・年賀状・事例分析 １５　女性労働者の特徴を理解した上で、組織内部における地位や課題を考える。女性が継続して働く際の支援と再就職支援の必要性を解説する。非正規の職員・従業員・労働力率・カンター・モデル・コース別人事制度・ポジティブ・アクション データサイエンス・プログラミング教育・GIGAスクール構想	１４　保管している年賀状の総枚数、カテゴリー別枚数を調査し分析する。年賀状をやりとりしている人とのネツトワークの内容を確認し、自分のライフコースに沿って、自分自身のパーソナルネツトワークの変化を整理する。女性労働の特徴をまとめる。女性管理職を増加させる方法をまとめる。ワーク・ライフ・バランスの施策の意義を整理する。	4時間
第13回	**１６　評価(振り返りテスト)と総括**	１６　これまでの講義内容を振り返り、まとめておくこと。また、教師や他の職業を目指す意志を明確にする。	4時間

	１６　多様なキャリア、自己の目指すべき教師像をまとめるとともに、今後、教師や職業人としてどうあるべきかを確かなものにする。教育委員会ホームページを研究する。 0年転職・トットちゃんの学校		
第14回	**１７　ビジネスプランシート・人生１００年計画シート発表・質疑応答** １７　ビジネスプランシートを事前に作成し現代社会の課題を発見し解決するビジネスを考える・知識社会の中でＡＩ・ロボット・グローバル化が進み、寿命が１００年を超える時代の人生１００年計画シートを作成し発表し質疑応答をする。 防災教育・遠隔教育	１７　ビジネスプランシートの作成と発表の仕方を研究する。人生１００年計画シートを作成し発表の仕方を研究する。	4時間

523

授業科目名	**アジア市場と日本**				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2年－4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にてアジア事業戦略・M&A等、外務省にて対アジア諸国への政府開発援助（ODA)、調査機関（シンクタンク）にてアジア各国の政治経済・企業動向分析、格付会社にてアジア各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全14回）。				

授業概要

アジアの世界経済における位置づけや我が国にとっての重要性が増大している中、アジア主要市場の動向や各市場における有力企業（日系、欧米系、中国・韓国・東南アジア・インド等アジア系企業）の経営に関する特徴や課題、各国の経済・社会に与える影響などを学び理解することを目的としています。そのための方法論として、アジア主要市場の発展・変化等の動向、企業経営に係る環境、関連する経済学・経営学の理論を併せて解説・紹介します。グループ・個人による発表も予定しています。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月１回程度併用する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	アジア市場と日本の関係につき政治経済や企業経営に関連する基本的な事項・知識・理論を理解する。	アジア市場と日本の関係につき政治経済や企業経営に関連する基本的な事項・知識・理論について説明できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	アジア市場と日本の関係につき政治経済や企業経営に関連する重要事項・知識・理論を理解する。	アジア市場と日本の関係につき政治経済や企業経営に関連する重要事項・知識・理論について理解し課題の解決案の検討に応用できる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		アジア市場と日本の関係につき政治経済や企業経営に関連する重要な課題を、文献・情報収集・分析・応用により発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

授業方法はクラスの規模等により適宜変更する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート（授業時間内）	30 %	： 授業内容を踏まえた記述を評価対象にします。授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。授業日から1週間の期限後の提出は原則として認めません。
事前に指定した資料のまとめを発表	10 %	： 学生個人で、事前に指定された次回授業の重要点に関する資料をまとめて発表（プレゼンテーション）していただく予定です。
授業内クイズ	20 %	： アジアや企業に関する基本的な事項を質問し、各授業時間内で回答いただきます。
期末試験	40 %	： アジアや企業に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができているかを基準にして評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

陳晋(2014)『アジア経営論』ミネルヴァ書房ISBN :978-4623070619
パラグ・カンナ（尼丁千津子翻訳）(2019)『アジアの世紀上・下:接続性の未来』原書房　ISBN : 978-4562057061
牛山 隆一『ASEANの多国籍企業』文眞堂（2018年）ISBN ：978-4-8309-5008-7
澤田貴之『アジアのコングロマリット』創成社（2017年）ISBN :978-4794431851

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習（課題の解答案の作成を含む、以下同じ）をすること。本講義の内容を深く理解する上で、アジア市場や企業の動向、関連する国際政治・経済・社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するよう心掛けてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 西館3階44研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の概要と進め方／アジアの全体像と産業・企業の概況** 講義の全体像と進め方を解説した後、アジアの全体像と産業・企業の概況に関して解説します。	第1回の授業内容を復習し講義全体の流れを把握します。第2回授業の予定資料を予習します。	4時間
第2回	**東南アジア諸国連合（アセアン）および二国間・多国間の地域連携の動向・意義** 世界・地域で影響力を増すアセアンの概況、経済統合の進化、アジア地域に関する二国間・多国間の地域連携の動向・意義などについて学びます。	第2回の授業内容を復習し理解します。第3回授業の指定資料を予習します。	4時間
第3回	**日本企業のアジア進出の歴史・現況と課題** 中国・韓国や東南アジア、インド等への日本企業の進出の歴史と特徴・重要点、課題について学びます。	第3回の授業内容を復習し理解します。第4回授業の指定資料を予習します。	4時間
第4回	**アジアの有力企業・多国籍企業** アジアの経済発展に伴い、各国の有力企業の競争力や存在感が増しています。その特徴や重要点について学びます。	第4回の授業内容を復習し理解します。第5回授業の指定資料を予習します。	4時間
第5回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（中国）** 世界第2の経済大国となり、政治・経済、安全保障面で国際的な影響力を増している中国について、政治の仕組み、経済発展、市場経済化、国有・私営企業の動向などについて学びます。	第5回の授業内容を復習し理解します。第6回授業の指定資料を予習します。	4時間
第6回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（香港・台湾）** アジアNIESとして国際的な影響力を有する香港・台湾につき、中国との政治・経済関係、経済発展、有力企業の動向などについて学びます。	第6回の授業内容を復習し理解します。第7回授業の指定資料を予習します。	4時間
第7回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（韓国）** サムスン、現代自動車、SK、LG等を代表とする有力財閥企業の動向を含め、韓国の政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	第7回の授業内容を復習し理解します。第8回授業の指定資料を予習します。	4時間
第8回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（シンガポール）** 国際ビジネスセンター・国際金融センターとして、国際競争力への評価が高いシンガポールについて、政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	第8回の授業内容を復習し理解します。第9回授業の指定資料を予習します。	4時間
第9回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（マレーシア）** ルックイースト政策の導入等、計画的な国家戦略により発展しているマレーシアについて、政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	第9回の授業内容を復習し理解します。第10回授業の指定資料を予習します。	4時間
第10回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向　（タイ）** アジアのデトロイトなどと呼ばれる自動車産業の強みなどを中心に、タイの政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	第10回の授業内容を復習し理解します。第11回授業の指定資料を予習します。	4時間
第11回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（インドネシア）** アセアン最多の人口を有し今後の市場拡大が期待されるインドネシアについて、政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	第11回の授業内容を復習し理解します。第12回授業の指定資料を予習します。	4時間
第12回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（フィリピン・ベトナム）**	第12回の授業内容を復習し理解します。第13回授業の指定資料を予習します。	4時間

	人口が増加し平均年齢も若く一層の経済成長・市場発展は期待されるフィリピン・ベトナムについて、両国の政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。		
第13回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（カンボジア・ラオス・ミャンマー）** アセアンの最後発加盟国である3国は、将来的な成長の可能性が予測されています。これら3国の政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	第13回の授業内容を復習し理解します。第14回授業の指定資料を予習します。	4時間
第14回	**アジア主要国・地域の投資環境と産業・企業動向（インド）** 世界最多の人口大国となり、グローバルサウスの中核国として国際的な影響力を増しているインドについて、政治・経済、企業動向、課題などについて学びます。	前回授業の復習を含め、授業全体を振り返ります。	4時間

523

授業科目名	消費者行動論				
担当教員名	尾崎文則				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社、コンサルティング会社、非営利組織におけるマーケティング実務経験。消費者調査を含む市場分析、マーケティング戦略の立案と実行に従事。（全14回）				

授業概要

この授業科目では、消費者が自身のニーズやウォンツを満たすために、商品やサービスを“選択・購入・使用・処分する”という一連の消費者行動に対する理解を深めていきます。前半は消費者を個人として捉え、知覚・学習・記憶・態度といった概念を通じて消費者行動を理解します。そして後半は消費者を社会的存在として捉え、アイデンティティ・家族・集団・ステイタス・文化との関わりを通じて更なる理解を深めます。こうした消費者行動への理解を前提に、最終的には、企業としてどのようなマーケティング活動を行っていくべきかという示唆を得ることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	消費者行動に関する知識	企業のマーケティング活動の基礎となる消費者の行動について理解できる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		消費者行動について独自の視点からその分析・考察ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業での発言	30 %	： 授業中の積極的なディスカッションへの参加をクラス全体への発言回数に基づいて評価する
毎回の授業の小レポート	30 %	： 毎回の授業時に提出を求める小レポートの内容を選択式の問については正誤、自由記述式の問については独自のルーブリックに基づいて評価する
期末レポート	40 %	： 学習した内容に関しての理解度を独自のルーブリックに基づいて評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松井剛・西川英彦	・ 1からの消費者行動　第2版	・ 碩学舎	・ 2020　年

参考文献等

松井剛 監訳「ソロモン 消費者行動論[ハードカバー版]」（丸善出版、2015年、ISBN9784621088777）
青木幸弘「消費者行動の知識」（日本経済新聞社出版社、2010年、ISBN9784532112226）
青木幸広・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司「消費者行動論」（有斐閣アルマ、2012年、ISBN9784641124639）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められます。マーケティングの授業を受講していることが望ましい。授業中は、マナーを守り他の学生の迷惑にならないように留意すること。授業への積極的な参加を期待Suru。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 西館 4階 個人研究室94

備考・注意事項： 初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**イントロダクション：消費者行動とは？** イントロダクションとして、私たち消費者が日々、様々な商品やサービスを選択・購入・使用・処分するという一連の消費者行動を行っていることを具体的な例を通じて理解していきます。そして、これから全14回の授業を通じてどのようなことを学んでいくのか、その全体像を把握します。	＜予習＞なし ＜復習＞教科書の第1章を読み、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第２回	**個人としての消費者：①購買意思決定プロセス** 私たちが商品やサービスを購入する際の意思決定プロセスを5段階（「問題認識」「情報探索」「代替製品の評価」「購買決定」「購買後の行動」）で捉え、どのように意思決定を行っているのか理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第6章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第３回	**個人としての消費者：②知覚** 私たちは新たな商品やサービスにどのようにして出会うのでしょうか。消費者が外部からの刺激を受けて、その情報に意味付けを行うプロセスは「知覚」と呼ばれ、「露出」「注意」「組織化」「解釈」という4段階のプロセスを経るとされています。この授業では、具体的な例を交えながら知覚に関する理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第2章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第４回	**個人としての消費者：③学習** 私たちは様々な経験を通じて行動を変化させていきます。こうしたことは「学習」と呼ばれます。この授業では、学習に関する３つの理論（レスポンデント条件付け、オペラント条件付け、観察学習）について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第3章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第５回	**個人としての消費者：④記憶** 私たちが商品やサービスを購入する際、新たな情報収集を行うことなく、記憶を手掛かりに購入することがあります。この授業では、こうした記憶のメカニズムと消費者行動の結びつきについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第4章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第６回	**個人としての消費者：⑤態度** 私たちは様々な商品やサービスに対して、それぞれ「好き」「嫌い」といった全体的な評価を持っています。こうした全体的評価のことを「態度」といいます。この授業では、態度とはどのようなものなのか、その理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第5章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第７回	**社会的存在としての消費者：①アイデンティティ** 私たちは自分自身が何者かというアイデンティティを持っています。そして、何か商品やサービスを所有することはそのアイデンティティにも影響を与えます。この授業では、アイデンティティと商品やサービスとの関わりに対して理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第10章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第８回	**社会的存在としての消費者：②家族** 単身世帯と家族世帯では買い物にどのような違いがあるでしょうか？この授業では、個人とは異なる家族の購買意思決定について、理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第11章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第９回	**社会的存在としての消費者：③集団** あなたが何か商品やサービスを購入する際、友人や著名人はどのような影響を与えているでしょうか？この授業では、準拠集団など、あなたを取り巻く集団が購買に与える影響について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第12章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間

第10回	**社会的存在としての消費者：④ステイタス** 商品やサービスを所有することがステイタスのシンボルとなることがあります。この授業では、こうした「顕示的消費」について理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第13章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第11回	**社会的存在としての消費者：⑤文化とサブカルチャー** ファッション、音楽、アニメなど、どのような趣味を持っていますか？こうした趣味など社会のある特定の集団に共有された文化をサブカルチャーと呼びます。この授業では、こうしたサブカルチャーや文化と消費行動との関わりに対して理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第14-15章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第12回	**消費者へのマーケティング：①STP** これまで学んできた消費者行動を踏まえて、企業はどのようなマーケティング活動を行っていけばよいのでしょうか？この授業では、消費者行動を踏まえたマーケティング戦略について、まずはSTPについての理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第7章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第13回	**消費者へのマーケティング：②マーケティングコミュニケーション** この授業では、マーケティングミックスのうち、コミュニケーションに焦点を当て、消費者に対する説得的コミュニケーション、購買接点でのマーケティングについて理解を深めていきます。	＜予習＞教科書の第8-9章を読み、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第14回	**まとめ** この授業では、最終回として、これまで学んできた内容を全体的に振り返りながら、包括的な体系立てを行い、消費者行動に対する全体的な理解を深めていきます。	＜予習＞教科書のうち、理解が不十分と考えられる箇所を読み返し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 ＜復習＞期末レポートに取り組みましょう。	4時間

523

授業科目名	Global Marketing				
担当教員名	尾崎文則				
学年・コース等	3・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社、コンサルティング会社、非営利組織におけるマーケティング実務経験。消費者調査を含む市場分析、マーケティング戦略の立案と実行に従事。（全14回）				

授業概要

In this course, we will examine the marketing strategies of global brands through case studies. This course focuses on topics of growing importance in international marketing today and is divided into four major themes：Go Global, Service Design, Digital Business, and Sustainable Management. One case study (BTS, Airbnb, Netflix, UNIQLO) will be selected for each theme to be explored in depth. This class is a discussion class and students are expected to be active participants in the discussions. The course materials will be mainly in English (videos, articles, statistical data, reports, etc.) , and discussions will be conducted in Japanese.

この授業科目では、グローバルブランドのマーケティング戦略についてケーススタディ形式で学んでいきます。現代の国際マーケティングにおいて重要性を増しているテーマに焦点をあて、全14回の授業は、大きく4つのテーマ（グローバル進出、サービスデザイン、デジタルビジネス、サステナブルマネジメント）で構成されます。また、テーマ毎に1つの事例（BTS、Airbnb、Netflix、UNIQLOを予定）を取り上げ、深堀していきます。
この授業は履修者によるディスカッションを主体とするため、履修にあたっては積極的なディスカッションへの参加が期待されます。
なお、この授業は主に英語の文献資料（映像、記事、統計データ、レポートなど）を教材とし、ディスカッションは日本語で行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	グローバルブランドのマーケティング戦略	グローバルブランドのマーケティング戦略について理解できる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバルブランドのマーケティング戦略について独自の視点から分析・考察できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Class Contribution	30 %	: Active participation in class discussions will be assessed by the number of statements made. 授業中の積極的なディスカッションへの参加をワークシート内容に基づいて評価する
Mini Report	30 %	: The content of the short report to be submitted after each session is assessed. 毎回の授業時に提出を求める小レポートを独自のルーブリックもしくは正誤によって評価する
Final report	40 %	: Assessment of understanding of the content studied is based on an original rubric. 学習した内容に関しての理解度を独自のルーブリックに基づいて評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

As this is a two-credit course, students are expected to study outside of class for an average of four hours each session.
As this is a discussion-based course, students are expected to be active in class.
本科目は、2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
ディスカッションが主体の授業であるため、クラスでの積極的な発言が期待される。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 西館 4階 個人研究室94

備考・注意事項： Information will be given at the first class
初回授業時に案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Go Global01：Value Creation（グローバル進出01：価値の創造）** We will discuss the value creation of global market entry through the case study of K-POP artist BTS. ・Case： K-POP Artist BTS K-POPアーティストBTSを事例に、グローバル市場進出のための価値創造についてディスカッションしていきます。 ・事例：K-POPアーティスト「BTS」	【Preparation】 None 【Review】Reread the lecture material regarding the global value creantion and work on the short report. 【予習】なし 【復習】グローバル市場における価値創造に関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第2回	**Go Global02：Global market analysis（グローバル進出02：国際市場の分析）** We will discuss the analysis of the global market environment. ・Case： K-POP Artist BTS グローバル市場進出にあたった、国際市場の環境分析についてディスカッションしていきます。 ・事例：K-POPアーティスト「BTS」	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the global market analysis and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】国際市場の分析に関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第3回	**Go Global03：Customer Engagement（グローバル進出03：顧客エンゲージメント）** We will discuss how to attract and retain customers in international markets. ・Case： K-POP Artist BTS 国際市場における顧客の獲得・維持についてディスカッションしていきます。 ・事例：K-POPアーティスト「BTS」	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the customer engagement and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】顧客エンゲージメントに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第4回	**Service Design01：Born Global（サービスデザイン01：ボーングローバル）** We will discuss how to create born global services using Airbnb as a case study. ・Case： Airbnb Airbnbを事例に、グローバル市場での展開を前提としたサービスの創造についてディスカッションしていきます。 ・事例：Airbnb	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding "born global" and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】ボーングローバルに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第5回	**Service Design02：Service Design Process（サービスデザイン02：サービスデザインのプロセス）**	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the service design process and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】サービスデザインプロセスに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間

	We will discuss the process for creating services. ・Case： Airbnb サービスを生み出すためのプロセスについてディスカッションしていきます。 ・事例：Airbnb		
第6回	**Service Design03：Platform Strategy（サービスデザイン03：プラットフォーム戦略）** We will discuss global platform strategies. ・Case： Airbnb グローバルに展開されるプラットフォーム戦略についてディスカッションしていきます。 ・事例：Airbnb	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the platform strategy and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】プラットフォーム戦略に関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第7回	**Service Design04：Liquid Consumption（サービスデザイン04：リキッド消費）** We will discuss liquid consumption in light of the megatrend "shift from ownership to use" in consumer behavior. ・Case： Airbnb 消費者行動における「所有から使用への移行」というメガトレンドを踏まえて、リキッド消費についてディスカッションしていきます。 ・事例：Airbnb	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the liquid consumption and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】リキッド消費に関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第8回	**Digital Business01：Business Model Innovation（デジタルビジネス01：ビジネスモデルイノベーション）** We will discuss how to transform business models using Netflix as a case study. ・Case： Netflix Netflixを事例に、デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革についてディスカッションしていきます。 ・事例：Netflix	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the business model innovation and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】ビジネスモデルイノベーションに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第9回	**Digital Business02：Marketing in Digital（デジタルビジネス02：デジタルマーケティング）** We will discuss how the marketing mix can change in a digital environment. ・Case： Netflix デジタル環境下において、マーケティングミックスがどのように変化しうるのかについてディスカッションします。 ・事例：Netflix	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding digital marketing and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】デジタルマーケティングに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第10回	**Digital Business03：Global Brand Management（デジタルビジネス03：グローバルブランドマネジメント）** We will discuss brand management for global brands. ・Case： Netflix グローバルブランドのブランドマネジメントについてディスカッションします。 ・事例：Netflix	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the global brand management and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】グローバルブランドマネジメントに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第11回	**Digital Business04：Digital Consumption（デジタルビジネス04：デジタル消費）**	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding digital consumption and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】デジタル消費に関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間

	We will discuss how consumer behavior can change in a digital environment. ・Case： Netflix デジタル環境下において、消費者行動がどのように変化しうるのかについてディスカッションします。 ・事例：Netflix		
第12回	**Sustainable Management01：Social Issues（サステナブルマネジメント01：社会イシュー）** We will discuss how global brands should address international social issues through the UNIQLO case study. ・Case： UNIQLO UNIQLOを事例に、国際的な社会問題に対してグローバルブランドはどのように対処すべきかについてディスカッションしていきます。 ・事例：UNIQLO	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the social issues and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】社会イシューに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第13回	**Sustainable Management02：Environmental Issues（サステナブルマネジメント02：環境イシュー）** We will discuss how global brands should address international environmental issues through the UNIQLO case study. ・Case： UNIQLO UNIQLOを事例に、国際的な環境問題に対してグローバルブランドはどのように対処すべきかについてディスカッションしていきます。 ・事例：UNIQLO	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the environmental issues and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】環境イシューに関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第１4回	**Sustainable Management03：Sustainable Consumption（サステナブルマネジメント03：サステナブル消費）** We will discuss how global consumers are changing to perceive and act on environmental and social issues. ・Case： UNIQLO 環境問題や社会問題に対して、世界の消費者の意識や行動がどのように変化しているのかについてディスカッションしていきます。 ・事例：UNIQLO	【Preparation】Review the handouts and write bulleted answers to the preassigned questions. 【Review】Reread the lecture materials regarding the sustainable consumption and work on your short report. 【予習】事前配布資料の内容を確認し、事前に提示された問いに対する回答を箇条書きにしてみましょう。 【復習】サステナブル消費に関する講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間

523

授業科目名	ブランド・マネジメント				
担当教員名	中野毅				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系企業での職務経験より、国、地域、企業、サービス等におけるブランド戦略についての豊富な知識を持つ。（全14回）				

授業概要

ヒト、モノ、カネ、ジョウホウに次ぐ第5の経営資源といわれるブランドの概念、機能、役割についての基本的な理解を持ち、具体的なケースも取り上げ、ブランドをマネジメントすることの重要性を消費者および企業や地域の観点から理論的に理解することを目指す。国際分野においてはグローバルブランドの戦略を、観光分野においては、国、地域のブランドとしての取り組みを取り上げる。そしてブランドの本質の理解、ブランド・マネジメントの理解をした上で、戦略としてのマーケティングとブランディングの違いを識別し、その役割を俯瞰できることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	ブランド、ブランド・マネジメントにおける知識を応用することができる。	ブランド・マネジメントの重要性を理解し、ケースを分析し、提案することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		取り組む個人及びグループにおけるケースにおいて課題を発見することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

個人、グループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： １４回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業への参加意欲	20 %	： 毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。
グループワークとプレゼンテーション	30 %	： グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて評価する。
リアクション・ペーパー	20 %	： 毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

デービッド・アーカー　『ブランド論－無形の差別化をつくる20の基本原則』
　ダイヤモンド社　2014年(ISBN:978-4478027592)
田中 洋　『ブランド戦略論』　有斐閣　2019年（ISBN:978-4641165106）

履修上の注意・備考・メッセージ

・日々のニュースから、ブランドに関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」
　に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水：3限

場所：　西館４階

備考・注意事項：　メールで質問等も受け付けます。その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方、ブランドの概念** １４回の授業の内容、進め方、評価について解説をする。講義とケーススタディー研究（個人、グループワーク）について説明する。 ブランドの概念と種類を理解する。	Google Classroomにて事前に配布の資料を読み、ブランドについての概要を理解しておく。	4時間
第2回	**ブランドの歴史と役割** ブランドの歴史とその定義、役割を明らかにする。 個人ワーク：興味のあるブランドについてまとめる。	事前配布資料を読み、ブランドの歴史について理解しておく。 興味あるブランドを1つあげ、そのブランドについて調べておく。	4時間
第3回	**マーケティングとブランディング** マーケティングの手段としてのブランドの重要性、またマーケティングとブランディングの違いを理解する。 個人ワーク：興味あるブランドについてその戦略をまとめる。	事前配布資料を読み、マーケティングの基礎を理解しておく。 興味あるブランドの経営面から見た戦略を調べておく。	4時間
第4回	**ブランド・エクイティー、ブランド価値創造と共創** ブランドの価値の創造と共創によるブランド・エクイティー（資産）形成を理解する。 個人ワーク発表会：選んだブランドについて自身の見解を発表する。	事前配布資料を読み、ブランド・エクイティーの意味を理解しておく。個人発表の準備をしておく。	4時間
第5回	**ブランド・プロミスとブランド・リレーションシップ** ブランドに対する価値を保証するブランド構築の8段階のステップを理解する。 グループワーク：２つのブランドを選び、グループ研究のテーマを決める。	事前に配布の資料を読み、ブランディングの手法を理解しておく。グループワークに向け、テーマを決めいくつかのブランド候補を用意しておく。	4時間
第6回	**ブランド・コミュニケーション** マーケティング・コミュニケーションにおけるブランドの役割を理解する。 グループワーク：テーマに沿って情報、意見交換する。	事前に配布の資料を読み、ブランド・コミュニケーションの意味を理解しておく。グループワークに必要な資料の準備をしておく。	4時間
第7回	**ブランド・エクスペリエンス** ９つのブランド要素を組み合わせて設計するブランド体験を理解する グループワーク：テーマに沿ってまとめる。	事前に配布の資料を読み、ブランド要素とブランド体験の概念を理解しておく。 グループワークに必要な準備をしておく。	4時間
第8回	**インナー・ブランディング** 外向きのブランド構築だけではなく、内向き（企業内、社員、地域内、住民等）のインナー・ブランディングの重要性を理解する。 グループワーク：発表会に向け準備をする。	事前に配布の資料を読み、アウター・ブランディングとインナー・ブランディングの違いを理解しておく。グループワークに必要な準備をしておく。	4時間
第9回	**グループワーク成果発表会** 今までの授業で取り扱ったブランド・マネジメントの理論のまとめ。 グループワークの成果を発表をする。	8回までの配布資料を読み返し、振り返りをしておく。グループワーク発表に向け準備をしておく。	4時間
第10回	**ブランド戦略　ケーススタディー（コーポレート・ブランド）** ケースとしていくつかの企業を取り上げ、今までに学んだことをベースに、ディスカッション形式でコーポレート・ブランド戦略を解明する。	取り上げるいくつかの企業について調べ要約しておく。	4時間
第11回	**ブランド戦略　ケーススタディー（製品ブランド）**	取り上げるいくつかの製品について調べ要約しておく。	4時間

	ケースとしていくつかの製品を取り上げ、今までに学んだことをベースに、ディスカッション形式で製品のブランド戦略を解明する。		
第12回	**ブランド戦略　ケーススタディー（サービス・ブランド）** ケースとしていくつかのサービスを取り上げ、今までに学んだことをベースに、ディスカッション形式でサービス・ブランド戦略を解明する。	取り上げるいくつかのサービスについて調べ要約しておく。	4時間
第13回	**地域ブランド（国家、都市、地域におけるブランディング）** 国家、都市、地域をブランドとして捉えた場合のブランド戦略について理解する。 さらに、地域における街、商店街等をブランドとして捉えた場合のブランド戦略について理解する。	ブランドとして認知されている国、都市、地域をいくつか取り上げ、その特徴を400字程度にまとめたレポートを作成し提出する。	4時間
第14回	**長期的なブランド管理、授業のまとめ** 持続可能なブランドとして維持することの重要さを理解する。 授業のまとめ。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 その際研究倫理のもと、著作権と個人情報についての説明もおこなう。	13回の授業を振り返り、ブランドについての自身の気づきを要約し、400字程度のレポートとして提出する。	4時間

授業科目名	**ビジネスデータ分析**				
担当教員名	本間哲也				
学年・コース等	国際観光学部	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

ビッグデータの時代と言われるように，今日では企業活動の様々な局面で，大量のデータを用いた経営環境等の分析とそれに基づく戦略策定，意思決定が行われるようになっています．この授業では，マーケティング分野のデータを用いて，データの整理や可視化，データの解釈と経営課題の抽出，課題に対する対策の検討と仮説の立案，対策の効果の予測といった，データ分析から戦略提案までの一連の流れを，演習を通じて修得することを目的とします．
演習は表計算ソフトのExcelを使って行います．
なお，この科目は基礎科目である「経営統計入門」を履修済みであることを前提とします．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	50 %	： 第１回～第１１回までの演習課題の完成度で評価します．
総合演習課題	30 %	： 総合演習課題（１）～（３）の完成度で評価します．
期末試験（課題レポート）	20 %	： 総合演習の結果の分析と考察に関するレポートを提出，その完成度で評価します．

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
海野大	・ Excelで学ぶデータ分析の基礎	・ せせらぎ出版	・ 2024 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

授業や演習では表計算ソフトExcelを使用します．レポート作成ではパワーポイントを使用します．
第1回～第11回の授業では，教科書を使用します．
課題の配布と提出にGoogle Classroom を使用します．
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をしてください．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所：　研究室（西館３階）

備考・注意事項：　事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**データ操作の基本** 授業全体のガイダンスを行います. ビッグデータとは何か，マーケティング分野をはじめとして企業経営でデータがどのように活用されているかについて概説します. Excelでデータベースを作成したり，データを操作するための基本を学びます.	データのフィルタリングや並べ替えなど，データ操作の基本を復習する.	4時間
第2回	**データ分析の基礎（1）データの可視化と分布** Excelを使って，データを集計したりグラフ化することにより，データ全体の特徴を捉える方法を学びます.	グラフ作成やクロス集計の方法について復習する.	4時間
第3回	**データ分析の基礎（2）平均と分散，相関** Excelを使って，分布の代表値である平均と分散，さらに２つのデータ間の相関関係を表す相関係数を求める方法を学びます.	分散の考え方と計算方法，相関関係の考え方と相関係数の計算方法を復習する.	4時間
第4回	**データ分析の基礎（3）推定** 母集団全体を調べることができないとき，母集団から抽出した標本データを使って，元の母集団の代表値を推測する方法を推測統計といいます. 推測統計のうち区間推定の方法をExcelを使って学びます.	母平均，母比率の区間推定の考え方と計算方法を復習する.	4時間
第5回	**データ分析の基礎（4）検定～対応のある２標本の検定** 母集団についての仮説（例えば，母平均がある値に一致している，等）が妥当であるかどうかを検証する方法である仮説検定を，Excelを使って学びます. 今回は，対応のある２標本の検定を行います.	仮説検定の考え方，対応のある2標本の検定方法について復習する.	4時間
第6回	**データ分析の基礎（5）検定～対応のない２標本の検定** 仮説検定の方法をExcelを使って学びます. 今回は，対応のない２標本の検定を行います.	対応のない2標本の検定方法について復習する.	4時間
第7回	**データ分析の基礎（6）分散分析** 標本が３つ以上あるときの検定には，分散分析という方法を使います. ここでは，Excelを使って分散分析の方法を学びます.	分散分析の考え方と計算方法について復習する.	4時間
第8回	**回帰分析（1）単回帰分析～量的データのケース** 統計データを用いて予測する手法である回帰分析の考え方と方法を学びます. ここでは，説明変数が１つだけで，かつ量的変数の場合の回帰分析の方法を，Excelを使って学びます. 説明変数が１つだけの場合を単回帰分析といいます.	回帰分析の考え方と単回帰分析の方法を復習する.	4時間
第9回	**回帰分析（2）単回帰分析～質的データのケース** 変数が質的変数の場合の単回帰分析の方法を学びます. 年齢や性別などの質的変数を用いて回帰分析をする場合は，ダミー変数を使います. Excelを使って質的変数の単回帰分析の方法を学びます.	ダミー変数への変換方法と回帰分析の方法を復習する.	4時間
第10回	**回帰分析（3）重回帰分析～量的データのケース** 説明変数が２つ以上ある回帰分析を重回帰分析といいます．重回帰分析は，単回帰分析と同様の方法で説明変数を２つ以上にすればできます．しかし，最適な説明変数の組み合わせを選択しなければ，よい予測はできません. ここでは，重回帰分析の方法や変数選択の方法などについて，Excelを使って学びます.	重回帰分析の方法，変数選択の考え方と注意点について復習する.	4時間
第11回	**回帰分析（4）重回帰分析～質的データのケース** 説明変数に質的データが含まれるときの重回帰分析を，Excelを使って学びます. 重回帰分析のまとめとして，コンビニの売上データを使った演習課題に取り組みます.	ダミー変数の含まれる重回帰分析の方法について復習する.	4時間
第12回	**総合演習（1）販売予測モデルの予備検討** マーケティングデータから商品の販売数を予測するモデルを，重回帰分析を使って作成します. 今回は，データの特徴を捉え，既存の説明変数を用いた重回帰分析によって，適切なモデルを作ることができるか検討します.	目的変数の特徴を理解し，与えられた説明変数で適切な予測が可能か検討する.	4時間
第13回	**総合演習（2）販売予測モデルの構築** 予備検討を踏まえ，新たに追加すべき説明変数を考え，実際に追加してみます. そして，最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルの構築を進めていきます.	変数選択の考え方と方法について復習する.	4時間
第14回	**総合演習（3）結果の考察**	分析結果と考察をレポートにまとめる.	4時間

最終的に最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルを完成させます. 構築した予測モデルによる予測結果から何が言えるかを考察し，結論としてまとめます.		

授業科目名	ツーリズム研究2				
担当教員名	原田弘之、島雅則、東出加奈子、松田充史				
学年・コース等	国際観光学部	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、近年注目されているいくつかのツーリズムについて理解を深めていくことを目標とします。ツーリズムは、地域における特色すなわち地域資源を活かし、地域主体の企画によって成立・展開、発展します。一方、地域を訪れる人々の志向に関わる時代・文化的背景や社会・経済的要因によって規定されます。ツーリズムの実態について具体的な事例をもとに解説していきます。本授業で主に取り上げるのは、コンテンツツーリズム、エコツーリズム、ヘルスツーリズムなどさまざまなニューツーリズムです。ツーリズムを推進する地域が抱える問題や課題と、参加する観光客の目的、満足度など、迎える側と訪問する側の双方の立場から考察を深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	目的別ツーリズムに関する知識と応用	地域資源を活かしたニューツーリズムの取り組みを理解する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		ニューツーリズムの事例から地域の課題が検討できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席です。
規定回数以上の出席がなければ成績評価の対象になりません。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題提出	30 %	： 授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解
グループワークへの参加態度	50 %	： グループワークへの積極的な参加とプレゼンテーションに向けた取り組み
期末テスト	20 %	： 授業内容の把握、ならびに理解度の確認

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

関連文献については各回の授業で随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜　4限

場所： 西館２階　個人研究室

備考・注意事項： Google Classroom　や Gmailでいつでも連絡してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ツーリズム研究２をどのように学ぶのか** 授業の概要と目的について説明します。 授業の進め方を確認し、具体的な現地調査について共有します。	事前にシラバスを確認しておいてください	4時間
第2回	**地域資源を活かした持続可能な観光** 地域活性に必要な観光資源について考えます。 観光資源と多様なニューツーリズムについて理解します。	自身の地元と観光資源を調べましょう	4時間
第3回	**フードツーリズム** 食の資源を通した地域活性化の事例を学びます。 地域ならではの職・食文化を楽しむことを目的とした旅について理解します。	食の資源を調べましょう	4時間
第4回	**アグリツーリズム** 一般にグリーンツーリズムとも称されるアグリツーリズムの事例を学びます。 農場や農村で休暇・余暇を過ごす体験について理解します。	アグリツーリズムの事例を調べましょう	4時間
第5回	**スポーツツーリズム** 不ポーツ資源とツーリズムを融合した取り組みの事例を学びます。 スポーツが観光資源になることを理解し、その取り組みを把握します。	スポ―ツの資源を調べてみましょう	4時間
第6回	**エコツーリズム** 地域全体で自然環境や歴史文化などの魅力を伝える取り組みを学びます。 地域資源を持続可能にすることで地域経済への波及効果となることを理解します。	エコツーリズムの事例を調べましょう	4時間
第7回	**コンテンツツーリズム①** アニメやマンガ、映画などの舞台となった地域に訪れるツーリズムを学びます。 聖地巡礼とも称される作品の舞台と地域が共有することで生み出される観光地を把握します。	具体的な作品の舞台となった地を調べましょう	4時間
第8回	**ヘルスツーリズム** 旅行という非日常的な楽しみのなかで、健康回復や健康増進を図る活動を取り入れることを学びます。高齢化社会において注目されるようになった楽しみ方を理解します。	ヘルスツーリズムの事例を調べましょう	4時間
第9回	**ニューツーリズムの探求** 授業で取り上げたニューツーリズムの中から、グループに分かれて一つテーマを選び、事例を情報収集します。ニューツーリズムについて成功した事例を取り上げて調査します。	ニューツーリズムについての参考文献を読みましょう	4時間
第10回	**グループワークによる探求** 選んだニューツーリズムのテーマについて、取り組みの事例をまとめていきます。 地域活性につながった過程を調査し、まとめていきます。	事例を調べてまとめてください	4時間
第11回	**プレゼンテーションの準備** グループごとに取り上げるツーリズムについて、プレゼンテーションに向けてスライドを作成します。グループの役割分担を決めて、それぞれが調べた内容を共有し作成していきます。	pptを作成してください	4時間
第12回	**プレゼンテーション①ディスカッション** 各グループで発表をします。 聴衆者による質疑応答を行い、受講生で相互評価をします。	他のグループから学んだことをまとめましょう	4時間
第13回	**プレゼンテーション②質疑応答** 前回に続いて、各グループで発表をします。 聴衆者による質疑応答を行い、受講生で相互評価をします。	相互評価から学んだことをまとめましょう	4時間
第14回	**まとめ　ツーリズムにおける現状と課題** 授業ならびに現地調査の振り返りです。 ニューツーリズムを通して、地域活性の課題について考えます。	授業の振り返りをまとめてください	4時間

532

授業科目名	Academic English 1				
担当教員名	坂井純子・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Dr. Ring has business management experience at a medium sized company.				

授業概要

This course is strongly recommended for all long-term study abroad students.This is an academic English class with basic business content.This course also includes instruction in basic critical thinking skills (CTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. Critical thinking skills are necessary for success at a university overseas and for a successful career.
We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen business topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Academic English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.	Students will be able to: Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.	Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions. Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one’s ideas and logic clearly.
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their critical thinking skills and objectivity.
2. DP８.他者とのコミュニケーション		Research, exchange, check, and confirm factual information. Give a presentation on a topic of interest with teacher support. Develop communication skills necessary for international exchange.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

International exchange and collaboration with students, professors, and/or business people located overseas.

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Midterm performance event/presentation	25 %	: Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.
Academic English portfolio	25 %	: Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.
Class participation	20 %	: Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric.
Critical thinking skills	10 %	: Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions. Assessed based on Professors' rubric.
Project-based learning project	20 %	: Theme and evaluation standards based on class and instructor choice.

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
笹島 茂	・CLIL Business Management (ISBN978-4-384-33524-8 C1082)	・三修社	・2023 年
上野育子	・	・	・ 年
船越多枝 / Brandon Kramer	・	・	・ 年

参考文献等

N/A

履修上の注意・備考・メッセージ

Please bring a notebook or loose leaf notepaper to every class. PC and cell-phone use is by teacher permission only. Tech use and sleeping in class is distracting. All students are expected to be fully engaged in the class experience. Human to human communication is the heart of education.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

	授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation, Chapter 1 "Business and our lives" Reading** Course Introduction Academic English and Critical Thinking Skills Chapter1: Reading and vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第2回	**Orientation, Chapter 1 "Business and our lives" Expansion** Academic English and Critical Thinking Skills Expanded review and discussion Giving reasons why: Your favorite company/product Man agement, stakeholders, global markets.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第3回	**Chapter 2 "Enterprises and companies" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第4回	**Chapter 2 "Enterprises and companies" Expansion** Expanded review and discussion of Chapter 2. Discussion: a sense of purpose, ethics, and mission i n business.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第5回	**Chapter 3 "Strategy 1: the PESTLE analysis" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第6回	**Chapter 3 "Strategy 1: the PESTLE analysis" Expansion** Expanded review and discussion of Chapter 3. Discussion and research: conducting a PESTLE analysis in some detail.	Preparation for mid-term presentation	1時間
第7回	**Chapter 4 "Strategy 2: the SWOT analysis" Reading**	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間

	Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading		
第8回	**Chapter 4 "Strategy 2: the SWOT analysis" Expansion** Expanded review and discussion Discussion and research: conducting a SWOT analysis i n some detail.	Preparation for next chapter	1時間
第9回	**Chapter 5 "Resource Management" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第10回	**Chapter 5 "Resource Management" Expansion** Expanded review and discussion Discussion: sustainable tourism.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第11回	**Chapter 6 "Team Management 1" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第12回	**Chapter 6 "Team Management 1" Expansion** Expanded review and discussion Discussion: what it takes to lead.	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第13回	**Chapter 6 "Team Management 1" Expansion continued** Expanded review and discussion Discussion: what it takes to lead continued. "Good" versus "Bad" leaders. Leaders we do not respec t. Leaders we respect.	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第14回	**Review Units 1-3** Review activities In-class discussion Expanded review and discussion	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第15回	**Mid-term PESTLE analysis presentation preparation: research** The mid-term presentation topic will be a PESTLE anal ysis technique based on the text and in class discuss ions. The PESTLE topic will be decided after a discus sion by students and teachers. In class research In class writing In class speaking practice	Mid-term PESTLE analysis presentation preparation	1時間
第16回	**Mid-term PESTLE analysis presentation preparation continued 1: writing** In class research In class writing In class speaking practice	Mid-term PESTLE analysis presentation preparation continued	1時間
第17回	**Mid-term PESTLE analysis presentation preparation continued 2: speaking practice** In class research In class writing In class speaking practice	Mid-term PESTLE analysis presentation preparation continued	1時間
第18回	**Review Units 4-6** Review Units 4-6 Review activities In-class discussion Expanded review and discussion	Review Units 4-6	1時間
第19回	**Extended field work research and presentation preparation: research** Field work preparation In class research In class writing In class discussion Expanded discussion: What does a successful team look like?	Extended field work research and PPT presentation preparation	1時間
第20回	**Extended field work research and presentation preparation: writing and discussion** Field work preparation In class research In class writing In class discussion Expanded discussion: How do successful teams communic ate?	Extended field work research and PPT presentation preparation	1時間
第21回	**Extended field work presentations** Field work presentations Q and A session with students	Field work presentations, Q and A session with students	1時間
第22回	**Project based learning presentation preparations: reserach**	Project based learning presentation preparations	1時間

	Project based learning presentation preparations In class research In class discussion		
第23回	**Project based learning presentation preparations continued 1: writing** Project based learning presentation preparations continued In class research In class writing In class discussion	Project based learning presentation preparations continued	1時間
第24回	**Project based learning presentation preparations continued 2: discussion and practice** Project based learning presentation preparations continued In class research In class writing In class discussion In class practice	Project based learning presentation preparations continued	1時間
第25回	**Project based learning presentations: Group 1** Project based learning presentations In class discussion/Q and A	Project based learning presentations: reflection	1時間
第26回	**Project based learning presentations continued: Group 2** Project based learning presentations In class discussion/Q and A	Project based learning presentation: reflection	1時間
第27回	**Student led discussions of a text or unit theme preparation** Student led discussions of a text or unit theme preparation In class research In class writing In class discussion In class practice	Student led discussions of a text or unit theme preparation	1時間
第28回	**Student led discussions of a text or unit theme/Class wrap up** Student led discussions of a text or unit theme Class wrap up	Academic Portfolio	1時間

532

授業科目名	Academic English 2				
担当教員名	坂井純子・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Dr. Ring has business management experience at a medium sized company.				

授業概要

This course is required for all long-term study abroad students. This is an academic English class with basic business content. This course also includes instruction in basic critical thinking skills (CTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. Critical thinking skills are necessary for success at a university overseas and for a successful career.
We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen business topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Academic English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.	Students will be able to: Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.	Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions. Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one’s ideas and logic clearly.
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their critical thinking skills and objectivity.
2. DP８.他者とのコミュニケーション		Research, exchange, check, and confirm factual information. Give a presentation on a topic of interest with teacher support. Develop communication skills necessary for international exchange.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

International exchange and collaboration with students, professors, and/or business people located overseas.

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Midterm performance event/presentation	25 %	: Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.
Academic English portfolio	25 %	: Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.
Class participation	20 %	: Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric. Demonstrates progress in critical thinking skills as taught in class.
Test	10 %	: Evaluated for use of textbook knowledge, class information/notetaking, and language skills such as vocabulary.
Project-based learning project	20 %	: Theme and evaluation standards based on class and instructor choice. Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions.

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
笹島茂（編）上野育子（著）	・CLIL Business Management (ISBN978-4-384-33524-8 C1082)	・Sanshusha	・2023 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

It is the policy of this class to protect the privacy of all students and class participants. All data and videos that are collected for evaluation will be deleted at the end of a one year. Students may not take screen captures, repost class materials, personal information or photos of others, or videoconference discussions to the Internet. Students must not collect personal information or photos of anyone in this class. The images, text, and materials used in this class are the property of the copyright holders.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Chapter 7 "The Japanese HRM System" Reading** Course orientation Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第2回	**Chapter Expansion: Chapter 7 "The Japanese HRM System" Expansion** Expanded review and discussion Discussion: international business and country specific human resource management Vocabulary; Classwork preparation for next chapter Academic English and Critical Thinking Skills Expanded review and discussion Giving reasons why: Our favorite global leaders and companies. Why does Microsoft "thrive" and how does thriving make a stronger organization?	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第3回	**Chapter 8 "What is marketing?" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第4回	**Chapter 8 "What is marketing?" Expansion**	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間

	Expanded review and discussion Business concepts discussion: what is “glocal” marketing? Vocabulary; Classwork preparation for next chapter And/or: Case study: The Harvard Longevity Study. “Loneliness kills. It’s as powerful as smoking or alcoholism.” -- Robert Waldinger, psychiatrist, Massachusetts General Hospital		
第5回	**Chapter 9 "The marketing mix" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	Vocabulary; Review work	1時間
第6回	**Chapter 9 "The marketing mix" Expansion** Expanded review and discussion Marketing continued: how to “glocalize” a product? Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	Preparation for mid-term presentation	1時間
第7回	**Chapter 10 "Financial statements" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	Vocabulary; Review work	1時間
第8回	**Chapter 10 "Financial statements" Expansion** Expanded review and discussion Discussion: business ethics, investors, and stakeholders. Vocabulary; Classwork preparation for next chapter And/or: Expanded review and discussion of business ethics Discussion and research: The cognitive revolution, Maslow, and positive psychology. "Self-actualization" and fulfilling our full potential. “What we call ‘normal’, is really a psycho-pathology of the average. It’s so widespread we don’t even notice it.” - Abraham Maslow	Preparation for next chapter	1時間
第9回	**Chapter 11 "Digital technology and business" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	Vocabulary; Review work	1時間
第10回	**Chapter 11 "Digital technology and business" Expansion** Expanded review and discussion Discussion/case study: social media and business ethics, emotional contagion (the dangers of “the Facebook effect) and the future of business life in the “Metaverse” Vocabulary; Classwork preparation for next chapter Discussion: What is your vision of the future? Discussion: Who will you be in 20 years and what will you be doing?	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第11回	**Chapter 12 "Taking SDGs into business" Reading** Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	Vocabulary; Review work	1時間
第12回	**Chapter 12" Taking SDGs into business" Expansion** Expanded review and discussion Discussion: sustainable tourism and the SDGs. Real world examples Expanded review and discussion Example mini-debate topic: Minidebate: Are "Selfies" harmless or a public danger? References: https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1740144517305326 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC10568398/	Preparation for mid-term mini-debate	1時間
第13回	**Preparation for study abroad or international travel/ mid-term mini-debate** Learning about their destination countries Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad Preparation for mini-debate: research	Preparation for mid-term mini-debate	1時間
第14回	**Preparation for study abroad or international travel/ mid-term mini-debate continued 1**	Preparation for study abroad or international travel/ mid-term mini-debate	1時間

	Learning about their destination countries Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad Preparation for mini-debate: writing and discussion The mid-term presentation topic will be either based on the text, in class discussions, or to be decided a fter a discussion by students and teachers.		
第15回	**Preparation for study abroad or international travel/ mid-term mini-debate continued 2** Learning about their destination countries Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad Preparation for mini-debate: follow-up research and d iscussion The mid-term debate topic will be either based on the text, in class discussions, or to be decided after a discussion by students and teachers.	Preparation for mid-term mini-debate	1時間
第16回	**Mini-debate Round 1** Mini-debate	Mini-debate preparation	1時間
第17回	**Mini-debate Round 2** Mini-debate	Mini-debate: reflective portfolio writing	1時間
第18回	**Presentation of destination countries preparation** Presentation of destination countries preparation Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad In class writing Expanded review and discussion Business concepts discussion: Crossing the human and machine divide. AI and the future worklplace.	Vocabulary; Classwork preparation for next topic	1時間
第19回	**Presentation of destination countries preparation continued** Presentation of destination countries continued "Love your work" discusiion Listening activities Vocabulary	Vocabulary; Review work	1時間
第20回	**Mini- field work preparation** Field work preparation Field work worksheet Expanded discussion: What does a successful company e nvironment look like?	Field work presentation practice	1時間
第21回	**Field work presentation** Field work presentation Expanded discussion: "The future of work" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Review work on the field work presentation	1時間
第22回	**Review: Chapters 7-9** Review activities In-class discussion Expanded review and discussion Discussion: business ethics, investors, and stakehold ers.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第23回	**Review: Chapters 10-12** Review activities In-class writing of review chapter topic (student cho ice)	Vocabulary; Review work	1時間
第24回	**Chapter Expansion** Expanded review and discussion of units 7-12. In class writing and speaking practice Culture shock: What is it? How can I deal with it?	Vocabulary; Review work; final presentation preparation	1時間
第25回	**Preparation for final presentation** Topic choice discussion based on text, professor and student choice In class research In class writing In class speaking practice	Vocabulary; Review work; final presentation preparation	1時間
第26回	**Applied business practice, time management, presentation practice continued**	Preparation for final presentation	1時間

	Preparation practice continued: In class research In class writing In class speaking practice Discussion: Extreme productivity Case study: The Pozen Method Understanding your "comparative advantage" and gettin g results. "It's not the time you spend but the results you pro duce"-Robert C. Pozen Reference: https://hbr.org/2011/05/managing-yourself-extreme-pro ductivity		
第27回	**Final presentations Round 1** Delivery of final presentation. Group 1. Q and A session with students.	Final presentations/Q and A session	1時間
第28回	**Final presentations Round 2/Class wrap up** Delivery of final presentation. Group 2 Class wrap up	Review/ Reflection work	1時間

532

授業科目名	Conversation Skills A①②				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

The goal of this class is to acquire the English skills necessary for international tourism and business settings. Students will learn expressions and vocabulary that are useful when communicating with people from diverse backgrounds, and practice using them appropriately. Through regular listening activities, students will build comprehension and inference skills. Students will learn to clearly express their thoughts and opinions on a variety of topics in discussion and debate situations. Emphasis will be placed on presentation skills and students can expect to be tasked with both group and individual presentations. Students will be required to think deeply about their local communities, Kansai, and Japan, and learn to look at Japan and Japanese culture from the viewpoint of a visitor.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Students will regularly practice English speaking (conversation, discussion, debate, and production) and listening (comprehension and inference) in English in domestic and international contexts.	By the end of the course, students should be better able to use English to express themselves, and feel more confident about working in an international setting.
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		Students will be able to apply results of field work to presentations, discussions, and other assignments.
2. DP８.他者とのコミュニケーション		Students will be able to communicate effectively and appropriately about various relevant topics in international settings.
3. DP９.他者との協調・協働		As emphasis will be put on pair work and group work in this course, students will gain co-operation and collaboration skills.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Presentations, debates, corresponding manuscripts,	50 %	: Presentation type activities will be evaluated on a rubric for accuracy (grammar and expressions), oral skills (voice, intonation, pronunciation), and presentation skills (eye contact and gestures).
In-class assignments and activities	30 %	: All in-class assignments and pair and group speaking activities will be evaluated according to content, accuracy, fluency, and level of participation.
Homework		: Students will receive a score for homework completion and accuracy.

10 %

Final Report : A final report will be assigned at the end of the semester and will be evaluated on originality, accuracy, and level of participation.

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Johnathan Bygrave	・Reflect Listening & Speaking 2 (ISBN 978-0-357-44918-9)	・National Geographic Learning	・2022 年

参考文献等

The textbook for this course is Reflect Listening & Speaking 2 (ISBN: 978-0-357-44918-9).

履修上の注意・備考・メッセージ

Students are required to bring their laptop computers to EACH class.

All students are required to purchase the textbook. Previously used textbooks with answers written in them will not be accepted.

All students will be responsible for their own work. Use of translation machines and artificial intelligence (DeepL, Google Translate, ChatGPT etc) is not the students' original work and therefore should not be used. Students should be responsible, diligent, creative, and have a proactive attitude toward communicating in English and a strong desire to improve.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation, Semester Goal Setting, Introduction to Presentation Skills** Course overview and course expectations Student goal setting Introduction to presentation skills and phrases to use when presenting with slides Presentation 1 outline and preparation	Buy textbook, prepare for Presentation 1	1時間
第2回	**Presentation 1: Presentation skills Peer evaluation & Self-evaluation** Presentation 1 students will do a presentation on the theme of their choosing to practice their presentation skills. Peer evaluations and self-evaluations will be conducted.	Homework corresponding to unit 1 (details given in class)	1時間
第3回	**Unit 1 Welcome to the Neighborhood: Prepare to Listen, Listen & Speak** Prepare to Listen: Reflect on your neighborhood Listen & Speak: Why Do You Live Here? Listening Skill: Take notes-focus on key information Presentation 2 preparation: group presentation	Homework corresponding to unit 1 (details given in class), Presentation 2 preparation	1時間
第4回	**Unit 1 Welcome to the Neighborhood: Reflection Activities, Prepare to Watch** Reflection Activity: Reasons for choosing a neighborhood Prepare to Watch: Predict, Critical Thinking, and Apply, and Reflect Presentation 2 preparation: group presentation	Homework corresponding to unit 1 (details given in class), Presentation 2 preparation	1時間
第5回	**Unit 1 Welcome to the Neighborhood: Watch & Speak** Watch & Speak: Life in Longyearbyen Speaking Skill: Give opinions Presentation 2 preparation: group presentation	Homework corresponding to unit 1 (details given in class), Presentation 2 preparation	1時間
第6回	**Presentation 2: Group presentations, Peer evaluation & Self-evaluation** Presentation 2: students will do group presentations, paying attention to group dynamic and teamwork when presenting. Peer- and self- evaluations will be conducted.	Homework corresponding to unit 2 (details given in class)	1時間
第7回	**Unit 2 Oldest, Middle, Youngest: Prepare to Listen, Listen & Speak** Prepare to Listen: Reflect by generating ideas about sibling behavior Listen & Speak: Birth Order Theory Listening Skill: Recognize generalizations Outline of Presentation 3 will be given.	Homework corresponding to unit 2 (details given in class), Presentation 3 preparation	1時間
第8回	**Unit 2 Oldest, Middle, Youngest: Reflection Activities, Prepare to Watch**	Homework corresponding to unit 2 (details given in class), Presentation 3 preparation	1時間

	Reflection Activity: Compare yourself to siblings or friends Prepare to Watch: Sibling Rivalry Quiz, Reflect: Relate ideas to your experiences Presentation 3 preparation		
第9回	**Unit 2 Oldest, Middle, Youngest: Watch & Speak** Watch & Speak: My Big Brother Speaking Skill: Ask for and give advice Presentation 3 preparation	Homework corresponding to unit 2 (details given in class), Presentation 3 preparation	1時間
第10回	**Presentation 3 Online presentations** Presentation 3: Group presentations This class will be done collaboratively with a Public Relations and Communication expert based in Vancouver, Canada. Students will do group presentations and Ms. Lilly will give feedback and advice.	Homework corresponding to unit 3 (details given in class)	1時間
第11回	**Unit 3 I'm a Big Fan: Prepare to Watch, Watch & Speak** Prepare to Watch: Listening, Reflect by discussing your experiences with music Watch & Speak: Why Do We Disagree About Music? Prepare for Presentation 4	Homework corresponding to unit 3 (details given in class), Presentation 4 preparation	1時間
第12回	**Unit 3 I'm a Big Fan: Prepare to Listen, Reflection Activity** Speaking Skill: Make and respond to suggestions Reflect: Make a playlist with a partner using Speaking Skill phrases Prepare to Listen: Critical Thinking, Apply, and Reflect Prepare for Presentation 4	Homework corresponding to unit 3 (details given in class), Presentation 4 preparation	1時間
第13回	**Unit 3 I'm a Big Fan: Listen & Speak** Listen & Speak: A Global Music Listening Survey Predict: predicting missing information Listening Skill: Take notes using symbols Prepare for Presentation 4	Homework corresponding to unit 3 (details given in class), Presentation 4 preparation	1時間
第14回	**Final Group Presentation, Goal Setting, Final Reports assigned** Final Group presentations will be done in this class. Students will revisit the goals they set at the beginning of the semester and evaluate their progress. **Final Report will be assigned	Final Report	1時間

532

授業科目名	Conversation Skills A③④				
担当教員名	J・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	practices				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、スピーキングの基礎的な能力の修得を目標とする。具体的には、テキストを用いて多くの演習に取り組むなかで、基本的語彙を増やしながら英語の音声の特徴についての理解を深め、日常的な発話や比較的身近なテーマに関する内容について正確に話せることのできるスピーキング能力を育てていく。また、グループやペアでのコミュニケーショントレーニングを取り入れて、理解される発音、リズム、適切なスピードに気をつけて演習を行うことを加える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Students will be able to understand international cultural issues that affect communication, both positively and negatively.	They will be able to better understand holidays and celebrations, personal relations, professionalism, and family as it relates to English-speaking countries' culture.
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		Students will be able to communicate their thoughts and intentions in English.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Homework, Quizzes	30 %	: Students will be evaluated on accuracy, timeliness, and/or effort depending on the task type. Quizzes will be based on vocabulary tasks.
Mid-term Test/Project	35 %	: Students will have a cumulative tests or finish a speaking project to assess learning goals for the term. Projects will be assessed by using a rubric.
Class Participation, English Use		: Students are expected to participate in class in English, attend Kobetsu Shido activities, and contribute to an active learning environment.

20 %

Final Speaking Project : The Project will be assessed by using a rubric.

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Wilson,K	・Smart Choice Fourth Edition Level 2 Student Book with Online Practice	・Oxford University Press	・2020 年

参考文献等

Wilson, K Smart Choice Fourth Edition Level 2 Workbook Oxford University Press 2020年
ISBN-10 : 0194061140
ISBN-13 : 978-0194061148

Students will be given some additional materials and assignments according to their levels.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will participate in a wide range of activities, with plenty of opportunities to practice speaking. Students will have formal and informal assessments, and speaking projects and presentations throughout the term. These projects and presentations may be individual or group-based. Students will be assessed in oral presentations based on their ability to
1. communicate clearly and effectively in a range of situations, showing their language skills and basic intercultural understanding
2. use appropriate language based on different cultural, situational, or interpersonal situations
3. understand and speak with accuracy and fluency in a variety of situations
4. organize and present their ideas logically
5. understand and respond to a variety of spoken texts

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： TBA

場所： TBA

備考・注意事項： Students will be notified of office hours during the first class.
Please bring a notebook or loose leaf notepaper to every class. PC and cell-phone use is by teacher permission only. Tech use and sleeping in class is distracting. All students are expected to be fully engaged in the class experience. Human to human communication is the heart of education.

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation/ Unit 1 Introduction** Orientation Unit 1 How was your vacation? Listening: Talking about vacation classes Speaking: What did you do on vacation	Vocabulary: vacation activities	1時間
第2回	**Unit 1 How was your vacation: Reading and Writing** Reading: Zip-lining in Costa Rica Writing: An email about a school project Pronunciation: Word stress	Grammar:agreeing and disagreeing	1時間
第3回	**Unit 2 I think it`s boring: Listening and Speaking** Listening: Interviewing people who work in movies and music Speaking: You and the movies	Vocabulary: movies and music	1時間
第4回	**Unit 2 I think it`s boring: Reading and Writing** Reading: Action men (and women) Writing: A blog post about movies Pronunciation: Final -ed sounds	Grammar: adjectives ending	1時間
第5回	**Unit 3 Do it before you`re 30: Listening and Speaking** Listening: Talking about personal experiences for a j ob application Speaking: Find someone who has	Vocabulary: extreme sports and activities	1時間
第6回	**Unit 3 Do it before you are 30: Reading and Writing** Reading: Have you ever seen anything like this?: Alex Honnold Writing: An email finding out about another country Pronunciation: Linked sounds	Grammar: the present perfect; Preparation for the mid-term project	1時間
第7回	**Presentation Project** Give a presentation about a vacation destination. Giv e your opinions about the destination.	Preparation for unit 4	1時間
第8回	**Unit 4 The best place in the world: Listening and Speaking** Listening: People taking part in a quiz Speaking: Geography quiz	Vocabulary: natural features	1時間
第9回	**Unit 4 The best place in the world: Reading and Writing** Reading: Where are the green est places on earth Writing: An email about your city Pronunciation: Reduction of t	Grammar: superlative adjectives	1時間
第10回	**Unit 5 Where`s the party: Listening and Speaking**	Vocabulary: special events	1時間

	Listening: New Year`s tradition Speaking: My favorite months		
第11回	**Unit 5 Where`s the party: Reading and Writing** Reading: Festival time in Asia Writing: A description of a party Pronunciation: Intonation of adverbial clasuses	Grammar: adverbial clauses: before, after, and when	1時間
第12回	**Unit 6 You should try it: Listening and Speaking** Listening: Advice for people who want to chage their lifestyles Speaking: Living a healthy lifestyle	Vocabulary: healthy and unhealthy activities	1時間
第13回	**Unit 6 You should try it: Reading and Writing** Reading: Do you have low self-esteem Writing: An email about a class Pronunciation: Reduction of have to and has to	Grammar: should and have to	1時間
第14回	**Review** Do BONUS exercises	Finish the remaining BONUS exercises	1時間

532

授業科目名	Conversation Skills B①②				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

This course builds on the language skills acquired in Conversation Skills A, with a focus on enhancing speaking and listening proficiency. Through regular activities, students will improve their ability to communicate effectively in international settings and with people from diverse backgrounds. Speaking activities will include conversation, discussion, and debates. Presentation skills will be further strengthened through individual and group projects. Individual projects will include developing an English CV. Key themes of the course will be intercultural understanding and exploring Japan from the perspective of inbound tourists and non-residents.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Students will regularly practice English speaking (conversation, discussion, debate, and production) and listening (comprehension and inference) in English in domestic and international contexts.	By the end of the course, students should be better able to use English to express themselves, and feel more confident about working in an international setting.
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		Students will be able to apply results of field work to presentations, discussions, and other assignments.
2. DP８.他者とのコミュニケーション		Students will be able to communicate effectively and appropriately about various relevant topics in international settings.
3. DP９.他者との協調・協働		As emphasis will be put on pair work and group work in this course, students will gain co-operation and collaboration skills.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Presentations, debates, corresponding manuscripts,	50 %	: Presentation type activities will be evaluated on a rubric for accuracy (grammar and expressions), oral skills (voice, intonation, pronunciation), and presentation skills (eye contact and gestures).
In-class assignments and activities	30 %	: All in-class assignments and pair and group speaking activities will be evaluated according to content, accuracy, fluency, and level of participation.
Homework		: Students will receive a score for homework completion and accuracy.

10 %

Final Report : A final report will be assigned at the end of the semester and will be evaluated on originality, accuracy, and level of participation.

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Johnathan Bygrave	・Reflect Listening & Speaking 2 (ISBN 978-0-357-44918-9)	・National Geographic Learning	・2022 年

参考文献等

The textbook for this course is Reflect Listening & Speaking 2 (ISBN: 978-0-357-44918-9).

履修上の注意・備考・メッセージ

Students are required to bring their laptop computers to EACH class.

All students are required to purchase the textbook. Previously used textbooks with answers written in them will not be accepted (does not apply to textbooks bought in for Conversation Skills A).

All students will be responsible for their own work. Use of translation machines and artificial intelligence (DeepL, Google Translate, ChatGPT etc) is not the students' original work and therefore should not be used. Students should be responsible, diligent, creative, and have a proactive attitude toward communicating in English and a strong desire to improve.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation, Goal Setting, Discussion about Education and Work Experience** Course overview and expectations Semester Goal Setting Discussion about Education and Work Experience. Presentation 1 outline and preparation	Buy textbook (for those students who have not already purchased one) Presentation 1 preparation	1時間
第2回	**Presentation 1: Education and Work Experience, Peer evaluation & Self-evaluation** Presentation 1 Students will present about their education and work experience, including volunteer work, internships, placements, and extra-curricular activities. Peer- and self- evaluations will be conducted.	Homework corresponding to unit 4 (details given in class)	1時間
第3回	**Unit 4 The Beauty of Science: Prepare to Listen, Listen & Speak, Introduction to English CV writing** Prepare to Listen: Reflect- Understand steps in research Listen & Speak: Three Science Experiments That Changed the World Listening Skill: Understand cause Presentation 2 preparation: Introduction to English CV Writing	Homework corresponding to unit 4 (details given in class), Presentation 2 preparation	1時間
第4回	**Unit 4 The Beauty of Science: Prepare to Watch, Reflect** Prepare to Watch: Science Quiz Reflect: Describe a home science experiment Presentation 2 preparation	Homework corresponding to unit 4 (details given in class), Presentation 2 preparation	1時間
第5回	**Unit 4 The Beauty of Science: Watch & Speak, Speaking Skill, Critical Thinking** Watch & Speak: Science You Can Do at Home Speaking Skill: Explain results Critical Thinking: Consider more than one cause Presentation 2 preparation	Homework corresponding to unit 4 (details given in class), Presentation 2 preparation	1時間
第6回	**Presentation 2: English CV, Peer evaluation & Self-evaluation** Presentation 2: students will present about their English CV's and ask and answer questions. Peer- and self-evaluations will be conducted.	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第7回	**Unit 5 Why We Buy: Prepare to Listen, Reflect** Prepare to Listen: Discussion Reflect: Consider you spending habits Presentation 3 preparation: promoting local products to International Tourists	Homework corresponding to unit 5 (details given in class), Presentation 3 preparation	1時間
第8回	**Unit 5 Why We Buy: Listen & Speak, Reflect**	Homework corresponding to unit 5 (details given in class), Presentation 3 preparation	1時間

	Listen & Speak: Spending More, Saving Less Reflect: Discussion- How social media impacts your sp ending Presentation 3 preparation: promoting local products to International Tourists		
第9回	**Unit 5 Why We Buy: Prepare to Watch, Watch & Speak** Prepare to Watch: Reflect- Evaluate your money skills Watch & Speak: Eight Money-Saving Tips Presentation 3 preparation: promoting local products to International Tourists	Homework corresponding to unit 5 (details given in class), Presentation 3 preparation	1時間
第10回	**Presentation 3: Promoting Local Products, Peer evaluation & Self-evaluation** Presentation 3: Students will work in groups to promo te a newly reinvented traditional handicraft to inbou nd tourists. In addition to English skills, students will be evaluated on the content of their presentatio ns. Self- and group evaluations will be conducted.	Homework corresponding to unit 6 (details given in class by instructor)	1時間
第11回	**Unit 6 Animal Magic: Prepare to Watch, Reflect** Prepare to Watch: Reflect- Analyze differences betwee n animals Presentation 4 preparation	Homework corresponding to unit 6 (details given in class), Presentation 4 preparation	1時間
第12回	**Unit 6 Animal Magic: Watch & Speak, Reflect** Watch & Speak: The World Through Animal Eyes Reflect: Relate ideas to your life Presentation 4 preparation	Homework corresponding to unit 6 (details given in class), Presentation 4 preparation	1時間
第13回	**Unit 6 Animal Magic: Prepare to Listen, Listen & Speak** Prepare to Listen: Animal Adaptations Quiz Listen & Speak: More Than Just a Long Neck Presentation 4 preparation	Presentation 4 preparation	1時間
第14回	**Presentation 4: Personal growth, Goal setting, Final Reports** Presentation 4: students will present on their growth over the year. Goal setting done at the beginning of the semester will be revisited. Final reports will be assigned.	Final Report	1時間

532

授業科目名	Conversation Skills B③④				
担当教員名	J・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	practices				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、スピーキングの基礎的な能力の修得を目標とする。具体的には、テキストを用いて多くの演習に取り組むなかで、基本的語彙を増やしながら英語の音声の特徴についての理解を深め、日常的な発話や比較的身近なテーマに関する内容について正確に話せることのできるスピーキング能力を育てていく。また、グループやペアでのコミュニケーショントレーニングを取り入れて、理解される発音、リズム、適切なスピードに気をつけて演習を行うことを加える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Students will be able to understand international cultural issues that affect communication, both positively and negatively.	They will be able to better understand holidays and celebrations, personal relations, professionalism, and family as it relates to English-speaking countries' culture.
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		Students will be able to communicate their thoughts and intentions in English.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Homework, Quizzes	30 %	: Students will be evaluated on accuracy, timeliness, and/or effort depending on the task type. Quizzes will be based on vocabulary tasks.
Mid-term Test/Project	35 %	: Students will have a cumulative test or finish a speaking project to assess learning goals for the mid term.
Class Participation, English Use		: Students are expected to participate in class in English, attend Kobetsu Shido activities, and contribute to an active learning environment.

20 %

Final Speaking Project : The Project will be assessed by using a rubric.

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Wilson,K	・Smart Choice Fourth Edition Level 2 Student Book with Online Practice	・Oxford University Press	・2020 年

参考文献等

Wilson, K.(2020) Smart Choice Fourth Edition Level 2 Workbook Oxford University Press
ISBN-10 : 0194061140
ISBN-13 : 978-0194061148

Students will be given some additional materials and assignments according to their levels.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will participate in a wide range of activities, with plenty of opportunities to practice speaking. Students will have formal and informal assessments, and speaking projects and presentations throughout the term. These projects and presentations may be individual or group-based. Students will be assessed in oral presentations based on their ability to
1. communicate clearly and effectively in a range of situations, showing their language skills and basic intercultural understanding
2. use appropriate language based on different cultural, situational, or interpersonal situations
3. understand and speak with accuracy and fluency in a variety of situations
4. organize and present their ideas logically
5. understand and respond to a variety of spoken texts

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： TBA

場所： TBA

備考・注意事項： Students will be notified of office hours during the first class.
Please bring a notebook or loose leaf notepaper to every class. PC and cell-phone use is by teacher permission only. Tech use and sleeping in class is distracting. All students are expected to be fully engaged in the class experience. Human to human communication is the heart of education.

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation/ Unit 7 There are too many stores: Listening and Speaking** Listening: People talk about shopping habits Speaking: A shopping game	Vocabulary: things to buy	1時間
第2回	**Unit 7 There are too many stores: Reading and Writing** Reading: A different kind of shopping mall Writing: A blog about your favorite place to shop Pronunciation: Word stress in complaints	Grammar: too/not enough; too many/too much	1時間
第3回	**Unit 8 Wanted: People who can sing: Listening and Speaking** Listening: Phone conversation about house-sitting Speaking: THe most important thing to me	Vocabulary: desribe personality	1時間
第4回	**Unit 8 Wanted: People who can sing: Reading and Writing** Reading: How to impress an interviewer Writing: An email about you and your preferences Pronunication: Word stress and content words	Grammar: the past continuous	1時間
第5回	**Unit 9 What were you doing: Listening and Speaking** Listening: People describe an accident Speaking: Have you ever	Vocabulary: accidents and injuries	1時間
第6回	**Unit 9 What were you doing: Reading and Writing** Reading: Six-year-old boy drives mon`s car to school Writing: A paragraph about something that happened to you Pronunciation: Linked sounds with /y/	Grammar: the past continuous; Preparation for the mid-term project	1時間
第7回	**Mid-term project** Give a presentation about an international vacation d estination. Give your opinions about the destination. Use personal experience.	Preparation for unit 10	1時間
第8回	**Unit 10 I used to sing: Listening and Speaking** Listening: People talk about their family history Speaking: Find someown who used to	Vocabulary: school activities and clubs	1時間
第9回	**Unit 10 I used to sing: Reading and Writing** Reading: Ten things you didn`t know about Lady Gaga Writing: Comments on a website about the past habits Pronunciation: Linking and vowel reduction in used to	Grammar: used to	1時間
第10回	**Unit 11 You`ll save money if: Listening and Speaking** Listening: Radio interview about single-use plastics Speaking: How green are you	Vocabulary: recycling	1時間

第11回	**Unit 11 You`ll save money if: Reading and Writing** Reading: And now the good news Writing: An email about a local environmental problem	Grammar: zero and first conditionals	1時間
第12回	**Unit 12 You could be a lifeguard: Listening and Speaking** Listening: Talking about study and career plans Speaking: What next	Vocabulary: vacation jobs	1時間
第13回	**Unit 12 You could be a lifeguard: Reading and Writing** Reading: A volunteer vacation Writing: An email asking about another country Pronunciation: Reduction of must be, can`t be, and might be	Grammar: modals for possibility, speculation, and deduction	1時間
第14回	**Review** Do BONUS exercises	finish the remaining BONUS exercises	1時間

533

授業科目名	Conversation Skills C				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

This course is meant to prepare students for employment in international contexts. Through listening, speaking, and critical thinking activities, students will further develop their communication skills and become more effective at expressing their thoughts and opinions. Speaking activities will include conversation, discussion, presentations, and debates, and listening activities will train students' inference skills. Students will be expected to review grammar and vocabulary on their own time. A proactive attitude towards communicating in English, a strong desire to improve, and a willingness to challenge oneself is necessary.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	Students will regularly practice English speaking (conversation, discussion, debate, and production) and listening (comprehension and inference) in domestic and international contexts.	By the end of the course, students should have developed a sophisticated ability of expressing themselves in English and feel confident about working in an international setting.
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	In an all English environment, students will engage in debate and discussions, make presentations, work independently and collaboratively, and participate in activities requiring deep thinking.	By the end of this course, students will have developed transferable skills that enhance their ability to adapt to new situations, organize their work efficiently, and contribute to service quality im
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		Through exposure to content about different ways of life, students will be able to recognize issues and challenges they themselves and others are faced with.
2. DP８.他者とのコミュニケーション		Students will regularly communicate their thoughts and opinions with other s in the class through group work and pair work.
3. DP９.他者との協調・協働		Students will develop skills in effective group collaboration.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

Students will be given regular feedback on their progress.

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Speaking and listening activities	:	Participation and progress during speaking and listening activities will be evaluated and make up 40% of the final grade.

	40 %		
Presentations and projects		:	Presentation type activities will be evaluated on a rubric for accuracy (grammar and expressions), oral skills (voice, intonation, pronunciation), and presentation skills (eye contact and gestures).
	40 %		
Reflection assignments, homework		:	Weekly reflection assignments and homework will be checked for completion and content.
	10 %		
Final Report		:	A final report will be assigned at the end of the semester and will be evaluated on originality, accuracy, and level of participation.
	10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Course materials will be provided by the instructor.

**Students are expected to come to each class with a notebook, writing instruments, and a file folder for handouts.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will often be required to bring their laptop computers to class.

All students are responsible for their own work. Work done by relying on translation software and artificial intelligence programs is not the students' original work and will not be accepted.

Students should be responsible, diligent, creative, and have a proactive attitude toward communicating in English and a strong desire to improve.

Students will receive a score each week for their written reflections. Absences will reflect in this score.

As class materials will be handed out during class time, students must come to class with notebooks and a file folder.

In case of absence, students must take responsibility and contact the instructor via email.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： To be announced in class

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation, Semester Goal Setting, Introduction to Presentation Skills** Course orientation Semester goal Setting Introduction to presentation skills Reflection activity Presentation 1 preparation	Presentation 1 preparation	1時間
第2回	**Presentation 1: Peer-led theme presentations, Peer-evaluations** Presentation 1: students will do presentations on the mes chosen by their peers. Peer evaluations will be c onducted. Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第3回	**Group Speaking Activity 1: Intercultural Understanding part 1 (activity) , Student-led Current Events Activity 1** Student-led current events activity 1 Group Speaking Activity 1: Intercultural Understandin g part 1 (activity) Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第4回	**Group Speaking Activity 1: Intercultural Understanding part 2 (discussion), Student-led Current Events Activity 2** Student-led current events activity 2 Group Speaking Activity 1: Intercultural Understandin g part 1 (discussion) Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第5回	**Listening Inference Activity 1: The Dinner, Student-led Current Events Activity 3** Student-led current events activity 3 Listening Inference Activity 1: The Dinner Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第6回	**Listening Inference Activity 2: A Train to Goa, Student-led Current Events Activity 4** Student-led current events activity 4 Listening Inference Activity 2: A Train to Goa Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間

第7回	**Group Speaking Activity 2: Problem Solving in an Intercultural Setting Part 1 (Background), Student-led Current Events Activity 5** Student-led current events activity 5 Group Speaking Activity 2: Problem Solving in an Intercultural Setting part 1 (background) Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第8回	**Group Speaking Activity 2: Problem Solving in an Intercultural Setting Part 2 (Activity), Student-led Current Events Activity 6** Student-led Current Events Activity 6 Group Speaking Activity 2: Problem Solving in an Intercultural Setting Part 2 (Activity) Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第9回	**Listening Inference Activity 3: An Artist in New York, Student-led Current Events Activity 7** Student-led current events activity 7 Listening Inference Activity 3: An Artist in New York Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第10回	**Listening Inference Activity 4: How Raven Stole the Light, Student-led Current Events Activity 8** Student-led current events activity 8 Listening Inference Activity 4: How Raven Stole the Light Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第11回	**Group Speaking Activity 3: Debate Part 1 (background), Student-led Current Events Activity 9** Student-led current events activity 9 Group Speaking Activity 3: Debate Part 1 (background) Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第12回	**Group Speaking Activity 3: Debate Part 2 (activity), Student-led Current Events Activity 10** Student-led current events activity 10 Group Speaking Activity 3: Debate Part 2 (activity) Reflection activity	Vocabulary review, Current Events activity preparation	1時間
第13回	**Group Speaking Activity 3: Debate Part 3 (discussion and evaluation), Student-led Current Events Activity 11** Student-led current events activity 11 Group Speaking Activity 3: Debate Part 3 (discussion and evaluation) Presentation 2 preparation Reflection activity	Vocabulary review, Presentation 2 preparation	1時間
第14回	**Presentation 2: Goal-setting revisited, Reflection Activity, Assigning of Final Reports** Presentation 2: Students will revisit the goals they set at the beginning of the semester and present on their progress. Last reflection activity **Final Reports will be assigned	Review for Final Report	1時間

授業科目名	English for Business 1①				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講座は、実践的なビジネス英語を学び、目安としてTOEICで600点を上回る程度の英語力を身に着けることを目標としています。授業は担当教員の指導のもと、ビジネス英語／資格試験指導に長けた外部講師が授業を行う形で進めます。問題演習を通して、英語で英語を聴解する力および読解する力を総合的に伸ばし、且つ文法の知識を身に着けます。語彙については、翌授業において前回既習箇所の小テストを行い、知識の定着を図るため、しっかりと復習をすることが求められます。
また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネス現場で役立つ実践的な英語力を身に着ける	ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自分で決めた学習計画に基づき、工夫を凝らしながらスキルを磨いていくことができる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		目標達成のために、授業外でも時間を学習時間を設け、計画通り取り組むことができる
3. DP８.他者とのコミュニケーション		学習した知識を用いて、他者とのコミュニケーションに積極的に活用することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末定期試験	30 %	： 試験の得点で評価します。
小テスト	40 %	： 小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。
参加度	30 %	： 質問や自分の考え・意見の発表に、積極的に取り組んでいるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
溝口優美子、柳田真知子	・ SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST : PRE-INTERMEDIATE	・ 金星堂	・ 2019 年

TEX加藤　・TOEIC® L&R TEST　出る単特急 銀のフレーズ　・朝日新聞出版　・2018　年

参考文献等

「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST : PRE-INTERMEDIATE」　ISBN-13: 978-4764740891
「TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」　ISBN-13:「978-4023316843

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。
●毎回、授業内に小テストを実施します。
●毎回、授業終了時に宿題が出されます。
●第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で説明します。

場所：　初回授業で説明します。

備考・注意事項：　質問等があれば、osaka.seikei@ecc.co.jpまでメールにてご連絡ください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・スピーキング練習** 授業の概要について理解する。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Unit 1: Travel 名詞** 旅行に関する語句・表現、数えられる名詞・数えられない名詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Unit 2: Dining Out 形容詞** 食事・料理に関する語句・表現、名詞を修飾する形容詞・補語になる形容詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Unit 3: Media 副詞** メディアに関する語句・表現、動詞・形容詞を修飾する副詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Unit 4: Entertainment 時制** エンターテインメントに関する語句・表現、現在・過去・未来・現在進行形について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Unit 5: Purchasing 主語と動詞の一致** 買い物に関する語句・表現、３単現のsについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Unit 6: Clients 能動態・受動態** 顧客と取引にに関する語句・表現、能動態、受動態について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**Unit 7: Recruiting 動名詞・不定詞** 求人・採用に関する語句・表現、動名詞、不定詞について学ぶ。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Unit 8: Personnel 代名詞：主格・所有格・目的格** 人事に関する語句・表現、主格、所有格、目的格について学ぶ。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	**Unit 9: Advertising 比較級・最上級・as…as** 広告・宣伝に関する語句・表現、比較級、最大級などについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Unit 10: Meetings 前置詞** 会議に関する語句・表現、理由・譲歩・時・定型表現と関連した前置詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Unit 11: Finance 接続詞** 予算・費用に関する語句・表現、理由・譲歩・時に関連した接続詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Unit 12: Offices** オフィスに関する語句・表現、前置詞と接続詞の違いについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**前期の既習事項の復習** 前期に習った重要語句・表現・文法事項について総復習する。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

532

授業科目名	English for Business 1②				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年生以上	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。	言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	英語の４技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。	ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加・課題	40 %	： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。
小テスト・ユニットテスト・中間テスト	10 %	： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。
プレゼンテーション・プロジェクト		： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

30　%

期末考査　：　授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hiroshi Yoshizuka & Graham Skerritt	・TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ―Pre-Intermediate―	・Seibido	・2025　年

参考文献等

教科書　ISBN: 978-4-7919-7313-2
参考文献は、適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

●本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
●「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計１時間を目安にするといいでしょう。
●授業参加は全体評価の40%です。欠席した場合、授業活動の評価については全て「０」となります。
●毎回授業で小テストを実施します。欠席や遅刻で遅れて受験したクイズの得点については、最終成績計算では「０」として加算されます。
●毎授業終了時に家庭学習課題が課されます。提出期限の厳守と完成度が「課題」40%の評価の対象となります。
●授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
●第1回目の授業で説明されるルールを順守して受講してください。
●「欠席」には公欠を含みません。「授業遅刻」には「遅延」を含みませんが、欠席届・遅延証明書が必要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で案内します。

場所：　初回授業で案内します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Class introduction & Unit 1: Dining Out (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に広告素材を用いて重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Unit 1: Dining Out (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、Eメールや新聞記事の読み取り練習を行います。本授業では、特に外食に関する文書から重要な情報の抽出を行い、社会における広告の役割について多様な意見の交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Unit 2: General Business (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に挨拶や会議での会話について重要な情報の抽出方法を学習し、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Unit 2: General Business (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、Eメールや告知文の読み取り練習を行います。本授業では、特に旅行業界で取り扱う文書から重要な情報の抽出を行い、社会における告知文の役割について多様な意見の交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Unit 3: Manufacturing (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に製造業界で交わされる会話での重要な情報の抽出方法を学習し、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Unit 3: Manufacturing (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、告知文の読み取り練習を行います。本授業では、特に製造業界におけるプレスリリースや工場見学者への注意喚起の文章から重要な情報の抽出を行い、その役割について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Unit 4: Finance & Budgeting (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に金融業界での会話について、重要な情報の抽出方法を学習し、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**Unit 4: Finance & Budgeting (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、社内文書い関する読み取り練習を行います。本授業では、特に金融業界における社内Eメールやテキストメッセージについての重要な情報の抽出を行い、その役割について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Unit 5: Communication (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にマスコミ業界での会話について、重要な情報の抽出方法を学習し、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

第10回	**Unit 5: Communication (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、Eメールや記事の読み取り練習を行います。本授業では、特にマスコミ業界の社内人事に関するEメールや社外向けの告知記事から重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Unit 6: Health (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にヘルスケア業界での会話について重要な情報の抽出方法を学習し、業界特有の課題やその解決方法に向けた会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Unit 6: Health (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、手紙や掲示文の読み取り練習を行います。本授業では、特にヘルスケア業界におけるビジネスレターや施設内掲示文から重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Unit 7: Purchasing (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に企業における資材調達や購買関連の会話から重要な情報の抽出方法を学習し、課題解決に向けた会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**Unit 7: Purchasing (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、社外向け記事やEメールの読み取り練習を行います。本授業では、特に資材調達・購買に関する宣伝記事や注文確認についての重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだUnit 1~Unit 7の語句・表現を反復練習する。	1時間

532

授業科目名	English for Business 1 ③④				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。	言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	英語の４技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。	ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加・課題	40 %	： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。
小テスト・ユニットテスト・中間テスト	10 %	： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。
プレゼンテーション・プロジェクト		： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

30　%

期末考査　：　授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hiromi Hagi, Adelia Falk & others	・頻出表現と頻出単語でつかむTOEIC L&R TEST400点	・Seibido	・2023　年

参考文献等

教科書　ISBN: 978-4-7919-7290-6。
参考文献は、適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

●本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
●「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計１時間を目安にするといいでしょう。
●授業参加は全体評価の40%です。欠席した場合、授業活動の評価については全て「０」となります。
●毎回授業で小テストを実施します。欠席や遅刻で遅れて受験したクイズの得点については、最終成績計算では「０」として加算されます。
●毎授業終了時に家庭学習課題が課されます。提出期限の厳守と完成度が「課題」40%の評価の対象となります。
●授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
●第1回目の授業で説明されるルールを順守して受講してください。
●「欠席」には公欠を含みません。「授業遅刻」には「遅延」を含みませんが、欠席届・遅延証明書が必要です

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で案内します。

場所：　初回授業で案内します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Class introduction & Unit 1: Restaurants (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に飲食業界の会話から重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	Unit 1: Restaurants　(Reading) ビジネスシーンに欠かせない、広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に飲食業界における広告文から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	Unit 2: Daily Life (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に社内での日常的なコミュニケーションの会話から重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	Unit 2: Daily Life (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文やアンケートの読み取り練習を行います。本授業では、特に社内文書の文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	Unit 3: Campus Life (Listening) 大学生活に欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に大学での会話からの重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	Unit 3: Campus Life (Reading) 大学生活に欠かせない、通知文や課題に関する学生間のメッセージについての読み取り練習を行います。本授業では、特に通知文やテキストメッセージ文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	Unit 4: Shopping (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に購買シーンでの会話から重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	Unit 4: Shopping (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文や広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に購買シーンで取り扱われる文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	Unit 5: Entertainment (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にイベントや娯楽施設での会話から重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	Unit 5: Entertainment (Reading)	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

	ビジネスシーンに欠かせない、広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特にイベントや娯楽施設で取り扱われる文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。		
第11回	**Unit 6: Office Work (1) (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にオフィスの種類や役職・仕事に関する会話から重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Unit 6: Office Work (1) (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、社内メモの読み取り練習を行います。本授業では、特にメモの文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Unit 7: Office Work (2) (Listening)** ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に会議や資料に関する会話をから重要な情報の抽出を行い、会話の型や内容理解の方法について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**Unit 7: Office Work (2) (Reading)** ビジネスシーンに欠かせない、社内メモや社内通知文の読み取り練習を行います。本授業では、特にメモや通知文から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	授業時に学んだUnit 1~Unit 7の語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	English for Business 2①				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講座は、実践的なビジネス英語を学び、目安としてTOEICで600点を上回る英語力を身に着けることを目標としています。授業は担当教員の指導のもと、ビジネス英語指導に長けた外部講師が授業を行う形で進めます。多くの問題演習を通して、英語で英語を聴解する力および読解する力を総合的に伸ばし、且つ文法の知識を身に着けます。語彙については、翌授業において前回既習箇所の小テストを行い、知識の定着を図るため、しっかりと復習をすることが求められます。
また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネス現場で役立つ実践的な英語力を身に着ける	ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自分で決めた学習計画に基づき、工夫を凝らしながらスキルを磨いていくことができる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		目標達成のために、授業外でも時間を学習時間を設け、計画通り取り組むことができる
3. DP８.他者とのコミュニケーション		学習した知識を用いて、他者とのコミュニケーションに積極的に活用することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末定期試験	30 %	： 試験の得点で評価します。
小テスト	40 %	： 小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。
参加度	30 %	： 質問や自分の考え・意見の発表に、積極的に取り組んでいるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
溝口優美子、柳田真知子	・ SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST ： INTERMEDIATE	・ 金星堂	・ 2019 年

TEX加藤	・TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ	・朝日新聞出版	・2018 年

参考文献等

「SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST : INTERMEDIATE」 ISBN-13: 978-4764740907
「TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」 ISBN-13:「978-4023316843

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。
●毎回、授業内に小テストを実施します。
●毎回、授業終了時に宿題が出されます。
●第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で説明します。

場所： 初回授業で説明します。

備考・注意事項： 質問等があれば、osaka.seikei@ecc.co.jpまでメールにてご連絡ください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・Unit 1: Travel 名詞** 旅行に関する語句・表現、数えられる名詞・数えられない名詞、接尾辞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Unit 2: Dining Out 形容詞** 食事・料理に関する語句・表現、名詞を修飾する形容詞・補語になる形容詞、接尾辞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Unit 3: Media 副詞** メディアに関する語句・表現、動詞・形容詞を修飾する副詞、接尾辞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Unit 4: Entertainment 時制** エンターテインメントに関する語句・表現、現在・過去・未来・現在進行形、現在完了形について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Unit 5: Purchasing 主語と動詞の一致** 買い物に関する語句・表現、３単現のsについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Unit 6: Clients 能動態・受動態** 顧客と取引にに関する語句・表現、能動態、受動態、感情を表す表現・SVOOの受動態について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Unit 7: Recruiting 動名詞・不定詞** 求人・採用に関する語句・表現、動名詞、目的を表す不定詞などについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**Unit 8: Personnel 時制：現在分詞・過去分詞** 人事に関する語句・表現、主格、現在分詞・過去分詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Unit 9: Advertising 代名詞：主格・所有格・目的格** 広告・宣伝に関する語句・表現、主格、所有格、目的格、所有代名詞、再帰代名詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	**Unit 10: Meetings 比較級・最上級・as…as** 会議に関する語句・表現、比較級、最大級などについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Unit 11: Finance 前置詞** 予算・費用に関する語句・表現、理由・譲歩・時・定型表現と関連した前置詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Unit 12: Offices 接続詞** オフィスに関する語句・表現、理由・譲歩・時・条件に関連した接続詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Unit 13: Daily Life 前置詞と接続詞の違い** 日常生活に関する語句・表現、前置詞と接続詞の違いについて学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**後期の既習事項の復習** 後期に習った重要語句・表現・文法事項について総復習する。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

532

授業科目名	English for Business 2②				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現を土台にした、幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。TOEIC試験で頻出されるビジネス関連のリスニング・リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、コミュニケーションに焦点をあてたアプローチを採用し、演習問題に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネスで必要とされる英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。	言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	英語の４技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。	ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして必要な英語を話す大切さを学ぶ。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション	グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加・課題	40 %	： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。
小テスト・ユニットテスト・中間テスト	10 %	： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。
プレゼンテーション		： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

30　%

期末考査　：　授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hiroshi Yoshizuka&Graham Skerritt	・TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ―Pre-Intermediate―	・Seibido	・2025　年

参考文献等

教科書　ISBN: 978-4-7919-7313-2
参考文献は、適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

●本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
●「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計１時間を目安にするといいでしょう。
●授業参加は全体評価の40%です。欠席した場合、授業活動の評価については全て「０」となります。
●毎回授業で小テストを実施します。欠席や遅刻で遅れて受験したクイズの得点については、最終成績計算では「０」として加算されます。
●毎授業終了時に家庭学習課題が課されます。提出期限の厳守と完成度が「課題」40%の評価の対象となります。
●授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
●第1回目の授業で説明されるルールを順守して受講してください。
●「欠席」には公欠を含みません。「授業遅刻」には「遅延」を含みませんが、欠席届・遅延証明書が必要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で案内します。

場所：　初回授業で案内します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Unit 8: Personnel (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に採用面接やプレゼンテーションでの会話から重要な情報を抽出する方法を学習し、効果的な会話の方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第2回	Unit 8: Personnel (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文や広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に人事に関する求人広告やジョブフェアーの告知文についての重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第3回	Unit 9: Corporate Development (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にプロジェクトに向けた会議で交わされる会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話の特徴について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第4回	Unit 9: Corporate Development (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文や広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に企業開発・合併に関連する文章から重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第5回	Unit 10: Entertainment (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にイベント宣伝や参加方法のお知らせに関する会話から重要な情報の抽出方法を学習し、ビジネスにおける宣伝の役割について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第6回	Unit 10: Entertainment (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、記事やテキストメッセージについての読み取り練習を行います。本授業では、特にエンターテイメント業界におけるイベント紹介記事やイベント企画についての社内テキストメッセージから重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割についての多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第7回	Unit 11: Technical Areas (Listening)	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間

	ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に技術に関する質問や課題解決についての会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話の理解方法について多様な意見交換を行います。		
第8回	Unit 11: Technical Areas (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、Eメールの読み取り練習を行います。本授業では、特に技術革新分野における社外向けEメールや社内申請書の文章から重要な情報の抽出を行い、文章の特徴や役割について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第9回	Unit 12: Offices (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取り練習を行います。本授業では、特にオフィス家具や配置についての会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第10回	Unit 12: Offices (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、Eメールやメモの読み取り練習を行います。本授業では、特にオフィス内でのEメールやメモの文章から重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第11回	Unit 13: Travel (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に機内アナウンスや移動中の会話から重要な情報を抽出する方法を学習し、会話理解の方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第12回	Unit 13: Travel (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、手紙や旅程告知文の読み取り練習を行います。本授業では、特に旅行業界における顧客向けEメールや旅程告知についての文章から重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第13回	Unit 14: Housing / Corporate Property (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に家具の配置やオフィス環境に関する会話について、重要な情報の抽出方法を学習し、会話の効果的な理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第14回	Unit 14: Housing / Corporate Property (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、手紙や旅程の読み取り練習を行います。本授業では、特に住宅産業界における顧客向けの手紙や、住宅地図についての文章から重要な情報の抽出を行い、文章の型や役割について多様な意見交換を行います。	定期試験に備えて、Unit 8~Unit 14を復習する。	1時間

532

授業科目名	English for Business 2③④				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	2年生以上	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現を土台にした、幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。TOEIC試験で頻出されるビジネス関連のリスニング・リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、コミュニケーションに焦点をあてたアプローチを採用し、演習問題に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネスで必要とされる英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。	言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	英語の４技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。	ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして必要な英語を話す大切さを学ぶ。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション	グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加・課題	40 %	： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。
小テスト・ユニットテスト・中間テスト	10 %	： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。

プレゼンテーション・プロジェクト : 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

30 %

期末考査 : 授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hitomi Hagi, Adelia Falk and others	・頻出表現と頻出単語でつかむTOEIC L&R TEST400点 (ISBN:978-4-7919-7290-6)	・Seibido	・2023 年

参考文献等

教科書 ISBN: 978-4-7919-7290-6。
参考文献は、適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

●本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
●「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計１時間を目安にするといいでしょう。
●授業参加は全体評価の40%です。欠席した場合、授業活動の評価については全て「０」となります。
●毎回授業で小テストを実施します。欠席や遅刻で遅れて受験したクイズの得点については、最終成績計算では「０」として加算されます。
●毎授業終了時に家庭学習課題が課されます。提出期限の厳守と完成度が「課題」40%の評価の対象となります。
●授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
●第1回目の授業で説明されるルールを順守して受講してください。
●「欠席」には公欠を含みません。「授業遅刻」には「遅延」を含みませんが、欠席届・遅延証明書が必要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Unit 8: Bank &Post Office (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に金融関連での会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第2回	Unit 8: Bank &Post Office(Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文や広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に金融関連のEメールやウェブページから重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第3回	Unit 9: Job Hunting (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に就職活動に関係する会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第4回	Unit 9: Job Hunting (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、フォーマルレターや広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に人事に関係する文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第5回	Unit 10: Housing (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に住宅事業関連の会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第6回	Unit 10: Housing (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文やEメールの読み取り練習を行います。本授業では、特に住宅関連産業に関係する文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第7回	Unit 11: Transportation (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に交通運輸関連の会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間

第8回	Unit 11: Transportation　(Reading) ビジネスシーンに欠かせない、旅程表や広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特に旅行業界でやりとりされる文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第9回	Unit 12: Hotels (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に宿泊施設業界での会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第10回	Unit 12: Hotels (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文やEメールの読み取り練習を行います。本授業では、特に宿泊サービス事業に関係する文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第11回	Unit 13: Events (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特にイベント関連業界での会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第12回	Unit 13: Events (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、告知文や広告文の読み取り練習を行います。本授業では、特にイベント関連業界に関連する文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第13回	Unit 14: Health (Listening) ビジネスシーンに欠かせない、会話の核となる情報の聞き取りの練習を行います。本授業では、特に健康医療業界での会話から重要な情報の抽出方法を学習し、会話内容の理解方法について多様な意見交換を行います。	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第14回	Unit 14: Health (Reading) ビジネスシーンに欠かせない、新聞記事や告知文・ウエッブページの読み取り練習を行います。本授業では、特に健康医療業界に関係する文章から重要な情報の抽出を行い、その役割や構成について多様な意見交換を行います。	定期試験に備えて、Unit 8~Unit 14を復習する。	1時間

533

授業科目名	Advanced English 1				
担当教員名	J・リング				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	The professor has several years of business experience as a manager at a company in the USA.				

授業概要

This is an advanced English class. Recommended TOEIC score of 400 points or higher. This course also includes instruction in basic Higher Order Thinking Skills (HOTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. For example: Analysis, application, evaluation, metacognition, and synthesis of knowledge.
We use real world English and "Can Do" language goals matched to the CEFR and TOEIC.
We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	Advanced English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.	Students will be able to: Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.	Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions. Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one’s ideas and logic clearly.
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their higher order thinking skills.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

Please bring a notebook.

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

Please bring a notebook.

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

Midterm performance event/debate	:	Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.
25 %		
Academic English portfolio	:	Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.
25 %		
Class participation	:	Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric.
20 %		
Higher order thinking skills	:	Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, summarizing, explanation. Assessed based on Professors' rubric.
10 %		
Project-based learning project	:	Theme and evaluation standards based on class and instructor choice. This includes a final report to be submitted after Class 14.
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Douglas, Hughes, Morgan	・World Link, Fourth Edition Level 2 Student Book	・Cengage Learning	・2021 年

参考文献等

ISBN: 9780357502174

履修上の注意・備考・メッセージ

Please bring a notebook.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： To Be Announced (TBA)

場所： TBA

備考・注意事項： TBA

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Semester 2 Orientation** Ice Breaker/Make teams Advanced English course introduction Explanation of evaluation methods Explanation of homework expectations Explanation of portfolio contents Review Higher Order Thinking Skills (HOTS), self-effi cacy, motivation, and time management.	Portfolio preparation	1時間
第2回	**LESSON A My Life** Relationships Interview a friend about school life Higher Order Thinking Skills (HOTS): Summary writing	Relationships Interview a friend about school life	1時間
第3回	**LESSON B Lessons learned** Write about something that you learned to do Try, try again to succeed Higher Order Thinking Skills (HOTS): Summary writing continued	Write about something that you learned to do	1時間
第4回	**LESSON A Foods we like** Describing food Healthy habits Higher Order Thinking Skills (HOTS):Critical thinking -	Write a recipe	1時間
第5回	**LESSON B Eating well** Find the differences Write a restaurant review Create a menu Higher Order Thinking Skills (HOTS):Creative thinking -	Create a menu	1時間
第6回	**LESSON A You are in luck!**	Research a mystery case	1時間

	Discuss luck Solving mysteries Higher Order Thinking Skills (HOTS):Lateral thinking -		
第7回	**LESSON B Unsolved mysteries** Present your theory about a mystery Higher Order Thinking Skills (HOTS):Divergent thinkin g -brainstorming	Write about an unsolved mystery	1時間
第8回	**LESSON A How we shop** Role-play a customer Fashion Describing trends Higher Order Thinking Skills (HOTS):Convergent thinki ng -facts p. 142	Research a new trend	1時間
第9回	**LESSON B Fashion on demand** The facts about fashion Fill out a style profile Higher Order Thinking Skills (HOTS):Counterfactual th inking - “what if?” questions	Write about your fashion style	1時間
第10回	**LESSON A Chores and errands** Doing chores and errands Getting around Higher Order Thinking Skills (HOTS):Synthesizing -	Write about your chores	1時間
第11回	**LESSON B Getting around** Create your own service business Give advice as a personal shopper Higher Order Thinking Skills (HOTS):Metacognition -	Write about your own service business	1時間
第12回	**Final Presentation Preparation: Research** Choose your theme Research in class Write in class Get feedback from the teacher Higher Order Thinking Skills (HOTS):Evaluation - Judg ing correctness, quality, or benefits	Make PPT	1時間
第13回	**Final Presentation Preparation: Writing and Practice** Choose your theme Research in class Write in class Practice in class Get feedback from the teacher Higher Order Thinking Skills (HOTS):Abstract thinking - Theory	Practice at home	1時間
第14回	**Presentations and Final Report Evaluation** Final Class Presentations Final presentations and course conclusion/wrap up. Higher Order Thinking Skills (HOTS):Identifying logic al fallacies -critique, judgment, and logic. Final Re port Evaluation submitted after Class 14.	Complete academic portfolio, prepare for the final report.	1時間

533

授業科目名	Advanced English 2				
担当教員名	J・リング				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	The professor has several years of business experience as a manager at a company in the USA.				

授業概要

This is an advanced English class. Recommended TOEIC score of 400 points or higher. This course also includes instruction in basic Higher Order Thinking Skills (HOTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. For example: Analysis, application, evaluation, metacognition, and synthesis of knowledge.
We use real world English and "Can Do" language goals matched to the CEFR and TOEIC.
We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	Advanced English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.	Students will be able to: Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.	Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions. Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one’s ideas and logic clearly.
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their higher order thinking skills.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

Please bring a notebook.

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

Please bring a notebook.

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

Midterm performance event/debate	:	Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.
25 %		
Academic English portfolio	:	Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.
25 %		
Class participation	:	Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric.
20 %		
Higher order thinking skills	:	Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, summarizing, explanation. Assessed based on Professors' rubric.
10 %		
Project-based learning project	:	Theme and evaluation standards based on class and instructor choice. This includes a report to be submitted after class 14.
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Douglas, Hughes, Morgan	・World Link, Fourth Edition Level 2 Student Book	・Cengage Learning	・2021 年

参考文献等

ISBN: 9780357502174

履修上の注意・備考・メッセージ

Please bring a notebook.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： To Be Announced (TBA)

場所： TBA

備考・注意事項： TBA

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Semester 2 Orientation** Ice Breaker/Make teams Advanced English course introduction Explanation of evaluation methods Explanation of homework expectations Explanation of portfolio contents Review Higher Order Thinking Skills (HOTS), self-effi cacy, motivation, and time management.	Portfolio preparation	1時間
第2回	**LESSON A Parties p. 92** Plan a party, and make and respond to invitations p. 96 Higher Order Thinking Skills (HOTS): Summary writing	Get Ready to Get Messy p. 98	1時間
第3回	**LESSON B Festivals and Holidays p. 97** Invent an unusual holiday p. 102 Higher Order Thinking Skills (HOTS): Summary writing continued	Write about a holiday or festival p. 102	1時間
第4回	**LESSON A What's the Story About? p. 106** Tell stories with classmates and guess if they are true p. 110 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Critical thinking -	The Cinderella Story p. 112	1時間
第5回	**LESSON B Modern Fairy Tales p. 111** Find the differences between two fairy tale images p. 116 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Creative thinking -	Write a modern fairy tale p. 116	1時間
第6回	**LESSON A Skills and Qualities p. 120**	Asher Jay: Creative Conservationist p. 126	1時間

	Discuss job requirements and role-play a job interview p. 124 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Lateral thinking -		
第7回	**LESSON B Dream Jobs p. 125** Read a job ad and choose the best email response p. 130 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Divergent thinking -brainstorming	Write a formal email p. 130	1時間
第8回	**LESSON A On a Call p. 136** Role-play a customer service phone call p. 140 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Convergent thinking -facts p. 142	Have Smartphones Changed Our Lives for Better or for Worse?	1時間
第9回	**LESSON B Always Connected p. 141** Read and discuss informal messages p. 146 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Counterfactual thinking - “what if?” questions	Write informal messages p. 146	1時間
第10回	**LESSON A Then and Now p. 150** Describe how your life has changed in the past five years p. 154 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Synthesizing -	How Smart Is Your Home? p. 156	1時間
第11回	**LESSON B Making Life Better p. 155** Design a robot that solves a problem p. 160 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Metacognition -	Write about a robot p. 160	1時間
第12回	**LESSON A Before You Go p. 164** Decide as a group what to pack for a trip p. 168 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Evaluation - Judging correctness, quality, or benefits	Going Solo Is the Way to Go! p. 170	1時間
第13回	**LESSON B Adventures in Traveling p. 169** Discuss travel-related customer surveys p. 174 Higher Order Thinking Skills (HOTS):Abstract thinking - Theory	Write a customer satisfaction survey p. 174	1時間
第14回	**Presentations** Final Class Presentations Final presentations and course conclusion/wrap up. Higher Order Thinking Skills (HOTS):Identifying logical fallacies -critique, judgment, and logic. A final report will be submitted after class 14.	Complete academic portfolio, prepare for the final report.	1時間

532

授業科目名	**専門演習１【国観】**				
担当教員名	**原田弘之・辛川敬・金蘭正・中野毅・松田充史・尾崎文則**				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松田・中野・原田・辛川・尾崎は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本演習では、日本が基幹産業のひとつとして位置づける「観光」及び「グローバル産業」について現状を把握しながら、これまでの研究の流れや産業の仕組みなどを幅広く学んでいきます。具体的には、文献研究等を行い、経営学の主要な概念（例えば経営組織、流通システム、マーケティング、経営戦略等）を用い、さまざまなケースも取り上げ産業の課題に関する考察を行います。また外部講師による講義も取り入れ、グローバルな視野にたった持続可能な産業に対する理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	確かな専門性を磨くため観光関連産業及びグローバル産業の基本的な知識を身につける	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、観光関連産業及びグローバル産業の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業及びグローバル産業における経営戦略について理解する方法を身につける	経営学の点から観光関連産業及びグローバル産業を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		論理的に考え、課題を明らかにし、主体的・自主的に文献研究ができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他者の意見をよく聞き、自己の意図を正確に伝えることができる。
3. DP９.他者との協調・協働		集団やチームの中で自分の役割を果たし、全体に貢献することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	20 %	： テーマに沿って書かれているか、指定の形式に沿って書かれているかについて独自のルーブリックに基づいて評価する。
プレゼンテーション	20 %	： グループおよび個人の研究成果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講態度	20 %	： 演習への積極的な取り組み方に対し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）		： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を独自のルーブリックに基づいて評価する。

10　%

期中での提出物　：　テーマに対応して書かれているか、求めらる分析や考察が十分か、指定した様式に基づいて書かれているかについて評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ、岡田晃編著（2023)「経営の視点から考える『新しい観光学』」千倉書房、ISBN 978-4-8051-1275-5
高橋一夫、柏木千春編著(2016)「１からの観光事業論」碩学舎、ISBN 978-4-502-17281-6
小田部正明・栗木契・太田　一樹編著(2017)「1からのグローバル・マーケティング」碩学舎、ISBN978-4-502-21851-4
味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編（2017）『【改訂版】業種把握読本－時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社. ISBN 9784904192719
西川英彦・廣田章光編著（2012）『1からの商品企画』碩学舎. ISBN 978-4-502-69300-7
その他、随時、文献、論文等紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時にお知らせします

場所：　各研究室（西館）

備考・注意事項：　質問は各担当教員へのメールでも受け付けます。
その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、研究倫理** 授業の目的や目標、進め方など前期・後期授業の概要を説明し、卒業論文までのプロセスを解説する。 「研究倫理教育」：研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての確認を行う。 学修ポートフォリオを作成する。	図書館等での文献検索方法を復習しておくこと	4時間
第2回	**観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題①：旅行業** 定められた文献等をもとに旅行業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	旅行業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第3回	**観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題②：宿泊業** 定められた文献等をもとにすく宿泊業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	宿泊業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第4回	**観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題③：航空運送業** 定められた文献等をもとにすく航空運送業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	航空運送業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第5回	**観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題④：小売業** 定められた文献等をもとにすく小売業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	小売業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第6回	**観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題⑤：製造業** 定められた文献等をもとにすく製造業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	製造業についての最新の情報をネット等で調べておく。また事後に第７回に向けたプレゼン資料を作成する。	4時間
第7回	**観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題の分析・考察発表会** ２～６回に行ったワークの結果を踏まえて、関心ある産業を取り上げ、その現状と経営課題に関する要点と分析・考察についてプレゼン資料にまとめ、発表する。 学修ポートフォリオの中間評価を行う。	発表会のふりかえりシートを作成・提出	4時間
第8回	**観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク①：グループ立ち上げと業界リサーチ** 上記の２～６回のテーマの中から１を選び、そのテーマについて深堀するグループワークを行う。テーマに関心のあるメンバーでグループ形成する。基本条件として、テーマを選定し、そのテーマに対応した企業を複数選び、その企業研究を行うことで、その業界の現状と課題を整理し、分析及び考察する。 今回はグループの立ち上げと、テーマの決定、その業界のリサーチを行う。	自分が関心のある業界と企業についてネット等で調べておく	4時間
第9回	**観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク②：企業の選定とリサーチ**	関心のある企業についてネット等で情報収集しておく。	4時間

	前回の作業を受けて、今回は、業界内の代表的あるいは特徴的な企業を複数選定し、その企業についてリサーチを行う。		
第10回	**観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク③：比較検討と分析と考察** 前回の作業を踏まえて、複数企業に関して比較検討するとともに、その具体事例をもとに、業界の現状や課題、今後のあり方等について分析・考察する。	ふりかえりシートの作成と発表資料の構成イメージの検討	4時間
第11回	**観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク④：発表資料の作成** これまでの作業を踏まえて、発表資料の作成を、グループメンバーで分担しながら行う。また、発表のための準備を行う。	発表資料を完成させる。	4時間
第12回	**観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク⑤：発表会** グループ単位で発表を行い、オーディエンスは質疑応答と評価を行う。	プレゼンの評価シートを作成・提出する。	4時間
第13回	**観光関連産業及びグローバル産業に関する動画視聴** 観光関連産業及びグローバル産業に関する企業等の事例動画について視聴し、その分析・考察を行う。メンバーによる短時間の感想スピーチを行う。	動画視聴に関するふりかえりシートの作成	4時間
第14回	**まとめとふりかえり** 演習全体を総括し、期末レポート課題の提供、学修ポートフォリオの作成を行う。 レポート作成にあたり研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについて再確認する。	事前に演習全体のふりかえりを行っておく。	4時間

532

授業科目名	**専門演習２【国観】**				
担当教員名	**金蘭正・尾崎文則・中野毅・松田充史・原田弘之・辛川敬**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松田・中野・原田・辛川、尾崎は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本演習では、日本が基幹産業の一つとして位置づける「観光」及びグローバル産業について現状を把握しながら、これまでの研究の流れや観光関連産業等の仕組み、地域の観光振興事業など幅広く学んでいきます。具体的には、フィールド調査や文献研究等を行い、経営学の主要な概念（例えば流通システム、経営組織、マーケティング戦略等）を用いて企業のみならず地域の課題に関する考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、企業や地域における経営者や経営に関わる人材に求められる総合的な課題解決力や思考力を身につけることができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	確かな専門性を磨くため地域・自治体等地域組織の基本的な知識を身につける	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地域・自治体等地域組織について理解する方法を身につける	経営学の視点から地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		論理的に考え、課題を明らかにし、主体的・自主的に地域研究ができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他者の意見をよく聞き、自己の意図を正確に伝えることができる。
3. DP９.他者との協調・協働		集団やチームの中で自分の役割を果たし、全体に貢献することができる。

学外連携学修

有り(連携先：ＪＴＢ・高槻市観光協会・JA兵庫六甲など)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
フィールド調査参加	20 %	： 積極的にプロジェクトに参加し、グループ活動内の役割を果たしたかどうかについて、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
プレゼンテーション	20 %	： グループの研究成果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
期末レポート		： 深く内容を掘り下げているか、考察は十分かなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

20　%

ポートフォリオ（学びの記録）　：　「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を独自のルーブリックに基づいて評価する。

10　%

期中での提出物　：　テーマに対応して書かれているか、求めらる分析や考察が十分か、指定した様式に基づいて書かれているかについて評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ、岡田晃編著（2023）「経営の視点から考える『新しい観光学』」千倉書房、ISBN 978-4-8051-1275-5
髙橋 一夫、柏木 千春 他　『1からの観光事業論』　（碩学舎　2016）ISBN 978-4-502-17281-6
吉兼 秀夫、国枝 よしみ 他　『地域創造のための観光マネジメント講座』（学芸出版社2016）ISBN 978-4-7615-2635-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時にお知らせします

場所：　各研究室（西館）

備考・注意事項：　オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。
また、質問は各担当教員のメールでも受け付けます。
その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション** 授業の目的や目標、進め方など後期授業の概要を説明する。卒論までのプロセスを確認しながら、前期で学んだことを振り返る。観光関連の研究の紹介については、地域探究を行い、どのような課題があるか、その解決策を議論する。 また、研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについての確認も行います。 学修ポートフォリオを作成します。	前期の授業の復習をしておくこと	4時間
第2回	**国内外の観光をプロモートする旅行会社の仕事について学ぶ** 外部講師を招聘し、旅行会社の現状や仕事内容、取り巻く状況、今後の方向性等について学ぶ。	第２回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第3回	**地域観光の具体的な実態と運営を学ぶ** 外部講師として高槻市観光協会及び三田市観光協会・JA兵庫六甲等のスタッフを招聘し、高槻市あるいは三田市を事例にした、観光の実態や課題、今後の方向性について学ぶ。	第3回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第4回	**グループワーク①：地域観光企画の方向性の検討** ２回、３回の授業を踏まえて、高槻市あるいは三田市をフィールドとした地域観光企画（活性化方策等）の方向性について、グループワークにより検討する。	第４回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第5回	**グループワーク②：フィールドワークの準備** 次回にフィールドワークを行う前提で、そのための準備作業を行う。 考えた観光企画を、現場で検討するための確認事項の整理、フィールドの廻り方、時間配分などを詳細に検討する。	第５回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第6回	**グループワーク③：フィールドワークの実施** フィールドワークを実施する。第６回と第７回を合同で１日で開催する。	第６回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第7回	**グループワーク④：フィールドワークの実施** フィールドワークを実施する。第６回と第７回を合同で１日で開催する。	第７回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第8回	**グループワーク⑤：フィールドワークのふりかえりとプレゼン** フィールドワークのふりかえりと行い、その結果を、みんなで共有するためのプレゼン大会を行う。学修ポートフォリオの中間評価の実施。	第８回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第9回	**グループワーク⑥：地域観光企画の再検討** フィールドワークのふりかえりを踏まえて、地域観光企画の方向性について再検討を行う。	第９回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第10回	**グループワーク⑦：地域観光企画に関する事例リサーチ** 第9回で再検討した地域観光企画について、企画内容を深めるために、事例リサーチを行う。	第10回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第11回	**グループワーク⑧：地域観光企画のプレゼン資料の作成**	第11回授業で学習した内容を復習のこと	4時間

	次回に続いて、地域観光企画のブラッシュアップを行い、プレゼン資料としてまとめるともに、発表の準備を行う。		
第12回	**グループワーク⑨：プレゼン大会（ゼミ内予選）** ゼミ内での予選としてプレゼン大会を行う。オーディエンスは質疑応答とともに評価を行う。	第12回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第13回	**グループワーク⑩：プレゼン大会（学年全体での本戦）** ゼミ内予選で選定されたグループからなる学年全体での本戦を行う。オーディエンスは質疑応答とともに評価を行う。また、外部の審査委員も招聘する。	第13回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第14回	**学習のまとめとふりかえり** 演習全体の総括を行う。 期末レポート課題提供。 レポート作成にあたり研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについて再確認をおこなう。 学修ポートフォリオの作成。	これまでの学習内容を復習、まとめておく	4時間

533

授業科目名	専門演習３【国観】				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。（全１４回）				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回の授業にノートパソコンあるいはタブレットＰＣを持参すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 ３・４限目

場所： 島研究室（西館２階）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
（shima-m@osaka-seikei.ac.jp）メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題、研究倫理** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ	4時間
第2回	**基礎知識の習得** 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。	4時間
第3回	**先行研究の調査（１）調査計画の立案** 観光学の分野、特にホテル、ブライダル等接客サービス産業で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。	4時間
第4回	**先行研究の調査（２）先行研究の調査** 先行研究の調査を行う。	調査を進める。	4時間
第5回	**先行研究の調査（３）調査状況の報告** 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第6回	**先行研究の分析（１）先行研究の整理と内容分析** 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第7回	**先行研究の分析（２）自分の研究への応用** 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第8回	**先行研究の分析（３）研究方法について** 研究方法に着目し，先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第9回	**先行研究の分析（４）研究の到達点について** 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第10回	**研究テーマの設定** 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回	**仮説を立てる** 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**研究の方法を設定する** 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 卒業論文の構想発表会を実施する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

533

授業科目名	**専門演習３【国観】**				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	原田は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

毎回、各自所有のノートPCを持参のこと。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
受講態度	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 原田/水曜３限

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題、研究倫理** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ	4時間
第2回	**基礎知識の習得** 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。	4時間
第3回	**先行研究の調査（１）調査計画の立案** 観光学の分野で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。	4時間
第4回	**先行研究の調査（２）先行研究の調査** 先行研究の調査を行う。	調査を進める。	4時間
第5回	**先行研究の調査（３）調査状況の報告** 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第6回	**先行研究の分析（１）先行研究の整理と内容分析** 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第7回	**先行研究の分析（２）自分の研究への応用** 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第8回	**先行研究の分析（３）研究方法について** 研究方法に着目し，先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第9回	**先行研究の分析（４）研究の到達点について** 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第10回	**研究テーマの設定** 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回	**仮説を立てる** 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**研究の方法を設定する** 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 卒業論文の構想発表会を実施する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

533

授業科目名	**専門演習３【国観】**				
担当教員名	辛川敬				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辛川は40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
ノートパソコンを必ず持参すること。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 辛川/水4限

場所： 西館4階

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題、研究倫理** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ	4時間
第2回	**基礎知識の習得** 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。	4時間
第3回	**先行研究の調査（１）調査計画の立案** 観光学の分野で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。	4時間
第4回	**先行研究の調査（２）先行研究の調査** 先行研究の調査を行う。	調査を進める。	4時間
第5回	**先行研究の調査（３）調査状況の報告** 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第6回	**先行研究の分析（１）先行研究の整理と内容分析** 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第7回	**先行研究の分析（２）自分の研究への応用** 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第8回	**先行研究の分析（３）研究方法について** 研究方法に着目し，先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第9回	**先行研究の分析（４）研究の到達点について** 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第10回	**研究テーマの設定** 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回	**仮説を立てる** 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**研究の方法を設定する** 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 卒業論文の構想発表会を実施する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

533

授業科目名	専門演習３【国観】				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★ノートパソコン/タブレットを必ず持参すること★

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火3限

場所： 個人研究室（西館）

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題、研究倫理** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ	4時間
第2回	**基礎知識の習得** 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。	4時間
第3回	**先行研究の調査（１）調査計画の立案** 観光学の分野で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。	4時間
第4回	**先行研究の調査（２）先行研究の調査** 先行研究の調査を行う。	調査を進める。	4時間
第5回	**先行研究の調査（３）調査状況の報告** 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第6回	**先行研究の分析（１）先行研究の整理と内容分析** 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第7回	**先行研究の分析（２）自分の研究への応用** 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第8回	**先行研究の分析（３）研究方法について** 研究方法に着目し，先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第9回	**先行研究の分析（４）研究の到達点について** 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第10回	**研究テーマの設定** 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回	**仮説を立てる** 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**研究の方法を設定する** 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 卒業論文の構想発表会を実施する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

533

授業科目名	**専門演習３【国観】**				
担当教員名	尾崎文則				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社、コンサルティング会社、非営利組織におけるマーケティング実務経験。消費者調査を含む市場分 析、マーケティング戦略の立案と実行に従事。（全14回）				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。
特にマーケティング領域の理論・概念をもとにマーケティング現象や消費者行動を理解することに重点を置きます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマーケティングと消費者行動を理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織のマーケティングと消費者の行動を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

発表に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 研究構想に対して、社会的意義や着想の独自性などを独自のルーブリックに基づき評価する
プレゼンテーション	30 %	： 自身の問題意識や研究テーマ、研究デザインなどを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかなど独自のルーブリックに基づき評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み全般、特に受講者の発表時の傾聴態度や積極的な議論への貢献などを独自のルーブリックに基づき評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）		： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」など独自のルーブリックに基づき評価する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
明石芳彦	・ 社会科学系論文の書き方	・ ミネルヴァ書房	・ 2018　年

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※ノートパソコンを毎回必ず持参すること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所：　西館 4階 個人研究室94

備考・注意事項：　初回授業で案内する

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：マーケティング研究とは？** 本演習の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	提示する文献資料を読む	4時間
第2回	**基礎知識習得：文献調査方法** 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	「ベネフィット」「セグメンテーションとターゲティング」に関する発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第3回	**マーケティング概念理解①「ベネフィット」「セグメンテーションとターゲティング」** マーケティング分野の基礎的概念に対して共通の理解を図る。 特にベネフィット（顧客便益）、セグメンテーション・ターゲティングについて、発表と討議を行う。	「差別化」「マーケティング4P」に関する発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第4回	**マーケティング概念理解②「差別化」「マーケティング4P」** マーケティング分野の基礎的概念に対して共通の理解を図る。 特に差別化、マーケティング4Pについて、発表と討議を行う。	マーケティング領域に関する学術論文を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第5回	**マーケティング文献講読①学術論文（マーケティング領域）** 観光産業と関連のあるマーケティング領域の論文を輪読する。	消費者行動領域に関する学術論文を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第6回	**マーケティング文献講読②学術論文（消費者行動領域）** 観光産業と関連のある消費者行動領域の論文を輪読する。	研究テーマに関する文献資料を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第7回	**マーケティング研究方法①：研究テーマ** 研究方法について発表とワークを行い、その理解を深める。 特に研究テーマの検討を重点的に取り扱う。	先行研究に関する文献資料を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第8回	**マーケティング研究方法②：先行研究** 研究方法について発表とワークを行い、その理解を深める。 特に先行研究レビューを重点的に取り扱う。	理論と分析枠組に関する文献資料を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第9回	**マーケティング研究方法③：理論と分析枠組** 研究方法について発表とワークを行い、その理解を深める。 特に理論と分析枠組の策定を重点的に取り扱う。	リサーチクエッションに関する文献資料を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第10回	**マーケティング研究方法④：リサーチ・クエッション** 研究方法について発表とワークを行い、その理解を深める。 特にリサーチクエッションの導出を重点的に取り扱う。	エビデンスに関する文献資料を読み、発表資料の作成などの事前課題に取り組む	4時間
第11回	**マーケティング研究方法⑤：エビデンス** 研究方法について発表とワークを行い、その理解を深める。 特に説得力のあるエビデンスの提示を重点的に取り扱う。	研究構想発表のための準備を行う	4時間

第12回	**研究構想発表会（前半）** 卒業論文の構想発表会の前半を実施する。	発表を振り返る、もしくは研究構想発表のための準備を行う	4時間
第13回	**研究構想発表会（後半）** 卒業論文の構想発表会の後半を実施する。	発表を振り返る	4時間
第14回	**まとめ** 本演習の前期を振り返り、研究構想案のブラッシュアップに向けた取り組み課題を提示する。	期末レポートに取り組む	4時間

533

授業科目名	専門演習３【国観】				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 東出　個人研究室（西館４階）

備考・注意事項： Google ClassroomのGmail にていつでもお送りください

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・研究倫理について** 本講義の目標、内容、授業の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	研究倫理について予習と復習をしましょう	4時間
第2回	**卒業研究を進めるにあたって** 論文とレポートの違いについて理解します。 卒業研究に取り組むにあたって注意することを学修します。 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	既存の卒業論文を読んでおきましょう	4時間
第3回	**問題設定** タイトルの設定に向けて関心のあるテーマを見出します。 テーマについての問題設定と課題を考えます。 観光学の分野で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	各自関心のあるテーマについて調べましょう	4時間
第4回	**先行研究の検討** 文献などの調べ方について学びます。 図書館の利用方法ならびに論文検察の手法を理解します。	文献を調べてみましょう	4時間
第5回	**先行研究の調査** 関心のあるテーマに関する先行研究の調査を行います。 先行研究からテーマについての問いを立てます。	調査の内容をまとめましょう	4時間
第6回	**先行研究の整理** 関心のあるテーマの先行研究について整理します。 先行研究の中から、最も関心のある内容について、ディスカッションを行います。	各自先行研究を整理し、内容を熟読しておきましょう	4時間
第7回	**先行研修の分析** 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。 研究の構成・アプローチ、分析の視点について学びます。 ゼミ全体でディスカッションを行います。	関心のあるテーマに関して研究方法を考えましょう	4時間
第8回	**テーマに関する資料収集** テーマに関連する情報収集を行い、整理の方法を学びます。 研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについて学修します。	関心のあるテーマについての資料を収集しましょう	4時間
第9回	**テーマに関するデータ収集と分析** テーマに関連するデータの収集を行います。 データを分析します。ゼミ全体でディスカッションを行います。	テーマに関するデータを整理します	4時間
第10回	**リサーチクエッション** 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定します。 リサーチクエッションをたてます。	先行研究から問いをたてましょう	4時間
第11回	**仮説を立てる** テーマに関する疑問や問いに対して仮説を立てます 仮説を検証するための、研究方法を設定します。	仮説を考えてみましょう	4時間
第12回	**研究テーマのプレゼンテーションに向けて** 自身の研究テーマについてまとめます。 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究計画について発表するための資料を作成します。	発表用資料の準備、発表の練習をしておきましょう	4時間

第13回	**期末発表会** 研究計画についてプレゼンテーションを行います。 ゼミ内の発表を聞いて、質疑応答、相互評価を行います。	質疑応答の内容をまとめましょう	4時間
第14回	**研究計画書にまとめる** プレゼンテーションを終えて、自身の発表に対するコメントをもとに研究計画の再考を行います。 テーマの決定に向けて研究計画書を作成します。	研究計画のブラッシュアップを行いましょう	4時間

533

授業科目名	**専門演習３【国観】**				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（期末レポート）	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
受講態度	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 松田/水３限

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題、研究倫理** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ	4時間
第2回	**基礎知識の習得** 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。	4時間
第3回	**先行研究の調査（１）調査計画の立案** 観光学の分野で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。	4時間
第4回	**先行研究の調査（２）先行研究の調査** 先行研究の調査を行う。	調査を進める。	4時間
第5回	**先行研究の調査（３）調査状況の報告** 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第6回	**先行研究の分析（１）先行研究の整理と内容分析** 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第7回	**先行研究の分析（２）自分の研究への応用** 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第8回	**先行研究の分析（３）研究方法について** 研究方法に着目し，先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第9回	**先行研究の分析（４）研究の到達点について** 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第10回	**研究テーマの設定** 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回	**仮説を立てる** 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**研究の方法を設定する** 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 卒業論文の構想発表会を実施する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【国観】**				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。（全１４回）				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回の授業にノートパソコンあるいはタブレットＰＣを持参のこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 ３・４限目

場所： 島研究室（西館２階）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
（shima-m@osaka-seikei.ac.jp）メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 研究倫理、著作権と個人情報についての確認をする。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**研究テーマ・課題の共有** 受講生各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回	**研究デザインの修正** 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回	**調査企画** 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第5回	**調査票の作成** 調査票を作成する。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第6回	**調査企画についての共有** 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第7回	**調査企画の修正** 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第8回	**調査結果のまとめ①データ整理** 調査データを整理する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第9回	**調査結果のまとめ②データ分析** 調査データを分析する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	**調査結果のまとめ③データ考察** 調査結果の解析、考察を行う。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第11回	**卒業論文の枠組みの構築** 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**卒業論文の枠組みの修正と発表会資料の作成** 卒業論文の枠組みを修正した後、次回の発表資料の作成にとりかかる。	発表資料を仕上げ、発表の練習をしておく。	4時間
第13回	**発表会** 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。	質疑応答の内容をまとめるとともに、他者の論文との比較を通じて自身の論文内容の見直しと充実化の準備を始める。	4時間
第14回	**授業の総括** 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。 授業の総括として、卒業論文完成に向けて来年1年間の進捗管理のポイントについて提示する。	卒業研究進捗状況を振り返り、4年生の授業での自己目標を明確にする。	4時間

533

授業科目名	**専門演習４【国観】**				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	原田は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

毎回、各自所有のノートパソコンを持参のこと。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
受講態度	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 原田/水曜３限

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 研究倫理、著作権と個人情報についての確認をする。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**研究テーマ・課題の共有** 受講生各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回	**研究デザインの修正** 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回	**調査企画** 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第5回	**調査票の作成** 調査票を作成する。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第6回	**調査企画についての共有** 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第7回	**調査企画の修正** 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第8回	**調査結果のまとめ①データ整理** 調査データを整理する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第9回	**調査結果のまとめ②データ分析** 調査データを分析する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	**調査結果のまとめ③データ考察** 調査結果の解析、考察を行う。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第11回	**卒業論文の枠組みの構築** 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**卒業論文の枠組みの修正** 卒業論文の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 調査結果や卒業論文の枠組みについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り	4時間

533

授業科目名	**専門演習４【国観】**				
担当教員名	辛川敬				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辛川は40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
ノートパソコンを必ず持参すること。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限

場所： 西館4階

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 研究倫理、著作権と個人情報についての確認をする。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**研究テーマ・課題の共有** 受講生各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回	**研究デザインの修正** 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回	**調査企画** 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第5回	**調査票の作成** 調査票を作成する。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第6回	**調査企画についての共有** 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第7回	**調査企画の修正** 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第8回	**調査結果のまとめ①データ整理** 調査データを整理する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第9回	**調査結果のまとめ②データ分析** 調査データを分析する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	**調査結果のまとめ③データ考察** 調査結果の解析、考察を行う。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第11回	**卒業論文の枠組みの構築** 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**卒業論文の枠組みの修正、発表会の準備** 卒業論文の枠組みを構築する。 調査結果や卒業論文の枠組みについて発表するための資料を作成する。	論文作成のための資料収集とノート整理。発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第13回	**発表会** 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	発表の準備を確実に仕上げる。	4時間
第14回	**まとめ** 専門演習を振り返り、4年次に取り組むか課題を確認する。	発表で確認した課題を確認する。	4時間

533

授業科目名	専門演習４【国観】				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。★ノートパソコン/タブレットを必ず持参すること★

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火3限

場所： 個人研究室（西館）

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 研究倫理、著作権と個人情報についての確認をする。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**研究テーマ・課題の共有** 受講生各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回	**研究デザインの修正** 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回	**様々な調査方法** 定量的調査や定性的調査などを踏まえ、様々な調査方法についてレクチャーする。	調査方法についての資料収集と事前学習	4時間
第5回	**調査企画①/調査計画の立案** 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第6回	**調査企画②/調査対象者の選定・質問項目の考案** 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第7回	**調査企画についての共有** 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第8回	**調査企画の修正** 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第9回	**調査結果処理の計画** 調査結果の処理方法や考察について学習し、ご自身の調査結果の処理方法について具体化させる。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	**卒業論文の枠組みの構築** 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回	**卒業論文の枠組みの修正** 卒業論文の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**発表会の準備** 調査結果や卒業論文の枠組みについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第13回	**発表会** 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。	質疑応答の内容をまとめる。	4時間
第14回	**まとめ** 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

533

授業科目名	**専門演習４【国観】**				
担当教員名	尾崎文則				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社、コンサルティング会社、非営利組織におけるマーケティング実務経験。消費者調査を含む市場分 析、マーケティング戦略の立案と実行に従事。（全14回）				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。
特にマーケティング領域の理論・概念をもとにマーケティング現象や消費者行動を理解することに重点を置きます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマーケティングと消費者行動を理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織のマーケティングと消費者の行動を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

発表に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 研究計画に対して、社会的意義や着想の独自性、計画の妥当性などを独自のルーブリックに基づき評価する
プレゼンテーション	30 %	： 自身の問題意識や研究テーマ、研究デザインなどを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかなど独自のルーブリックに基づき評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み全般、特に受講者の発表時の傾聴態度や積極的な議論への貢献などを独自のルーブリックに基づき評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）		： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」など独自の

ルーブリックに基づき評価する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
明石芳彦	・ 社会科学系論文の書き方	・ ミネルヴァ書房	・ 2018　年

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※ノートパソコンを毎回必ず持参すること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所：　西館 4階 個人研究室94

備考・注意事項：　初回授業で案内する

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：研究デザイン** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 特に前期に取り組んだ、研究テーマ・先行研究・リサーチクエッション・エビデンスについて振り返り、研究計画書作成に向けたロードマップを理解する。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**研究デザイン：①研究テーマ** 関心のある観光関連のマーケティング現象、消費者行動について検討し、研究テーマ案を策定する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回	**研究デザイン：②先行研究レビュー(1)現象の理解** 研究テーマに関連した文献をレビューする。特に現象の理解に役立つ文献を中心にレビューする。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回	**研究デザイン：③先行研究レビュー(2)理論概念の理解** 研究テーマに関連した文献をレビューする。特に現象を説明しうる理論・概念に関する文献を中心にレビューする。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第5回	**研究デザイン：④先行研究レビュー(3)分析枠組みの検討** 先行研究を整理するための枠組みを検討し、枠組みのもとで先行研究を批判的に評価する。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第6回	**研究デザイン：⑤先行研究レビュー(4)研究課題の特定** これまでの先行研究に基づき、研究上の課題を特定する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第7回	**研究デザイン：⑥リサーチクエッション** 研究課題から、リサーチクエッションを導出し、検証すべき仮説を構築する。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第8回	**研究デザイン：⑦エビデンスと分析手法** 仮説の検証方法と必要なデータについて検討する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第9回	**研究デザイン：⑧分析手法（定量分析・定性分析）** 具体的な分析手法として定量分析・定性分析の手法に対する理解を深め、自身の研究に適した分析手法を選択する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	**研究デザイン：⑨研究論文執筆上の留意事項** 今後、研究論文の執筆上、留意しておくべき研究倫理や引用の作用などを復習する。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第11回	**研究デザイン：⑩研究計画の発表準備** 研究計画書案を作成し、次週以降に実施する研究計画発表会の準備を行う。	次週以降の研究計画発表の準備を行う	4時間
第12回	**研究計画発表会(前半)** 卒業研究の研究計画案について発表を行う。（前半）	発表の振り返りと次週発表の準備を行う	4時間
第13回	**研究計画発表会(後半)** 卒業研究の研究計画案について発表を行う。（前半）	発表に対するフィードバックを記録しておく	4時間
第14回	**まとめ** 後期の専門演習の取り組みを振り返り、次年度に向けた取り組み課題を提示する。	期末レポートに取り組む	4時間

533

授業科目名	専門演習４【国観】				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 東出　個人研究室（西館４階）

備考・注意事項： Google ClassroomのGmail にていつでもお送りください

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　観光産業の動向について** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認します。 観光産業の動向について調べ、社会的背景を考えます。	シラバスを熟読し、授業の到達目標を理解しましょう	4時間
第2回	**研究テーマの再検討** 専門演習３で取り組んできたテーマについて、研究の方向を再検討します。 各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有します。	構想発表会の資料をまとめましょう	4時間
第3回	**現地調査の方法** 研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについて確認します。 研究手法において倫理申請が必要な場合を理解します。	卒業研究のための資料収集と整理を行いましょう	4時間
第4回	**調査企画** 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案しましょう。 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させましょう。	調査方法について計画を立てましょう	4時間
第5回	**研究テーマの設定** 自身の研究テーマと目標設定を行います。 何を明らかにする研究とするのかテーマの意義を追究します。	先行研究を参考にテーマを設定しましょう	4時間
第6回	**研究テーマについて社会的背景** 研究テーマについて社会的動向を把握します。 何か課題となっているのか、大きな枠組みから考えます。	テーマに関する社会的背景を調べましょう	4時間
第7回	**研究テーマについて学術的背景** 研究テーマの先行研究の学術的背景をまとめます。 そのうえで、どのようなオリジナリティを目指すのか絞り込んでいきます。 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	テーマに関する学術的背景をまとめましょう	4時間
第8回	**卒業研究進捗状況の報告** 各自の研究のテーマおよび分析に関して報告します。 ゼミ内でディスカッションを行います。	ゼミ内の議論をまとめておきましょう	4時間
第9回	**研究計画書の作成** 各自のテーマ・課題に沿った研究計画書を作成します。 エビデンスにもとづいた計画書を進めていきます。	収集した資料とデータの分析を行いましょう	4時間
第10回	**研究計画書の修正** 研究計画書の内容についてフィードバックを行います。 コメントに対して、修正箇所を検討します。	研究計画を見直しましょう	4時間
第11回	**研究計画書の完成** 修正内容をもとに研究計画書を完成します。 卒業論文全体の枠組みを構築します。	研究テーマの大枠を構築しておきましょう	4時間
第12回	**プレゼンテーションに向けて** 卒業研究の枠組みについて発表するための資料を作成します。 春休み以降の具体的な計画を立てます。	発表用資料の準備、発表の練習をしましょう	4時間
第13回	**期末発表会** 卒業研究の枠組みについてプレゼンテーションを行います。 発表における質疑応答、相互評価により、ブラッシュアップします。	質疑応答の内容をまとめておきましょう	4時間
第14回	**まとめ　卒業研究発表会の聴講**	発表に対してコメント・疑問を考えましょう	4時間

４年生の卒業研究発表会を聴講して、自身の研究計画の立案ならびに分析方法の参考とします。 テーマの深堀について理解します。		

533

授業科目名	**専門演習４【国観】**				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松田・原田は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ	グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。
受講態度	30 %	： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 松田/水5限

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、観光が直面している課題** 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 研究倫理、著作権と個人情報についての確認をする。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**研究テーマ・課題の共有** 受講生各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回	**研究デザインの修正** 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回	**調査企画** 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第5回	**調査票の作成** 調査票を作成する。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第6回	**調査企画についての共有** 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第7回	**調査企画の修正** 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第8回	**調査結果のまとめ①データ整理** 調査データを整理する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第9回	**調査結果のまとめ②データ分析** 調査データを分析する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回	**調査結果のまとめ③データ考察** 調査結果の解析、考察を行う。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第11回	**卒業論文の枠組みの構築** 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回	**卒業論文の枠組みの修正** 卒業論文の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回	**発表会の準備** 調査結果や卒業論文の枠組みについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**発表会** 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。 期末レポートおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り	4時間

534

授業科目名	**専門演習５【国観】**				
担当教員名	本間哲也・原田弘之・金蘭正・松田充史・中野毅				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	原田・松田、中野は本科目に関連した観光産業・まちづくり等の実務経験を有し、本間も企業等での経験がある。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。卒業研究の完成年度として、専門演習3・4での成果を踏まえ、観光地および観光ビジネスのマネジメントに関する調査および卒業論文作成のための演習です。大学での4年間の学びの集大成として、日々の研鑽と努力の成果として取り組むべき重要な学びです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	DP1からDP10の総合的な到達	専門領域の知識・技能の理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		DP1からDP10の総合的な到達

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義、実践力として論理的構成（説得性）、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂、忠恕として不適切な内容の有無
研究過程	40 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、主体性、積極性、忠恕の心を持ったコメント等を評価する
研究発表（中間発表会）	10 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ・オリジナリティ、データと先行研究の参照、実践力として論理的構成（説得性）、資料（含スライド）の活用、発表技術、発表時間、協調性として質疑応答

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時にお知らせします

場所： 各研究室（西館）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、卒業論文作成の手順および研究倫理** 卒業研究の進め方やスケジュールについて確認する。 研究倫理教育として、著作権と個人情報の取り扱いについての確認をおこなう。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回	**卒業論文枠組みの見直し（研究課題）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、自ら設定した卒論の課題を見直し、より発展させる。	先行研究や参考文献を整理する。	4時間
第3回	**卒業論文枠組みの見直し（研究目的）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、自ら設定した卒論の目的をより明確にする。	先行研究や参考文献を整理する。	4時間
第4回	**卒業論文枠組みの見直し（理論的考察）** 収集した先行研究や参考文献に基づき、卒論のベースになる理論的考察について検討する。	先行研究や参考文献を整理する。	4時間
第5回	**卒業論文枠組みの見直し（研究の方法・オリジナリティ）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、研究の方法や自分の卒論でのオリジナリティについて検討する。	調査方法について既習事項を確認しておく。	4時間
第6回	**調査結果の妥当性について検討** 専門演習３・４の成果を踏まえ、実施済みの調査結果の妥当性について検討する。	調査結果や考察を確認しておく。	4時間
第7回	**資料収集と作業報告（１）先行研究** 研究の目的を達成するための先行研究を整理する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第8回	**資料収集と作業報告（２）文献レビュー** 研究の目的を達成するための資料や文献の内容が充分であるか検討する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第9回	**資料収集と作業報告（３）資料収集** 研究の目的を達成するための資料や文献収集が質、量ともに充分であるか検討する。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第10回	**資料収集と作業報告（４）資料整理** 研究の目的を達成するための資料や文献を整理しまとめる。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加する。	4時間
第11回	**卒業論文の作成（１）リサーチクエスチョン** 各自の進捗状況に合わせ、リサーチクエスチョンを明らかにし、卒論執筆に取り組む。	卒業論文の執筆	4時間
第12回	**卒業論文の作成（２）仮説の検討** 各自の進捗状況に合わせ、仮説の検証を中心に卒論執筆に取り組む。	卒業論文の執筆	4時間
第13回	**中間報告会の準備** 卒業論文の進捗状況を発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**中間報告会、前期の振り返り** 卒業論文の進捗状況をパワーポイントを用いて発表。 夏休み期間の継続した研究のための計画を確認する。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

534

授業科目名	**専門演習６【国観】**				
担当教員名	本間哲也・原田弘之・金蘭正・松田充史・中野毅				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松田・東出・原田、中野、国枝は本科目に関連した観光産業・まちづくり等の実務経験を有している。本間も企業等での経験を有する。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。卒業研究の完成年度として、新たな知見を創造します。そして、卒業論文を仕上げ研究発表をおこない、4年間の学びを確かなものとします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	DP1からDP10の総合	専門領域の知識・技能の理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		DP1からDP10の総合

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（卒業論文）	50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義、実践力として論理的構成（説得性）、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂、忠恕として不適切な内容の有無
研究過程	40 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、主体性、積極性、忠恕の心を持ったコメント等を評価する
研究発表	10 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ・オリジナリティ、データと先行研究の参照、実践力として論理的構成（説得性）、資料（含スライド）の活用、発表技術、発表時間、協調性として質疑応答

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回8時間の授業外学修が求められます。
大学での4年間の学びの集大成として、日々の研鑽と努力の成果として取り組むべき重要な学びです。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時にお知らせします

場所： 各研究室（西館）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、卒業論文進捗状況の確認** 卒業論文の進捗状況について確認する。 研究倫理教育として、著作権と個人情報の取り扱いについての確認を行う。	中間報告会でのコメントや質問に基づき、卒業論文全体の構成などについて検討する。	4時間
第2回	**卒業論文の作成（１）中心命題の確認** 研究課題の設定において、結論に導くための裏付けとなる資料の確保は出来るかについて確認する。	卒業論文の執筆	4時間
第3回	**卒業論文の作成（２）近接問題の検討** 研究のアプローチに論理的な矛盾はないか確認する。	卒業論文の執筆	4時間
第4回	**卒業論文の作成（３）証拠の積み上げ** 研究課題を解決するためのベースとなる理論や結論の裏付けとなる資料を積み上げる。、	卒業論文の執筆	4時間
第5回	**卒業論文の作成（４）証拠の選択** 収集した資料の中から、論理的に矛盾がなく、結論に導くためのより妥当な証拠を選択する。	卒業論文の執筆	4時間
第6回	**卒業論文の作成（５）表現の検討** 論理的に矛盾している所はないか、結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認する。	卒業論文の執筆	4時間
第7回	**卒業論文進捗状況の報告** これまでの卒業論文の進捗状況について発表する。	卒業論文の目的と目的を達成するためのプロセスや結論に導くための裏付けの適性性について確認する。	4時間
第8回	**卒業論文の作成（６）修正** 全体の構成や書式などを確認しながら、修正・追加する。	卒業論文を修正する。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（７）新しいデータの追加** 結論に導くための理論や裏付けとなる資料は充分であるか確認し、新しいデータを追加する。	卒業論文を修正する。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（８）完成** 全体の構成や書式などを確認しながら、論文を完成させる。	卒業論文を修正する。	4時間
第11回	**卒業論文発表会の準備（１）資料準備** 卒業論文の成果を発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第12回	**卒業論文発表会の準備（２）パワーポイント作成** 卒業論文の成果をパワーポイントを用いて発表。	卒業論文全体の学びについての振り返り。	4時間
第13回	**ゼミ内で卒業論文発表会のリハーサル** 全体の卒業論文の発表会に向け、ゼミ内でリハーサルを行う。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回	**卒業論文発表会** 卒業論文の成果をパワーポイントを用いて発表。	卒業論文全体の学びについての振り返り。	4時間